

佐賀市文化財調査報告書第39集

ひさ ども
久 富 遺 跡

— 1 区 の 調 査 —

平成4年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

この報告書は、平成2年度農業基盤整備事業の施工に先がけて、佐賀市教育委員会が平成2年度に発掘調査を実施した久富遺跡1区の発掘調査報告書であります。

佐賀市金立町に所在する久富遺跡においての調査は、昭和58年度に実施した発掘調査に続き、今回が2例目であります。

今回の調査においては、古墳時代前期の遺構・遺物が注目されるものと思われれます。特に、A地区で検出した大溝から出土した遺物の中には、黒漆を塗った甕や「山陰系土器」と呼ばれる土器群が含まれており、これらの土器をとってみても、当時の他地域との盛んな交流の一端を垣間見ることができます。今回の調査は調査区が狭かったこともあって、遺跡の全体像に迫ることはできませんでしたが、今後の調査によって全容が明らかになることを期待しております。

また、これらの貴重な資料がこの発掘調査報告書とともに、皆様による郷土の文化財への愛護、認識と理解への一助となれば幸甚に存じます。

なお、発掘調査から報告書発刊にいたるまで、地元の皆様をはじめとする関係各位から賜りました深いご理解と多大なるご協力に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

平成4年3月

佐賀市教育委員会

教育長 山田 清人

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成2年度に調査を実施した久富遺跡1区（A・B・C地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀県農林部の委託を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査の所在および規模などは以下のとおり。

遺跡登録番号	2062・4022・5042	遺跡略号	HDM-1-A・B・C
調査地地籍	佐賀県佐賀市金立町大字千布字久富1487ほか	開発面積	140,000m ²
調査対象面積	13,750m ²	調査実施面積	1,376m ²
遺跡調査番号	0202	調査期間	平成2年7月13日～9月17日

なお、昭和58年度調査の久富遺跡A・B区の調査区名称は以下のよう読み替える。

久富遺跡A区（HDM-A）→久富遺跡0区A地区（HDM-0-A）

久富遺跡B区（HDM-B）→久富遺跡0区B地区（HDM-0-B）

4. 発掘作業・整理作業・報告書作成の分担は以下のとおり。

表土除去	有限会社 松尾工建
空中写真	有限会社 空中写真企画
遺構実測	埋蔵文化財サポートシステム、龍由美子・副島カスミ・木島慎治
遺構・遺物写真	木島
遺物復元	西首金子・吉田典子
遺物実測	浜野里美・楠本正士・古賀章彦・木島
製図	楠本・古賀・木島

5. 調査・整理記録類は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121）で保管している。また、出土遺物については、I種資料を佐賀市文化財資料館で、II種資料を佐賀市循誘収蔵庫で保管している。巻末の収蔵品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆・編集は、木島がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号をつけ、番号の前に遺構分類記号をつけた。分類一覧は以下のとおり。

SA：柵列	SB：掘立柱建物	SC：箱式石棺墓・石蓋土壙墓	SD：溝	SE：井戸	SH：竪穴住居	SJ：甕棺墓
SK：土壙	SP：土壙墓・木棺墓	SR：周溝状遺構	SS：支石墓	ST：古墳	SX：不明遺構	P：小穴・柱穴

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物についてはcm単位で表記する。
3. 特に注記のないかぎり、図中に表示した方位はすべて座標北（G. N.）である。

本文目次

I. 序説	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
III. 調査の概要	6
1. 調査区設定等の概要	6
2. 遺跡の概要	6
IV. 調査の記録	9
1. A地区の遺構と遺物	9
(1) 弥生時代の遺構と遺物	9
(a) 竪穴住居と出土遺物	9
(b) 土壙と出土遺物	11
(c) 井戸と出土遺物	13
(2) 古墳時代の遺構と遺物	14
(a) 掘立柱建物と出土遺物	14
(b) 井戸と出土遺物	15
(c) 溝と出土遺物	15
2. C地区の遺構と遺物	45
(1) 弥生時代の遺構と遺物	45
(a) 土壙と出土遺物	45
V. 小結	50

挿 図 目 次

Fig. 1	久富遺跡周辺主要遺跡分布図 … 3	Fig. 2	久富遺跡調査区位置図 …………… 7
Fig. 3	久富遺跡1区A地区遺構配置図 … 8	Fig. 4	SH102竪穴住居実測図 …………… 9
Fig. 5	SH102出土遺物実測図 ……………10	Fig. 6	SK105土壙実測図……………11
Fig. 7	SK107土壙実測図……………11	Fig. 8	SK105・SK107・SK109出土遺物実測図 …12
Fig. 9	SE109井戸実測図……………13	Fig.10	SB110掘立柱建物実測図……………14
Fig.11	SE104井戸実測図……………15	Fig.12	SE104出土遺物実測図……………15
Fig.13	SD101・SD103溝実測図 ……………16	Fig.14	SD101出土遺物実測図(1) ……………17
Fig.15	SD101出土遺物実測図(2) ……………19	Fig.16	SD101出土遺物実測図(3) ……………21
Fig.17	SD101出土遺物実測図(4) ……………22	Fig.18	SD101出土遺物実測図(5) ……………23
Fig.19	SD101出土遺物実測図(6) ……………25	Fig.20	SD101出土遺物実測図(7) ……………26
Fig.21	SD101出土遺物実測図(8) ……………27	Fig.22	SD101出土遺物実測図(9) ……………29
Fig.23	SD101出土遺物実測図(10)……………30	Fig.24	SD101出土遺物実測図(11)……………32
Fig.25	SD101出土遺物実測図(12)……………33	Fig.26	SD101出土遺物実測図(13)……………35
Fig.27	SD101出土遺物実測図(14)……………36	Fig.28	SD101出土遺物実測図(15)……………37
Fig.29	SD101出土遺物実測図(16)……………39	Fig.30	SD101出土遺物実測図(17)……………40
Fig.31	SD101出土遺物実測図(18)……………41	Fig.32	SD101出土遺物実測図(19)……………43
Fig.33	SD101出土遺物実測図(20)……………44	Fig.34	久富遺跡1区C地区遺構配置図 …45
Fig.35	SK301土壙実測図……………46	Fig.36	SK301出土遺物実測図(1) ……………47
Fig.37	SK301出土遺物実測図(2) ……………48	Fig.38	SK302土壙実測図……………49
Fig.39	SK302出土遺物実測図……………48	Fig.40	久富遺跡古墳時代遺構配置概略図 …51
Fig.41	久富遺跡0区B地区SD006出土遺物実測図 ……52		

図 版 目 次

PL.1	1.久富遺跡1区(A・B・C地区)全景(東から) 2.久富遺跡1区A地区近景
PL.2	1.SD101溝及びSB110掘立柱建物 2.SD101溝土層断面(北から) 3.SB102竪穴住居(東から)
PL.3	1.SE104井戸(西から) 2.SK301土壙(北から)
PL.4	SD101出土遺物
PL.5	SD101・SE104出土遺物

I. 序 説

1. 調査に至る経過

佐賀市金立町^{きんりゅう}において農業基盤整備事業が起工されたのは、平成2年度であった。圃場整備工区は東西に走行する主要県道^{おぎ}小城・北茂安線^{きたしげやす}によって南北に分割されており、北側の金立北部地区、南側の金立南部地区の2工区が設定されている。今回調査を行なった^{ひさどみ}久富遺跡1区は金立南部地区において確認されたものである。

平成2年度の金立南部地区における農業基盤整備事業は、14haを対象に工事計画が策定された。これに伴い、佐賀市教育委員会が平成元年11月に当該地区の埋蔵文化財確認調査を実施した。この結果、13,750㎡に及ぶ遺跡の存在が確認された。この調査結果を受けて、佐賀県農林部、佐賀県文化課（現 佐賀県文化財課）、佐賀市土地改良課、佐賀市教育委員会の四者で、埋蔵文化財の保護に関する協議を実施した。協議の結果、工事に際し削平を免れない1,376㎡について発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録による保存を図ることとなった。

発掘調査は平成2年7月13日から開始した。調査地における湧水の激しさには随分と悩まされたが、同年9月17日にすべての現場作業を終了した。出土遺物・調査記録の整理作業及び調査報告書の作成は平成2年12月から平成4年3月にかけて、佐賀市文化財資料館で行なった。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

[平成2年度] (発掘調査)

事務局 佐賀市教育委員会 社会教育課
 社会教育課長 古川靖邦
 課長補佐兼文化係長 中野和彦
 事務吏員 甲木亮一 (庶務担当)
 事務吏員 前田達男 (試掘担当)
 事務吏員 木島慎治 (調査担当)

[平成3年度] (報告書作成)

事務局 佐賀市教育委員会 文化課
 文化課長 中野和彦
 文化係長 野口義通 (庶務担当)
 事務吏員 甲木亮一 (庶務担当)
 文化財係長 福田義彦
 事務吏員 木島慎治 (報告書担当)

発掘作業員 広瀬八重子・広瀬幸子・村川キクエ・生田美代子・古賀主殿・江下生子・宮崎久枝・野中マツエ・大林里子・武富サチコ・武富ヨシエ・福田トシエ・福田妙子
 調査協力 佐賀県教育委員会・佐賀県農林部・中部農林事務所・佐賀市土地改良課・久保泉土地改良区・地元各位

II. 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

久富遺跡^{ひきどみ}は佐賀県佐賀市金立町大字千布字久富^{さが さが きんりゆう ちふ ひきどみ}に所在する。今回の調査地点（久富遺跡1区）の地籍は大字千布字久富1487番地ほかである。

佐賀県の県都である佐賀市は佐賀県の東南部に位置する。市域は佐賀平野の中央部に占地する形で、脊振山系^{せふり}から有明海沿岸に及んでおり、東は神埼郡神埼町・同郡千代田町・佐賀郡諸富町^{かんだき かんざき ちよだ もろ}、西は佐賀郡大和町・小城郡三日月町、北は佐賀郡大和町、南は佐賀郡東与賀町・同郡川副町^{ひがしよ か}と接している。地形的に概観すると、脊振山系の南麓部、そこから有明海へ南流する河川（嘉瀬川^{かせ}、巨勢川^{こせ}など）により形成された複合扇状地や中位段丘、その南域に広がる平坦な沖積地、というように北から南へとこのような地形の流れを捉えることができる。

久富遺跡は、地形的には複合扇状地、しかも、沖積地との境に近い、扇状地の先端部分付近に立地している。遺跡の東方約300mの地点には巨勢川がほぼ南北に流路をとって流れており、巨勢川から東域には弥生後期の大集落である村徳永遺跡^{むらとくなが}が存在し、一方、久富遺跡の西隣には弥生中期の甕棺墓群^{ひがしちよ}の調査が行なわれた東千布遺跡が存在する。

2. 歴史的環境

佐賀市北部も含め、脊振山南麓及び平野部一体は遺跡の宝庫と呼ばれるほどの遺跡密集地として知られている。以下、Fig.1の範囲内を中心に周辺遺跡の様相を時代順に概観する。

旧石器時代^{くぼいずみ}では、久保泉町の西原遺跡^{にしはら}¹⁾や藤附E遺跡^{とうつけ}²⁾において断片的な資料が知られるのみであり、概要については現在のところ明らかでない。今後の調査に期待したい。

縄文時代^{すずくま}ではいくつかの調査が行なわれ、良好な資料も得られている。佐賀市久保泉町においては、鈴熊遺跡^{すずくま}³⁾・西原遺跡^{にしはら}¹⁾で晩期、藤附A遺跡^{とうつけ}⁴⁾では後期、丸山遺跡^{まるやま}⁵⁾では早期～晩期の資料が、また、佐賀市金立町においては、金立開拓遺跡^{きんりゆうかいたく}⁶⁾⁷⁾で早期・前期・後期・晩期、大門遺跡^{だいもん}⁸⁾⁹⁾では前期・後期・晩期、来迎寺遺跡^{らいこうじ}¹⁰⁾では中期・後期の資料が得られている。その他、六本黒木遺跡^{ろっぽんくろき}や大門西遺跡^{だいもんせい}¹¹⁾においても当該期の資料が得られている。縄文時代の遺跡は脊振山麓を中心に分布する。しかし、新発見の佐賀市金立町東名遺跡^{ひがしみやう}¹²⁾は標高4m前後の低平な水田部に存在し、しかも、無遺物層と判断され調査に及ぶことの少なかった粘土層から早期土器が検出されるなど、これまでの調査成果とは異なった様相を呈している。よって今後の低地遺跡の調査においては縄文遺跡の存在の可能性を念頭において調査を行なう必要があるだろう。

弥生時代に入ると、遺跡数及び遺跡の分布範囲は飛躍的な増大、南域への拡大化が展開され

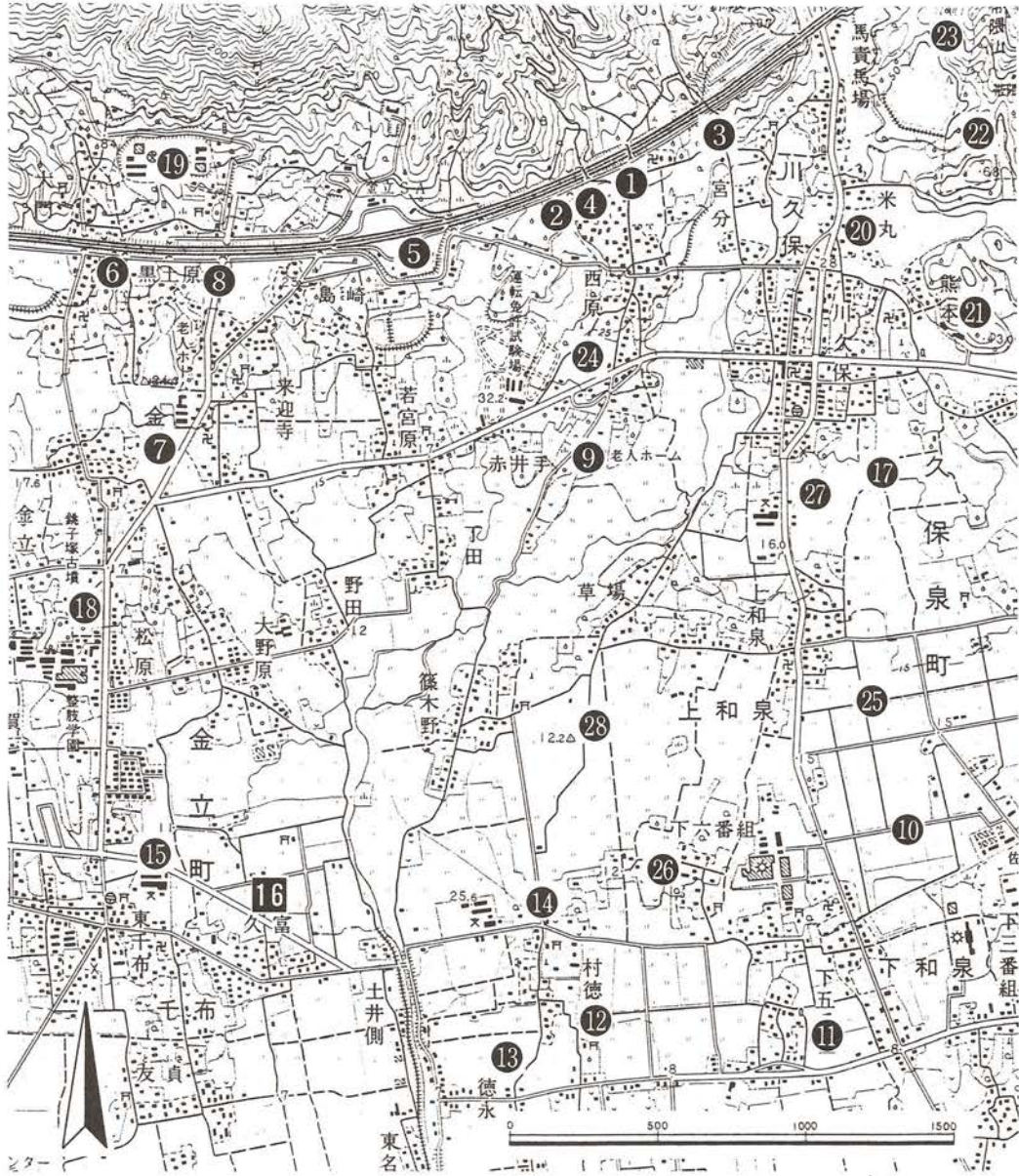


Fig. 1 久富遺跡周辺主要遺跡分布図 (1/25,000)

- | | | | | |
|---------|----------------|------------------|--------------|----------|
| ① 西原遺跡 | ② 藤附遺跡群 | ③ 鈴能遺跡 | ④ 丸山遺跡 | ⑤ 金立開拓遺跡 |
| ⑥ 大門遺跡 | ⑦ 来迎寺遺跡 | ⑧ 六本黒木遺跡 | ⑨ 琵琶原遺跡 | ⑩ 泉三本栗遺跡 |
| ⑪ 立野遺跡 | ⑫ 村徳永遺跡(A~D地区) | ⑬ 村徳永遺跡(E~J・L地区) | ⑭ 村徳永遺跡(K地区) | ⑮ 東千布遺跡 |
| ⑯ 久富遺跡 | ⑰ 東高田遺跡 | ⑱ 銚子塚古墳 | ⑲ 黒土原遺跡 | ⑳ 関行丸古墳 |
| ㉑ 熊本山古墳 | ㉒ 帯隈山神籠石 | ㉓ 神籠池窯跡 | ㉔ 大日遺跡 | ㉕ 上和泉遺跡 |
| ㉖ 古村遺跡 | ㉗ 原ノ町遺跡 | ㉘ 徳永遺跡 | | |

II. 遺跡の位置と環境

る。主な遺跡としては久保泉町では琵琶原遺跡¹³⁾ (後期～終末の集落遺跡)、泉三本栗遺跡¹⁴⁾ (前期～中期の集落遺跡)、立野遺跡¹⁵⁾ (中期の集落遺跡)、村徳永遺跡F～L区^{16)～19)} (中期～後期の集落遺跡)、南宿遺跡²⁰⁾ (中期～後期の集落遺跡)、金立町では東千布遺跡²¹⁾ (前期～中期の甕棺墓群) などがある。特に、琵琶原遺跡では50数軒の竪穴住居を検出し、また、村徳永遺跡F～L区においては掘立柱建物、竪穴住居を多数検出しており、ともに各地域の拠点集落である可能性が高い。また、地図の範囲をこえるが、佐賀市西部の嘉瀬川中流域に存在する鍋島本村南遺跡²²⁾は、細形銅剣・細形銅戈鏃型・石製把頭飾とともに擬朝鮮系無文土器が出土しており、国内における青銅器生産を考える上で重要な資料を提供している。

古墳時代では、久保泉町琵琶原遺跡¹³⁾・西原遺跡¹⁾・泉三本栗遺跡¹⁴⁾・村徳永遺跡¹⁸⁾・東高田遺跡²³⁾・金立町久富遺跡²¹⁾などで集落遺跡の調査が行なわれているが、いずれも断片的な調査にとどまっており、集落の全体像を把握するには今後の調査に待たなければならない。集落遺跡の調査に比較すると、墳墓の調査は充実している。金立町銚子塚古墳²⁴⁾・西隈古墳²⁵⁾・金立開拓遺跡⁷⁾・久保泉町黒土原遺跡²⁶⁾・丸山遺跡⁵⁾・関行丸古墳²⁷⁾・西原古墳²⁾・熊本山古墳²⁸⁾など数多くの調査がある。また、他には、朝鮮式山城とされる帯隈山神籠石²⁸⁾や須恵器窯である神籠池窯跡などがある。

奈良時代・平安時代では、久保泉町大日遺跡²⁹⁾・上和泉遺跡³⁰⁾・泉三本栗遺跡¹⁴⁾・古村遺跡²⁰⁾・原ノ町遺跡²³⁾・東高田遺跡²³⁾・村徳永遺跡³¹⁾・徳永遺跡³⁾・南宿遺跡²³⁾などの調査例がある。大日遺跡では、奈良時代の竪穴住居を伴わない掘立柱建物群が、原ノ町遺跡では整然と配列された奈良時代の掘立柱建物群が検出されている。上和泉遺跡や泉三本栗遺跡では平安時代の良好な一括資料が検出されている。また古村遺跡においては緑釉陶器が出土している。

中世においては、近年調査例の増加が著しい。調査遺跡は、立野遺跡¹⁵⁾・村徳永遺跡¹⁷⁾³¹⁾・本村遺跡²⁰⁾³²⁾³³⁾・徳永遺跡などがある。特に本村遺跡では一辺40～70mの方形区画溝を伴う居館跡が、徳永遺跡2区 (現在調査中) では、一辺100～130mを測る方形区画溝を伴う居館跡が検出されている。文献史学からのアプローチも含め、今後の調査に大いに期待がもたれる。

引用・参考文献

- 1) 佐賀県教育委員会 1983 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 西原遺跡』
佐賀県文化財調査報告書第66集
- 2) 佐賀県教育委員会 1980 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 大門西遺跡』
佐賀県文化財調査報告書第51集
- 3) 佐賀県教育委員会 1981 『鈴熊遺跡』『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報』第4集
- 4) 佐賀県教育委員会 1981 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(2) 香田遺跡』
佐賀県文化財調査報告書第57集
- 5) 佐賀県教育委員会 1986 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(5) 久保泉丸山遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第84集
- 6) 佐賀市教育委員会 1974 『金立開拓遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第10集
- 7) 佐賀県教育委員会 1984 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 金立開拓遺跡』
佐賀県文化財調査報告書第77集
- 8) 佐賀市教育委員会 1972 『大門遺跡-第1次調査-』 佐賀市文化財調査報告書第8集
- 9) 佐賀市教育委員会 1973 『大門遺跡-第2次調査-』 佐賀市文化財調査報告書第9集
- 10) 佐賀市教育委員会 1990 『来迎寺遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第27集
- 11) 佐賀県教育委員会 1980 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 大門西遺跡』
佐賀県文化財調査報告書第51集
- 12) 佐賀市教育委員会による確認調査により新発見。本調査については現在のところ未定。
- 13) 佐賀市教育委員会 1981 『琵琶原遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第13集
- 14) 佐賀市教育委員会 1987 『和泉三本栗遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第18集
- 15) 佐賀市教育委員会 1989 『立野・村徳永遺跡 (C地区)』 佐賀市文化財調査報告書第24集
- 16) 佐賀市教育委員会 1990 『村徳永遺跡-E・F・G・H地区の調査-』 佐賀市文化財調査報告書第32集
- 17) 佐賀市教育委員会 1991 『村徳永遺跡-J地区の調査-』 佐賀市文化財調査報告書第34集
- 18) 佐賀市教育委員会 1992 『村徳永遺跡 (K地区)・篠木野遺跡 (1区)』 佐賀市文化財調査報告書
第37集
- 19) 佐賀市教育委員会 1992 『村徳永遺跡-L地区の調査-』 佐賀市文化財調査報告書第42集
- 20) 佐賀市教育委員会 1990 『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡』 佐賀
市文化財調査報告書第28集
- 21) 佐賀市教育委員会 1985 『東千布遺跡 (東千布遺跡・久富遺跡)』 佐賀市文化財調査報告書第15集
- 22) 佐賀市教育委員会 1991 『鍋島本村南遺跡-1・2区の調査-』 佐賀市文化財調査報告書第35集
- 23) 佐賀市教育委員会 1992 『原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫛木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡』 佐賀市文化財調
査報告書第38集
- 24) 佐賀市教育委員会 1976 『銚子塚』
- 25) 佐賀市教育委員会 1975 『西隈古墳』
- 26) 佐賀市教育委員会 1987 『黒土原遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第19集
- 27) 佐賀県教育委員会 1958 『佐賀市関行丸古墳』 佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告書第七輯
- 28) 佐賀県教育委員会 1967 『帯隈山神籠石とその周辺』 佐賀県文化財調査報告書第16集
- 29) 佐賀市教育委員会 1989 『大日遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第25集
- 30) 佐賀市教育委員会 1988 『上和泉遺跡-A・B・C地区-』 佐賀市文化財調査報告書第25集
佐賀市教育委員会 1988 『上和泉遺跡-D・E地区-』 佐賀市文化財調査報告書第25集
- 31) 佐賀市教育委員会 1989 『村徳永遺跡 (A・B地区)』 佐賀市文化財調査報告書第26集
- 32) 佐賀県教育委員会 1991 『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書3 本村遺跡』
佐賀県文化財調査報告書第102集
- 33) 佐賀市教育委員会 1990 『本村遺跡-1・2区の調査-』 佐賀市文化財調査報告書第29集

III. 調査の概要

1. 調査区設定等の概要

調査は、機械力による表土除去作業から行なった。遺構検出面まで掘削後、5m方眼を単位としたグリッドの設定を行なった。グリッドは、国土座標系第II系を基準とし、 $X=+34^{\circ}050$ 、 $Y=-64^{\circ}530$ の交点を始点として、そこから南にAA、AB、AC…、東に1、2、3…、と名称を与え、各グリッドについてはAA-1、AB-2のように表示することとした。発掘調査における遺構配置図の作成、遺構図の作成、調査報告書における遺構の説明等、すべて設定したグリッドに基づいて行なった。

調査地は2地点に別れており、その内1地点は現有水路により2分割されていたため、調査地区を3地区に分割設定し、北側からA地区、B地区、C地区とした。調査区名称は、久富遺跡1区A地区（HDM-1-A）のように表記する。遺構番号は調査区間における重複を避けるため、A地区に100番台、B地区に200番台、C地区に300番台の番号を与えた。

なお、「例言」の項にも述べたが、昭和58年度に調査を行なった久富遺跡はアルファベットによる調査区名称が設定されているが、今後の調査の増加を考慮して、前回の調査も含め調査区名称を、今後は算用数字による表記で行なうものとする。したがって、久富遺跡A、B区（HDM-A、B）は今後、久富遺跡0区A、B地区（HDM-0-A、B）とする。

2. 遺跡の概要

調査の結果、久富遺跡1区は弥生時代中期と古墳時代前期を主体とすることが明らかになった。遺構検出面は明黄褐色粘質土（ないしは砂質土）～暗茶褐色粘質土（ないしは砂質土）層で、40～60cm下部から青灰色粘土層へと次第に変化している。遺物包含層は存在せず、遺構検出面上には耕作土が30～50cm程度堆積していた。遺構埋土はやや粘性を帯びた黒褐色土を基本としている。弥生時代と古墳時代の遺構埋土自体には大きな相違はみられなかった。

A地区において検出した主要な遺構は、弥生時代では竪穴住居1軒、土壇1基、古墳時代では掘立柱建物1棟、大溝2条、井戸1基である。B地区においては遺構・遺物は検出されなかった。しかもA地区の東端部からB地区にかけて急激に地形が落ち込んでおり、明確な地山も検出できなかった。C地区においては、弥生時代の土壇3基、溝1条が主要な遺構として検出された。古墳時代の遺構・遺物はまったく検出されていない。

今回の調査において、最も注目されるのが、A地区で検出された遺構・遺物である。詳細は「IV. 調査の記録」に譲り、ここでは簡単に触れておく。SD101及びSD103大溝は幅約4.2m、深さ

0.7~0.9mを測り、弧を描きながら巡っており、中途には陸橋部を思わせる12m程度の空間をもっている。大溝の内側には1間×2間の掘立柱建物が存在する。掘立柱建物と大溝との関連性は現在のところ確定しがたいが、溝と掘立柱建物の主軸がほぼ同一であること、また、掘立柱建物の柱穴の掘方形から判断して弥生時代の所産とは考えにくいことなどから考えれば、両者が同一時期の遺構である可能性は高いといえよう。また、大溝の性格についても現在のところ明らかにできないが、その形状は環濠を想起させるものがあり非常に興味深い。大溝からは多くの古式土師器が出土しているが、その中でも特に山陰系土器甕や布留式土器甕の外器面に黒漆状樹脂を塗布したものが存在することやいわゆる山陰系土器も多く含まれているなど、非常に良好な資料を提供している。この大溝については、昭和58年度に実施された久富遺跡0区B地区の調査において検出されたSD006溝と形状・堆積状況・出土遺物などの類似点が多く、その関連性がおおいに考えられる。

今回の調査で、この地区において比較的希薄であった古墳時代の遺跡のひろがりや断片的にも確認できた成果は大きいといえよう。今後の調査に期待したい。

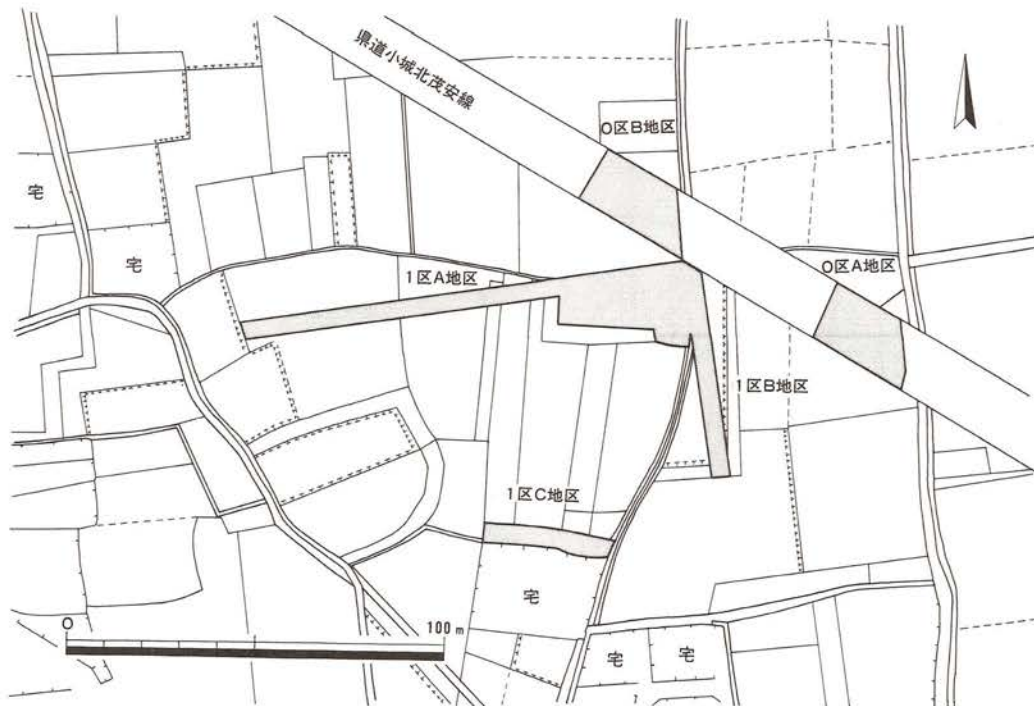


Fig.2 久富遺跡調査区位置図 (1/2,000)

IV. 調査の記録

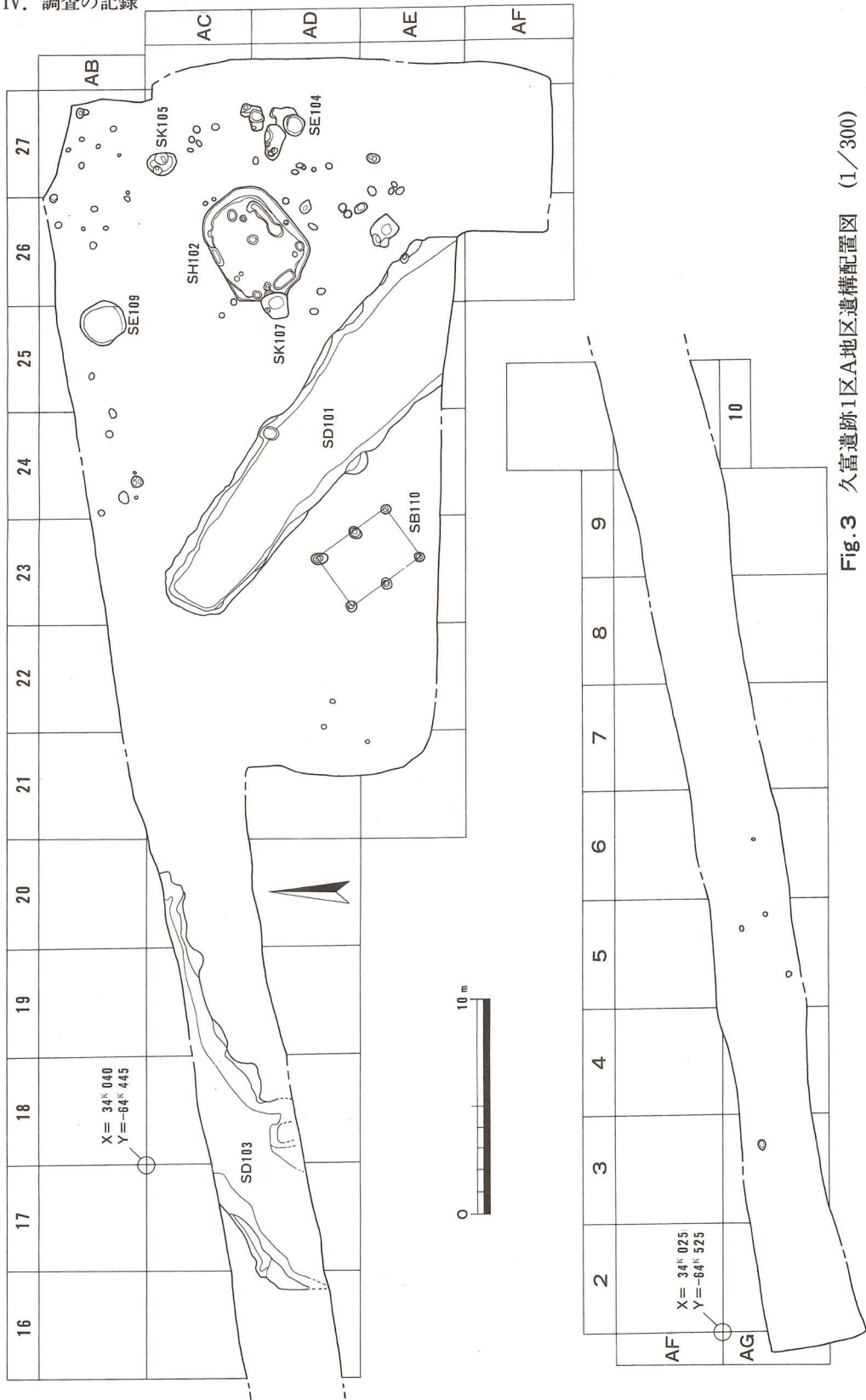


Fig.3 久富遺跡I区A地区遺構配置図 (1/300)

IV. 調査の記録

1. A地区の遺構と遺物

A地区においては、弥生時代と古墳時代の遺構・遺物を検出した。検出した主な遺構は、弥生時代の竪穴住居1軒、土塋2基、井戸1基、古墳時代の掘立柱建物1棟、井戸1基、大溝2条である。以下、時代別に報告を行なう。

(1) 弥生時代の遺構と遺物

(a) 竪穴住居と出土遺物

SH102竪穴住居 (Fig.4)

AC-26・27、AD-26・27グリッドで検出した。他遺構との切り合いは、遺構南西部においてSK107土塋に切られている。検出面の標高は7.0m前後である。平面形はかなり歪んだ隅

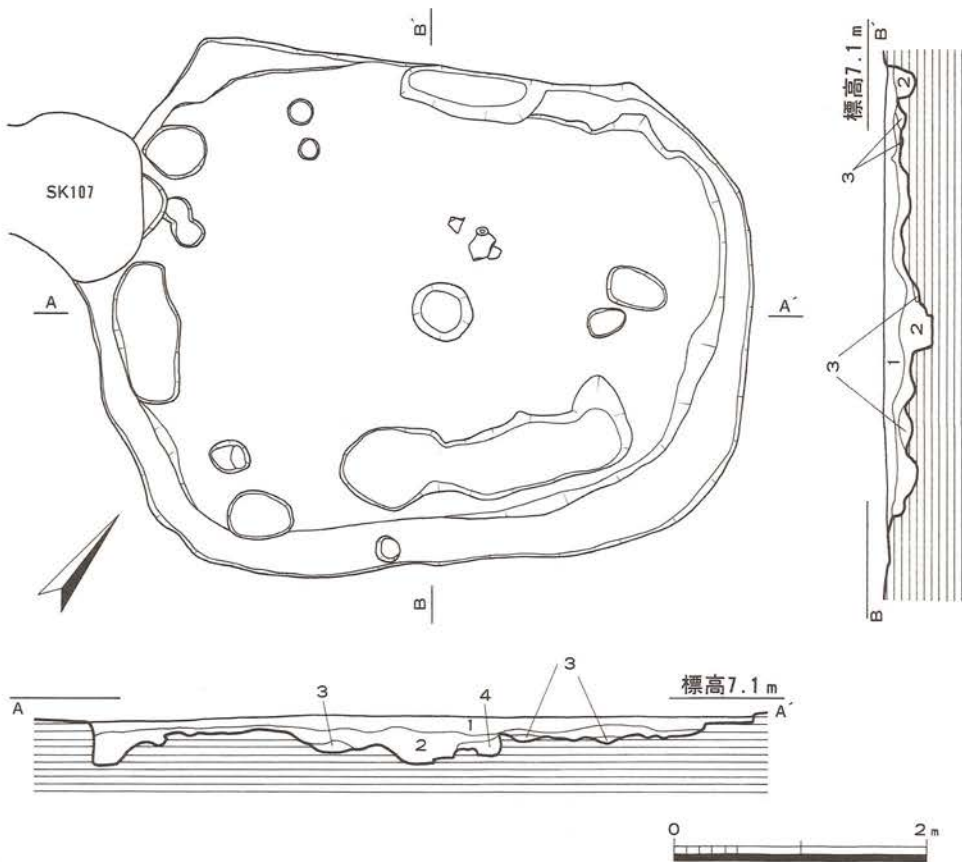


Fig.4 SH102竪穴住居実測図 (1/60)

IV. 調査の記録

丸長方形をなしている。長軸長5.3m、短軸長4.0mを測る。残存壁高は最深部で30cm程度である。遺構埋土は4層に大別できた。第1層：暗褐色土、第2層：黒褐色土（黄褐色粘質土ブロック混入）、第3層：暗黄褐色粘質土、第4層：暗褐色砂質土である。地山土は黄褐色砂質土である。第1・2層は自然流入土である。第3層は全面に広がる土層ではなく、くぼみが平坦になるように堆積している。土層断面を見る限りでは、粘土による張り床や比較的丁寧な整地などの行なわれた痕跡は認められない。強いて言えば、第3層によってごく簡単な整地を行なっていると考えられないこともないが、床面の大部分は地山の削り出しによって造られている。外周には幅20～50cm程度のテラス状の平坦面を巡らしている。壁溝は存在しない。中央には炉跡と思われる円形のくぼみが検出されたが、焼土、灰、炭化層などは存在せず、焼成による硬化面も認められず、炉跡としての確定はできなかった。また、柱穴は検出されなかった。北壁及び西壁において楕円形状の小土壌を検出している。埋土の堆積状況から考えて本遺構に伴うものと考えられるが、遺物は検出されなかった。出土遺物は、弥生中期の甕が遺構中央付近の床面直上から出土している。

SH102出土遺物 (Fig.5)

甕 (1～3) 1は床面直上出土。復元外径24.9cm、復元内径20.0cm、残存器高6.3cm。口縁部に横ナデ調整。胴部外面は不明瞭だがハケ目調整、胴部内面はナデ調整。暗褐色。2は復元外径24.0cm、復元内径19.6cm、残存器高10.8cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整。黄褐色。3は床面直上出土。底径7.2cm、残存器高17.8cm。胴部外面にハケ目調整、胴部内面及び外底にナデ調整。上げ底の底部である。暗褐色。

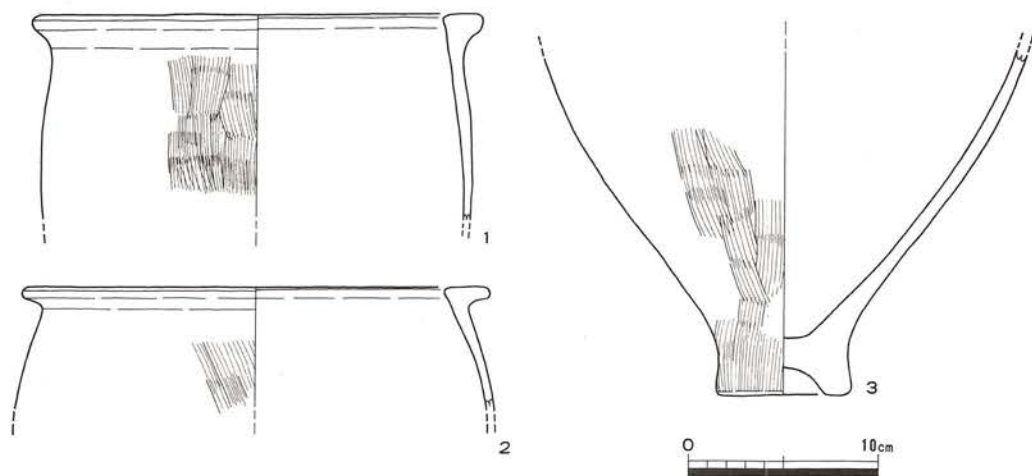


Fig.5 SH102出土遺物実測図 (1/4)

(b) 土壌と出土遺物

SK105土壌 (Fig.6)

AC-27グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。検出面の標高は7.0m前後である。平面形は長径1.4m、短径1.0mの楕円形を呈する。断面形は逆台形状をなし、最深部で0.4mを測る。遺構底面はほぼ平坦である。遺構埋土は黒褐色土の単層である。遺構の東西でさらに一段掘り込まれており、他遺構との切り合いも考えたが、埋土の状況から考えて、同一遺構と判断した。出土遺物は弥生中期の甕・壺片が埋土中より出土している。

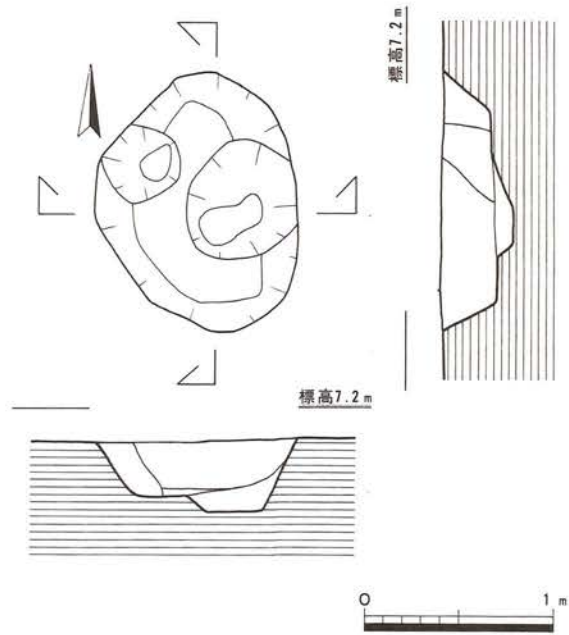


Fig.6 SK105土壌実測図 (1/40)

SK105出土遺物 (Fig.8)

甕 (1~3) 1は外口径15.7cm、内口径12.4cm、底径6.4cm、器高19.5cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面及び外底にナデ調整。胴部外面及び胴部内面下半部に黒斑を有する。褐色。2は外口径23.6cm、内口径18.9cm、残存器高13.0cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナデ調整。口縁下に指頭圧痕を残す。胴部外面には黒斑を有する。褐色。3は底径6.5cm、残存器高19.0cm。胴部外面にハケ目調整、胴部内面及び外底にナデ調整。上げ底の底部

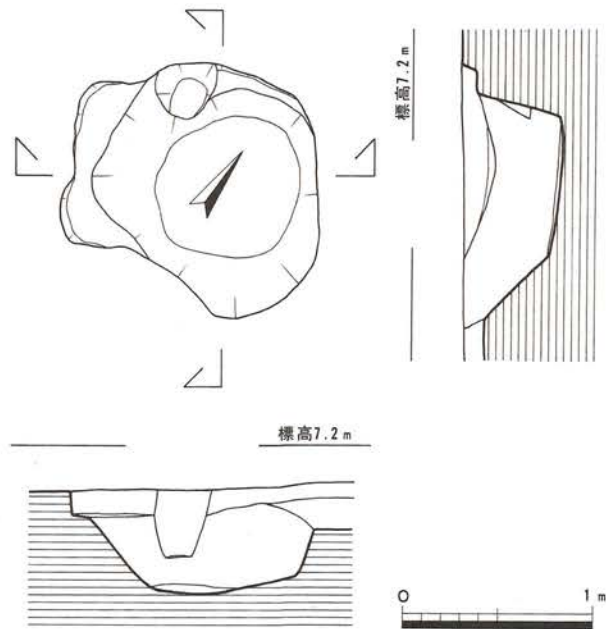


Fig.7 SK107土壌実測図 (1/40)

IV. 調査の記録

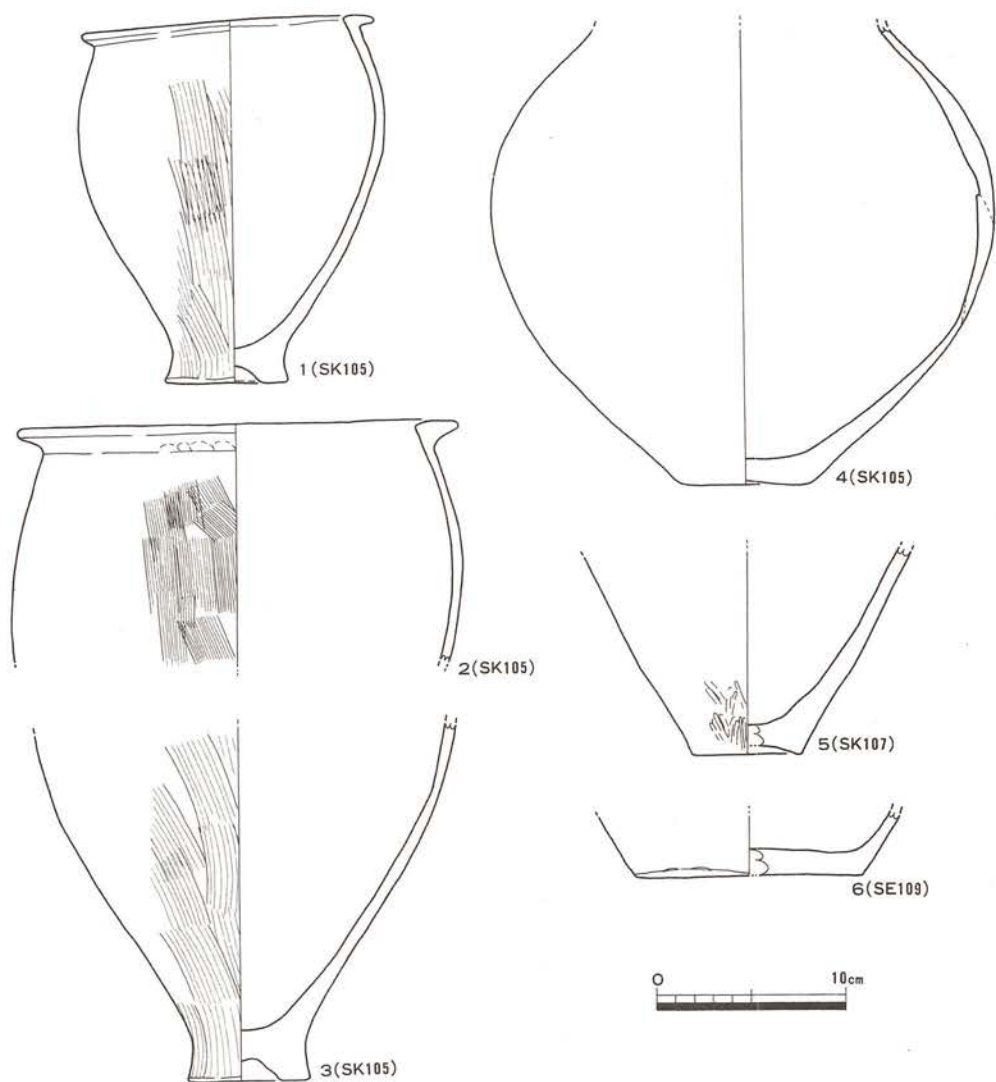


Fig.8 SK105・SK107・SE109出土遺物実測図 (1/4)

である。暗褐色。

壺 (4) 復元底径7.6cm、残存器高24.6cm。胴部外面は器面の磨耗により調整不明瞭。胴部内面及び外底はナデ調整。胴部外面上半部に黒斑を有する。淡褐色。

SK107土壇 (Fig.7)

AD-25・26グリッドで検出した。他遺構との切り合いは、本遺構がSH102を切っている。検出面の標高は7.0m前後である。平面形は直径1.2~1.4mの不整円形を呈する。断面形は逆台形状をなし、深さ約0.5mを測る。遺構底面は南側がやや高くなっている。遺構西部に深さ15cm

程度のテラス状の平坦面を有する。遺構埋土は黒褐色土の単層であった。遺構北西部で小穴との切り合い関係がありそうだが、先後関係は確認できなかった。埋土中より弥生時代中期の甕が検出されている。

SK107出土遺物 (Fig.8)

甕 (5) やや上げ底の底部片である。底径6.0cm、残存器高11.0cm。基本的にはナデ調整だが、底部外面付近にやや粗いヘラミガキ調整が行なわれている。褐色。

(c) 井戸と出土遺物

SE109井戸 (Fig.9)

AB-25・26グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。検出面の標高は7.1m前後である。平面形は直径1.9~2.1mの不整形円形を呈し、深さ0.85mを測る。遺構底面はほぼ平坦で、壁面は部分的に中央に張り出している。遺構埋土は黒褐色土を基本としていたが、セクション面の崩落により細かい土層の観察はできなかった。湧水点に達していたため、井戸と判断した。遺物は少量だが、埋土中から弥生時代中期の甕が出土している。

SE109出土遺物 (Fig.8)

甕 (6) 復元底径12.2cm、残存器高3.4cm。内外器面ともにナデ調整を行なう。明褐色。

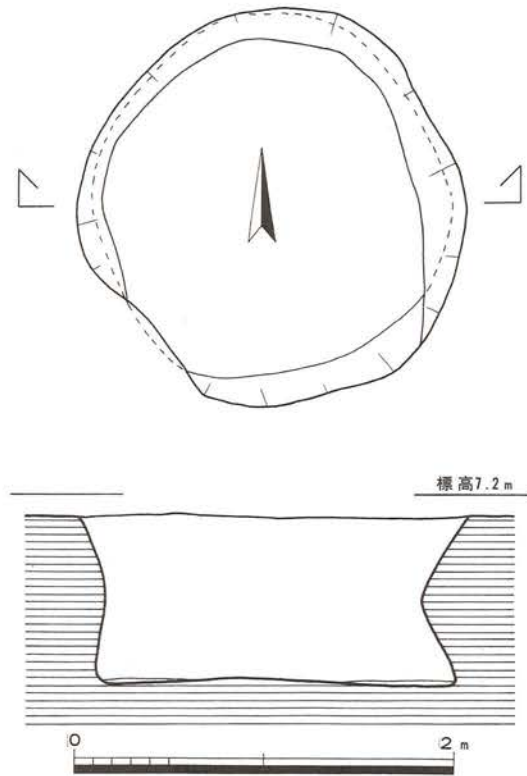


Fig.9 SE109井戸実測図 (1/40)

(2) 古墳時代の遺構と遺物

(a) 掘立柱建物と出土遺物

SB110掘立柱建物 (Fig.11)

AD-23、AE-23・24グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。検出面の標高は7.0m前後である。1間×2間の建物規模で、主軸をN-35°-Eにとる。柱間寸法は図中のとおりである。柱穴は、平面形が直径50~80cm程度の円形ないしは楕円形を呈する。すべて2段掘りの柱穴であり、深さ40~60cmを測る。柱痕跡は上面及び断面においては明確には検出できなかった。柱穴埋土は黒褐色を基調としたもので、やや粘性が強いものであった。地山土ブロック等は混入していない。また、柱材そのものの残存も認められなかった。柱穴から遺物は出土していない。建物の時期については、出土遺物が皆無であることから確証は得られないが、建物主軸と古墳時代の溝であるSD101の走行軸が近似すること、柱穴の規格が近隣の弥生時代の掘立柱建物、例えば村徳永遺跡などで検出した掘立柱建物はその殆どが平面隅丸長方形の柱穴をもっており、このような事例とは異なっていることなどから考えて、古墳時代の掘立柱建物と判断した。

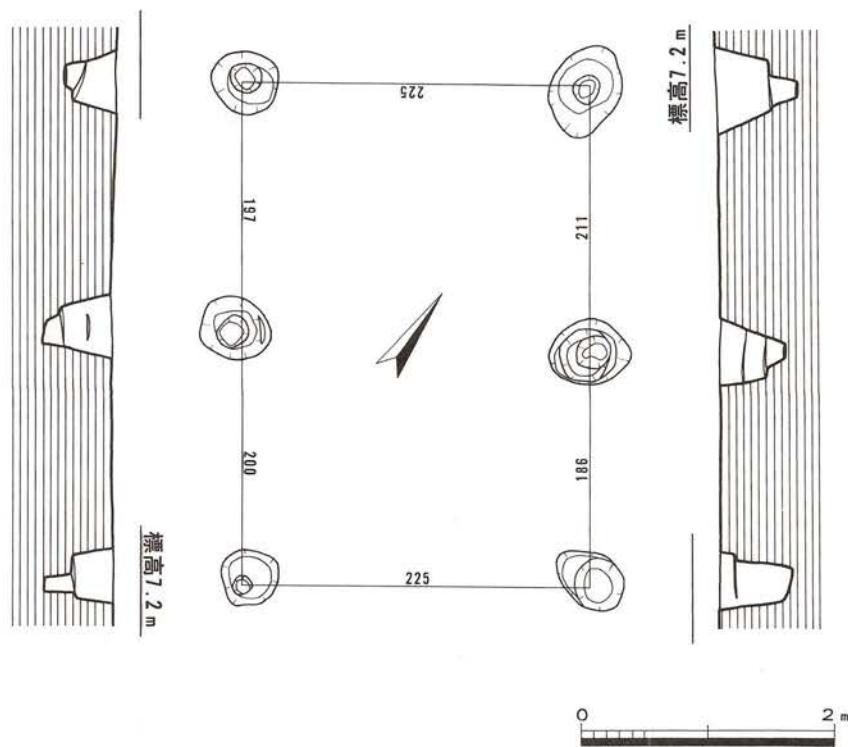


Fig.10 SB110掘立柱建物実測図 (1/60)

(b) 井戸と出土遺物

SE104井戸 (Fig.11)

AD-27グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。検出面の標高は6.9m前後である。平面形は直径1m程度の不整円形を呈している。断面形は長方形をなし、壁上面は外方に屈曲し延びている。遺構底面は中央部がやや深くなっている。遺構埋土は黒褐色粘質土の単層であった。遺構中央部からは、遺構底面より15cm程度浮いた状態で、完形の土師器甕が出土している。他の出土遺物はない。

SE104出土遺物 (Fig.12)

甕(1) 完形の土師器甕である。口径14.2cm、器高25cm。口縁部に横ナデ調整。胴部外面はナデ調整、内面は不明瞭だがヘラケズリ調整を行なう。口縁端部は丸く仕上げられ、胴部外面にはほぼ全面に煤の付着が著しい。明褐色。

(c) 溝と出土遺物

SD101大溝・SD103大溝 (Fig.13)

SD101はAC-23・24、AD-23~25、AE-24・25グリッドにおいて検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。溝は調査区外に延びており、完全には検出できなかった。

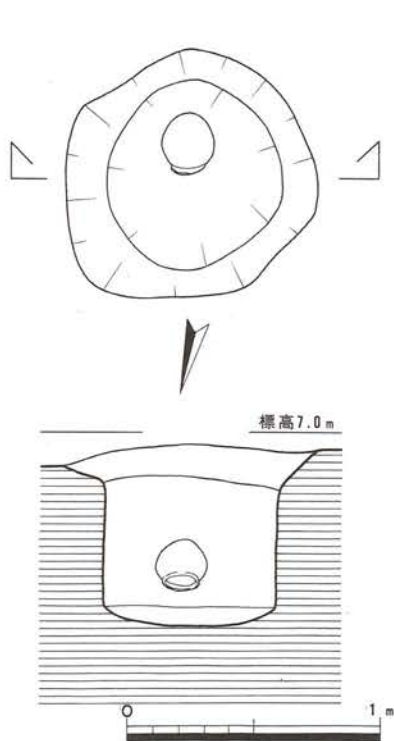


Fig.11 SE104井戸実測図 (1/60)

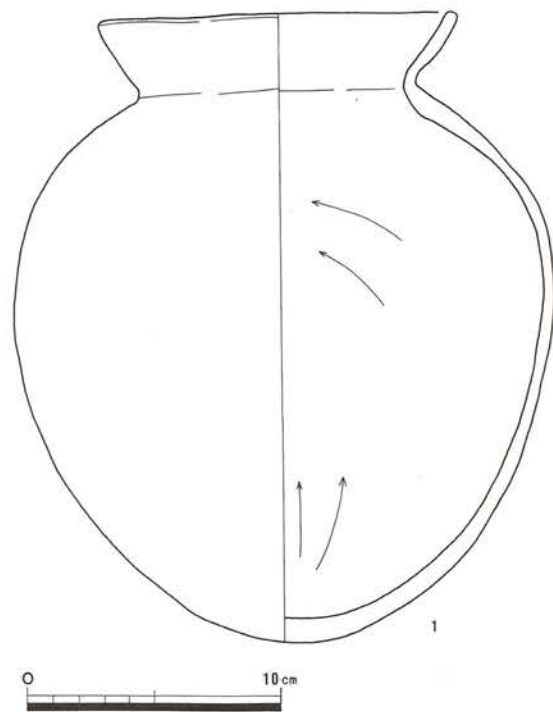


Fig.12 SE104出土遺物実測図 (1/3)

IV. 調査の記録

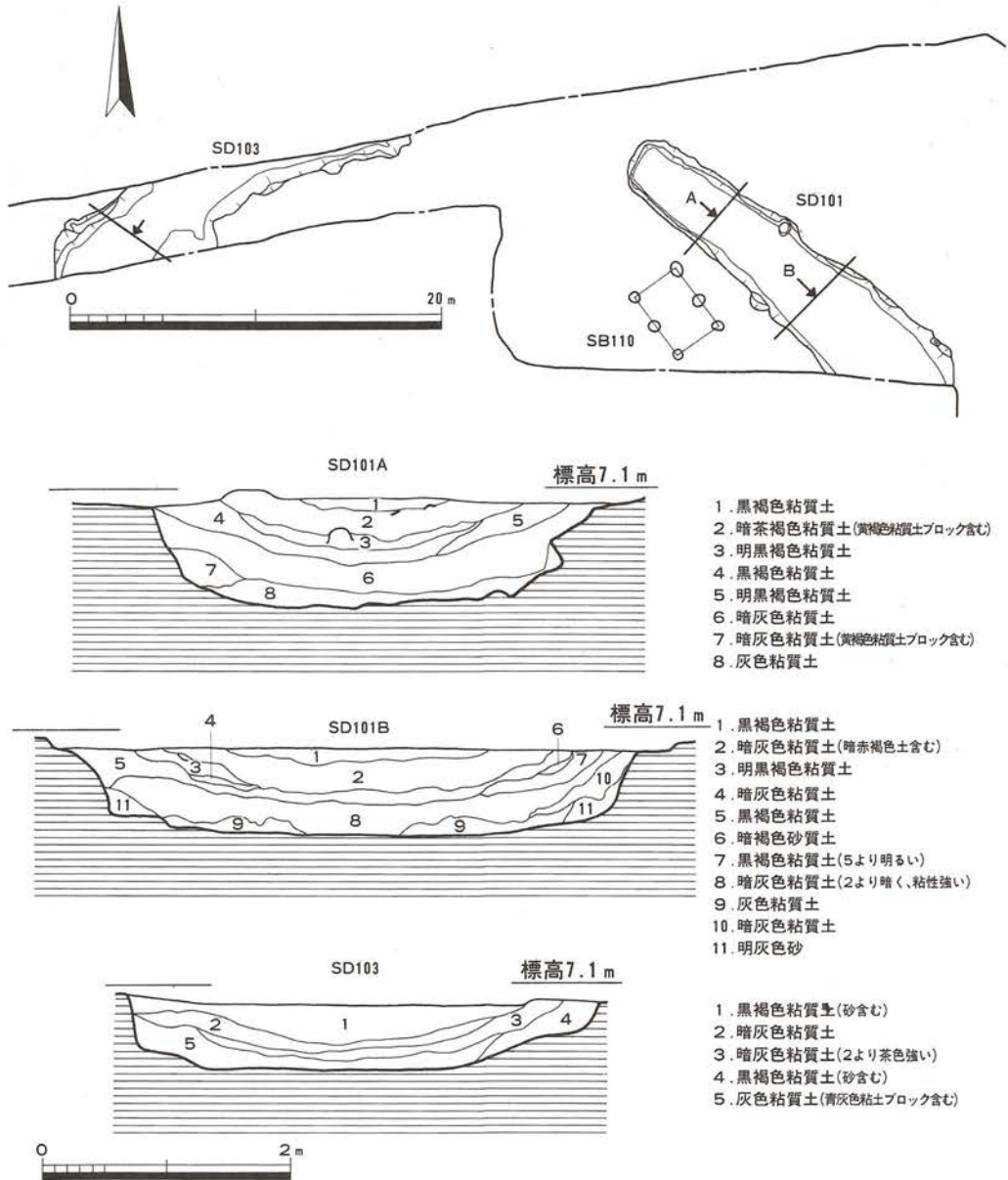


Fig.13 SD101・103溝実測図 (配置図：1/400、土層断面図：1/60)

検出面の標高は7.0m前後である。検出長約20m、幅約3～5mを測る。断面形は逆台形状をなし、深さ0.7～0.9mを測る。遺構底面はほぼ平坦である。検出部分ではほぼ北西－南東に延びており、北西部で一旦途切れている。南東端部では屈曲部が微かながら確認されており、屈曲して南下する可能性がある。遺構埋土は8層に分層可能であった。地山は上半部が明黄褐色粘質土、下半部が青灰色砂質土である。埋土は自然堆積の状況を呈しており、人為的な堆積状況は

窺えない。また、激しい流水の痕跡もなく、滞水していたものと考えられる。遺物はAセクション付近を中心に北西半部に集中して出土した。土器片が幾重にも重なった状態で出土しており、一括性が非常に高い。遺物はAセクションの第1層～第3層、Bセクションの第1層～第4層から出土しており、出土状況を考え合わせて、Aセクション第4層及びBセクション第5層の埋没後に一括投棄されたものと判断した。

SD103はAC-17~20、AD-16~18グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。溝は調査区外に延びており、完全には検出できなかった。検出面の標高は7.0m前後である。検出長約7m、幅約8.5mを測る。断面形は凸レンズ状を呈し、深さ約0.4mを測る。遺構底面はほぼ平坦をなす。遺構埋土は5層に分層可能であった。地山の堆積状況はSD101と同じである。埋土の堆積は自然堆積と考えられ、やはり滞水していたものと考えられる。出土遺物はほとんどが土師器細片で図化できるものは皆無であった。

SD101出土遺物 (Fig.14~33)

SD101大溝からは大量の土師器が一括出土している。出土量もさることながら、器種も豊富で、坏・鉢・高坏・器台・壺・甕に大別できる。以下、器種別に個々の土器について説明を行なう。なお、いわゆる「山陰系土器」群については最後にまとめて報告する。

坏 (Fig.14、1~15) 1~11は丸底の坏。1は復元口径9.0cm、残存器高2.2cm。口縁部に横ナ

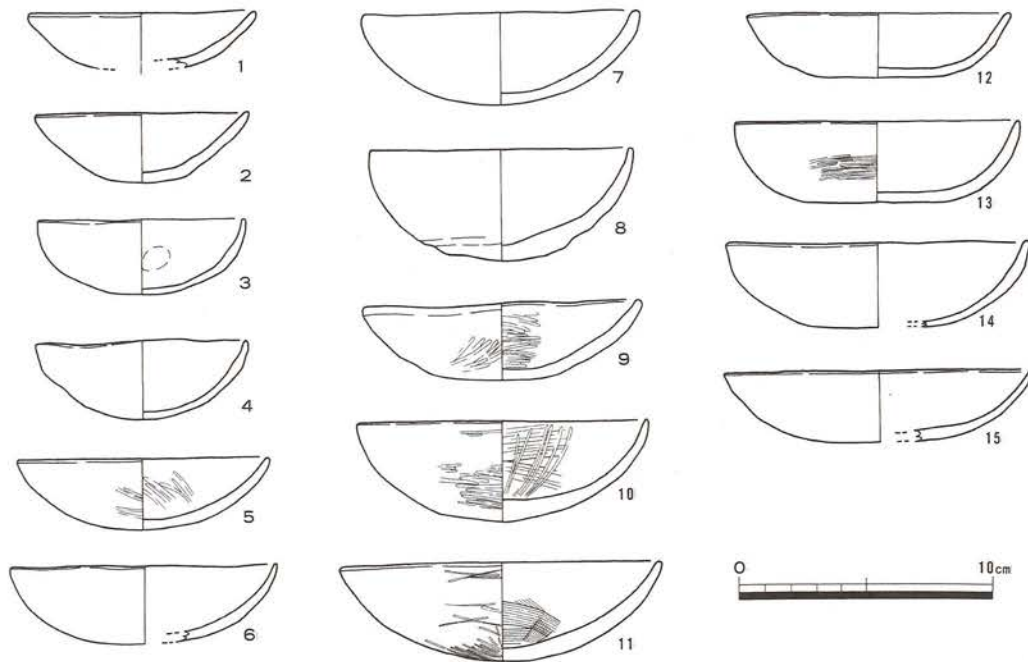


Fig.14 SD101出土遺物実測図(l) (1/3)

IV. 調査の記録

テ調整、体部内外面にナテ調整。淡褐色。2は復元口径8.4cm、残存器高2.7cm。口縁部に横ナテ調整、体部内外面・内外底にナテ調整。淡褐色。3は復元口径8.2cm、残存器高3.0cm。全面にナテ調整。体部内面中位に指頭圧痕。内外面に黒斑あり。褐色。4は口径8.4cm、器高3.1cm。口縁部に横ナテ調整、体部内外面・内外底にナテ調整。全面に黒斑あり。淡褐色。5は復元口径10cm、器高2.8cm。内外面にやや磨耗するがヘラミガキ調整。暗褐色。6は口径10.6cm、器高3.0cm。口縁部に横ナテ調整、体部内外面・内外底にナテ調整。全面に黒斑あり。淡褐色。7は口径11cm、器高3.7cm。全面にナテ調整。体部外面下半部から外底に黒斑あり。8は椀に近い器形。口径10.4cm、器高4.4cm。口縁部に横ナテ調整、体部内外面・内外底にナテ調整。淡褐色。9はほぼ完形。口径11cm、器高3.1cm。口縁部に横ナテ調整、他にはヘラミガキ調整。口縁外面に黒斑あり。暗褐色。10はほぼ完形。口径11.5cm、器高4.0cm。口縁部に横ナテ調整、外器面にヘラミガキ調整。内器面にハケ目調整後にヘラミガキ調整を行い暗文状に仕上げる。明褐色。11は口径12.7cm、器高4.0cm。口縁部に横ナテ調整、外器面にヘラミガキ調整、内器面にハケ目調整。明褐色。12～15は平底気味の坏。12は口径10.4cm、器高2.6cm。口縁部に横ナテ調整、他はナテ調整。褐色。13は復元口径11.2cm、器高3.2cm。口縁部に横ナテ調整、外器面にヘラミガキ調整、内器面は磨耗するが微かにヘラミガキ調整。淡褐色。14は復元口径12cm、器高3.4cm。口縁部に横ナテ調整、他はナテ調整。内外面に黒斑あり。褐色。15は復元口径12.2cm、器高2.8cm。口縁部に横ナテ調整、他はナテ調整。暗褐色。

高坏 (Fig.15・16、1～22) 1は復元口径20.4cm、残存器高5.9cm。口縁端部に横ナテ調整、体部内外面にヘラミガキ調整、屈曲部付近内外面にハケ目調整。明褐色。2は口径18.4cm、残存器高9.6cm。口縁端部に横ナテ調整、他部位にはヘラミガキ調整。やや磨耗。外器面及び内器面上半に黒斑あり。褐色。3は口径20cm、残存器高6.7cm。外器面下部にハケ目調整後ヘラミガキ調整、他部位はヘラミガキ調整。殆ど屈曲をもたない。褐色。4は口径25.2cm、残存器高6.3cm。口縁端部に横ナテ調整、他部位はヘラミガキ調整。屈曲がかなり甘い。褐色。5は口径21cm、残存器高6.5cm。口縁端部に横ナテ調整、外器面にはヘラミガキ調整、内器面にナテ調整。明褐色。6は口径20.4cm、残存器高12cm。口縁端部に横ナテ調整、他部位はすべてハケ目調整。明褐色。7は口径20.3cm、底径11.7cm、器高13.7cm。坏部は内外面にヘラミガキ調整、口縁端部に横ナテ調整。脚部は外面にヘラミガキ調整、口縁端部に横ナテ調整、裾部内面にハケ目調整、脚部内面にナテ調整。裾部には3方に径1cm程度の穿孔あり。褐色。8は底径12.4cm、残存器高4.0cm。外器面にヘラミガキ調整、内器面にナテ調整、裾端部に横ナテ調整。4方穿孔と思われる。褐色。9は復元口径13.0cm、残存器高7.9cm。外器面にヘラミガキ調整、裾部内面にハケ目調整、脚部内面にナテ調整。3方向に径1cm程度の穿孔を行なう。10は復元底径12cm、残存器高7.2cm。外器面は磨耗のため調整不明。ヘラミガキ調整か？。内器面はナテ調整。口縁端部は横ナテ調整。裾端部内面に黒斑あり。褐色。11は底径10.8cm、残存器高7.8cm。外器面にヘラミガキ調整、裾



Fig.15 SD101出土遺物実測図(2) (1/3)

IV. 調査の記録

端部に横ナデ調整。内器面は裾部にハケ目調整、他はナデ調整。4方に径1cm程度の穿孔を行なう。褐色。12は底径14.4cm、残存器高8.1cm。外器面にヘラミガキ調整。内器面上半部はナデ調整、下半部はハケ目調整、裾端部は横ナデ調整。4方に径1cm程度の穿孔を行なう。褐色。14は口径10.3cm、復元底径8.6cm、器高7.7cm。外器面には全面にヘラミガキ調整。坏部内面はヘラミガキ調整、脚部内面はナデ調整。裾端部に横ナデ調整。坏部内面以外には黒斑あり。褐色。15は復元口径12cm、残存器高4.3cm。磨耗のため調整不明瞭だが、内面の一部にヘラミガキ調整が認められる。内器面に黒斑あり。淡赤褐色。16は復元口径12.4cm、残存器高5.6cm。口縁端部に横ナデ調整。外器面全面に横方向のヘラミガキ調整、内器面全面に縦方向のヘラミガキ調整。ヘラミガキ調整はかなり丁寧である。明褐色。17は口径13.8cm、残存器高7.1cm。内外器面ともにヘラミガキ調整。外面は縦・横ヘラミガキ調整が交互に行なわれる。暗褐色。18は復元口径11.6cm、残存器高7.0cm。口縁端部に横ナデ調整。外器面は横方向のヘラミガキ調整。坏部内面は縦方向のヘラミガキ調整。褐色。19は口径12.4cm、底径18.8cm、器高9.8cm。外器面は坏部に横方向のヘラミガキ調整、脚部に縦方向のヘラミガキ調整、裾部には斜方向のヘラミガキ調整。坏部内面は横方向のヘラミガキ調整、脚部はナデ調整。裾端部に横ナデ調整。4方に径1cm程度の穿孔を行なう。褐色。20は底径19.2cm、残存器高7.0cm。外器面はハケ目調整後にヘラミガキ調整で、脚部に縦方向、裾部に横方向のヘラミガキ調整。内器面はハケ目調整。裾端部に横ナデ調整。4方に径1cm程度の穿孔を行なう。褐色。21は復元底径20cm、残存器高3.7cm。外器面は横方向のヘラミガキ調整。内器面は上半に横方向ヘラミガキ調整、下半にナデ調整。内器面に黒斑あり。裾端部に横ナデ調整。外面暗褐色、内面褐色。22は底径11cm、残存器高6.3cm。外器面にナデ調整、内器面にハケ目調整、裾端部に横ナデ調整。明褐色。

小型器台 (Fig.15、23~30) 23は底径11.6cm、残存器高5.9cm。外器面に横方向のヘラミガキ調整、内器面にハケ目調整、裾端部に横ナデ調整。4方に穿孔を行なう。高坏脚部の可能性もある。褐色。24は底径12.5cm、残存器高6.0cm。外器面全面及び内器面下半に横方向のヘラミガキ調整。内器面上半はナデ調整。坏部内面はヘラミガキ調整、裾端部は横ナデ調整。内器面裾部内面に黒斑あり。3方に穿孔が行なわれる。褐色。25は底径9.2cm、残存器高6.3cm。内外面にナデ調整、裾端部に横ナデ調整。3方に穿孔が行なわれる。淡褐色。26は底径11cm、残存器高6.2cm。内外面にナデ調整、裾端部に横ナデ調整。4方に穿孔を行なう。明褐色。27は底径12cm、残存器高5.4cm。外器面に横方向のヘラミガキ調整、内器面にヘラケズリ調整。裾端部に横ナデ調整。4方に穿孔があったと思われる。褐色。28は底径8.8cm、残存器高1.9cm、外面に横方向のヘラミガキ調整、内面にナデ調整、裾端部に横ナデ調整。明褐色。29は底径9.4cm、残存器高4.0cm。外面に横方向のヘラミガキ調整、内面にハケ目調整、裾端部に横ナデ調整、他にはナデ調整。褐色。30は底径11.3cm、残存器高7.7cm。受部は外面に横方向のヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整。脚部は縦方向のヘラミガキ調整、内面は横方向のヘラミガキ調整。脚端部には

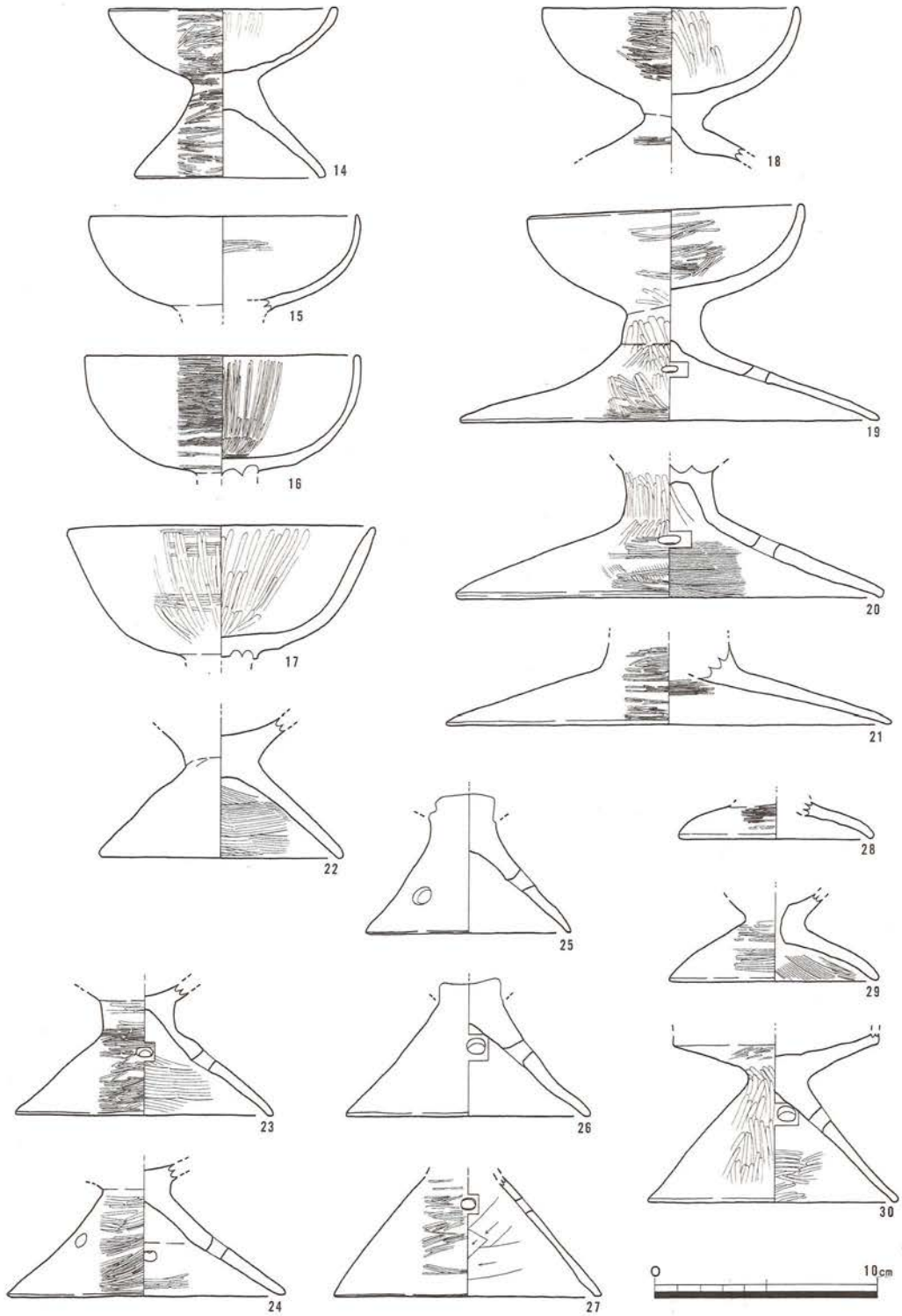


Fig. 16 SD101出土遺物実測図(3) (1/3)

IV. 調査の記録

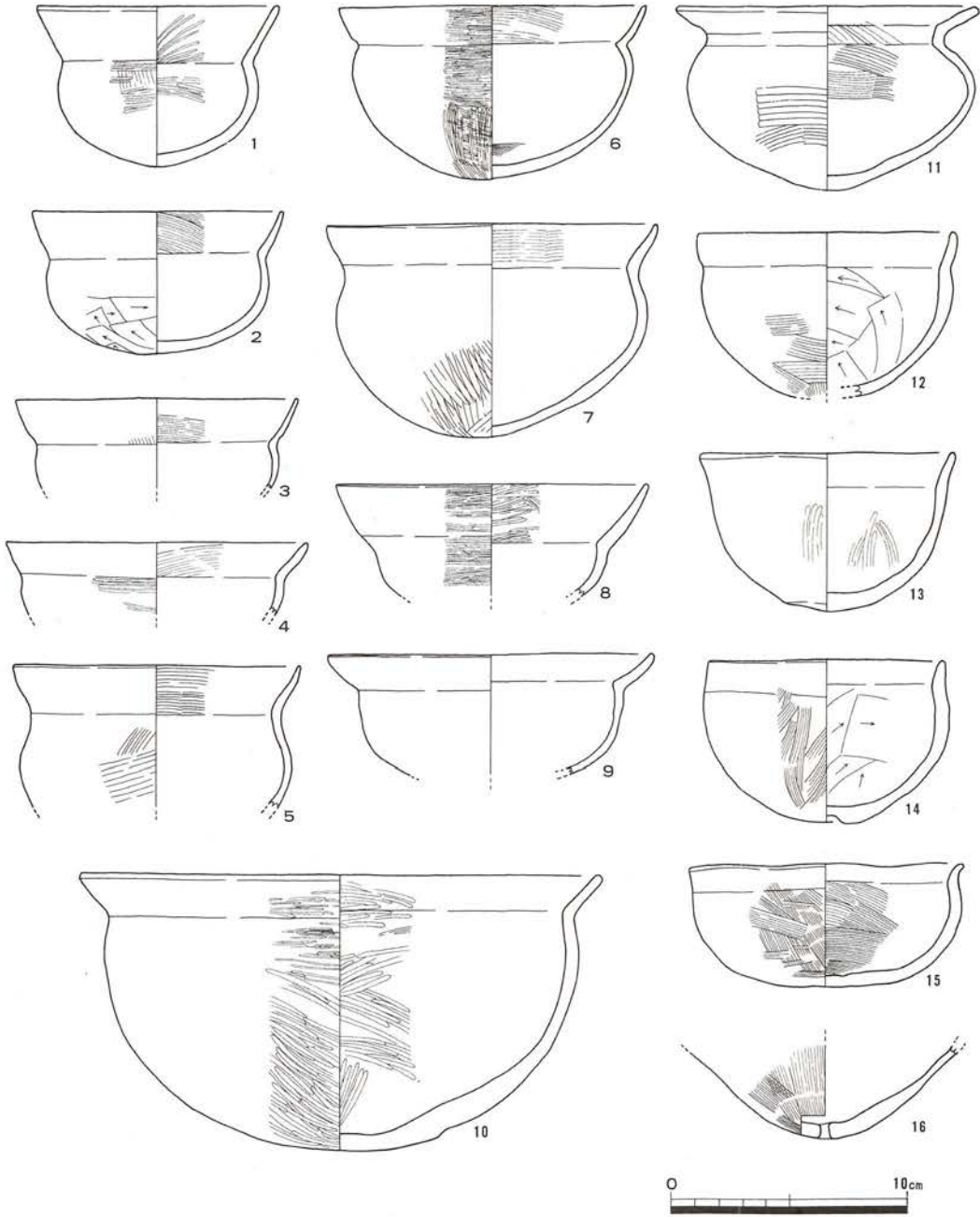


Fig.17 SD101出土遺物実測図(4) (1/3)

横ナデ調整。4方向に穿孔を行なう。褐色。

鉢 (Fig.17・18、1~17) 1は小型丸底鉢。復元口径10.2cm、器高6.8cm。内外面にヘラミガキ調整。胴部外面のみハケ目調整後ヘラミガキ調整。胴部外面に黒斑あり。淡赤褐色。2は小型丸底鉢。復元口径10.6cm、器高6.0cm。外面は口縁部から胴部上半にかけてハケ目調整をナデ消

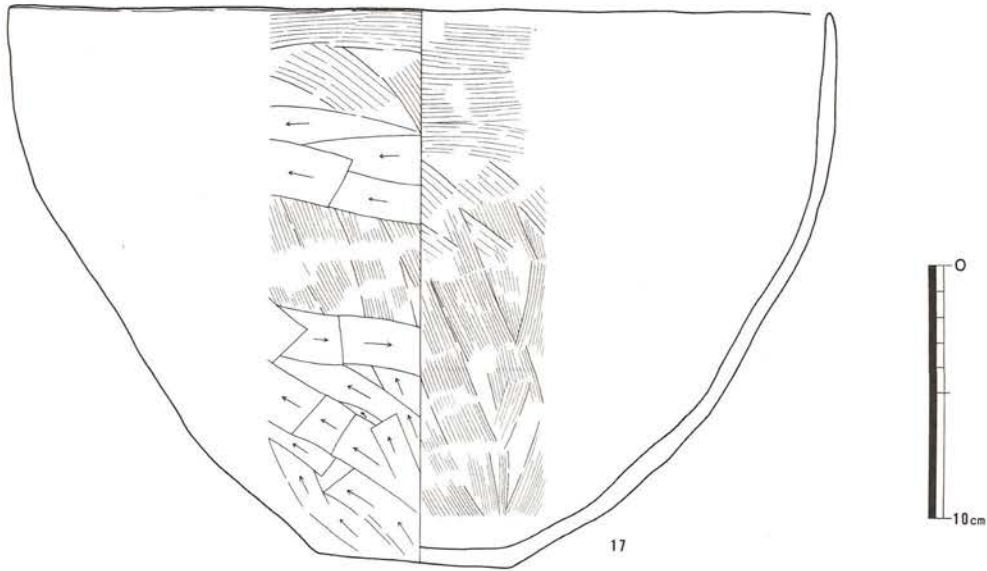


Fig.18 SD101出土遺物実測図(5) (1/3)

し、胴部下半はヘラケズリ調整。内面は口縁部にハケ目調整、胴部はナデ調整。外底に黒斑あり。褐色。3は小型丸底鉢。復元口径12cm、残存器高3.8cm。口縁部は外面に横ナデ調整、内面にハケ目調整。胴部は内面にナデ調整、外面は磨耗のため調整不明瞭。ハケ目調整か。淡赤褐色。4は小型丸底鉢。口径12.8cm、残存器高3.1cm。口縁部は外面にナデ調整、内面にハケ目調整、端部に横ナデ調整。胴部は外面に横方向のヘラミガキ調整、内面にナデ調整。淡褐色。5は小型丸底鉢。復元口径12.2cm、残存器高6.0cm。外面は口縁部に横ナデ調整、胴部にハケ目調整。内面は口縁部にハケ目調整、胴部にナデ調整。淡赤褐色。6は小型丸底鉢。復元口径13cm、器高7.3cm。外面は口縁部から胴部上半に横方向のヘラミガキ調整。内面は口縁部及び底部にハケ目調整、他はナデ調整。口縁端部は横ナデ調整。外面全体に黒斑あり。褐色。7は小型丸底鉢。復元口径14cm、器高9.0cm。外面は口縁部に横ナデ調整、胴部上半にナデ調整、胴部下半及び外底にハケ目調整。内面は口縁部にハケ目調整、胴部内面及び底部にナデ調整。胴部外面下半部に黒斑あり。褐色。8は小型丸底鉢。復元口径13.2cm、残存器高4.8cm。外器面及び口縁部内面にヘラミガキ調整。内外面に黒斑あり。褐色。9は小型丸底鉢。復元口径13.8cm、残存器高5.1cm。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部内外面は磨耗のため調整不明。淡褐色。10は中型の丸底鉢。完形品である。口径22.2cm、器高11.7cm。口縁端部に横ナデ調整。他は全面にヘラミガキ調整。外器面には黒斑あり。明褐色。11は復元口径12.8cm、器高7.8cm。口縁部に横ナデ調整。外面は胴部にハケ目調整、外底はナデ調整。内器面は頸部から胴部上半にかけてハケ目調整、胴部下半にはナデ調整。胴部外面に黒斑あり。褐色。器形的には小型丸底壺を扁平にした、いわば壺と鉢の中間形態のような様相を呈するが、口径と器高の比率から判断して鉢として報告

IV. 調査の記録

した。12は小型丸底鉢。口縁部の屈曲がかなり不明瞭である。復元口径11cm、残存器高6.9cm。口縁部内外面に横ナデ調整。胴部外面はハケ目調整、胴部内面はヘラケズリ調整。褐色。13は小型丸底鉢。ただし、口縁部の屈曲は殆ど認められない。復元口径10.8cm、器高6.8cm。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部内外面にヘラミガキ調整。内外底にナデ調整。明褐色。14は完形。復元口径10cm、器高6.9cm。口縁部に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にヘラケズリ調整。外底にナデ調整。外底中央部には円形のくぼみが認められる。褐色。15は口径11.6cm、器高5.2cm。器形的には椀に近い。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にハケ目調整、外底にナデ調整。外器面に黒斑あり。暗褐色。16は残存器高4.0cm。外面にハケ目調整、内面にナデ調整。底部に穿孔を行なう。外器面に煤が付着する。17は口径32.6cm、底径7.7cm、器高22cmを測る大型の平底鉢である。口縁端部に横ナデ調整、胴部外面はハケ目調整の後、胴部下半部及び上半部中位にヘラケズリ調整を行なう。内器面はハケ目調整、内底のみナデ調整。胴部外面下半に黒斑あり。淡赤褐色。

壺 (Fig.19~21、1~12) 1~3は長頸壺。1は口径13.2cm、残存器高15.9cm。口縁端部に横ナデ調整。外器面は、口縁部から頸部にかけて横方向のヘラミガキ調整、胴部はハケ目調整後にヘラミガキ調整。内器面は、口縁部から頸部にかけて縦方向のヘラミガキ調整、頸部はナデ調整、胴部はハケ目調整。丁寧な造りである。褐色。2は口径13cm、残存器高8.7cm。口縁端部に横ナデ調整。外器面は横方向のヘラミガキ調整。内器面は縦方向のヘラミガキ調整。褐色。3は胴部のみ残存。残存器高10.7cm。外器面は胴部上位に横ナデ調整、中位にハケ目調整、下位にナデ調整。内器面は上位にナデ調整、中位以下にハケ目調整。淡褐色。4は長頸壺胴部か。底部はやや平底気味である。残存器高9.8cm。胴部外面は全面をヘラケズリ調整。内面はナデ調整。内外面に黒斑あり。褐色。5は小型丸底壺。復元口径9.6cm、残存器高7.6cm。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部内面にナデ調整。胴部外面はハケ目調整、口縁と胴部の境はハケ目調整をナデ消している。胴部外面に黒斑あり。明褐色。6は二重口縁壺口縁部。復元口径17cm、残存器高4.5cm。口縁端部付近に横ナデ調整、他にはナデ調整。内器面に黒斑あり。7は短頸壺口縁部。口径19.6cm、残存器高9.6cm。器面が磨耗し調整不明。明褐色。8は短頸壺。口径13.7cm、残存器高20.8cm。口縁端部に横ナデ調整。外器面は口縁部から頸部にかけて縦方向のヘラミガキ調整、胴部はハケ目調整。内器面は全面にハケ目調整。胴部外面上位に黒斑あり。褐色。9は短頸壺。口径15.9cm、残存器高15.9cm。口縁部は、端部に横ナデ調整、内外面にナデ調整。胴部外面はハケ目調整、上位はハケ目をナデ消し。胴部内面はヘラケズリ調整。褐色。10は平底の底部。底径7.8cm、残存器高20.1cm。外器面はヘラケズリ調整で上半部はさらにナデ調整。胴部内面はハケ目調整、内底付近のみナデ調整。外底はナデ調整。胴部外面中位に黒斑あり。外面褐色、内面黒色。11はやや突出した底部をもつ短頸壺。復元口径15.4cm、底径5.8cm、器高27.8cm。口縁部は内外面に横ナデ調整。頸部外面にナデ調整。胴部外面は上半部にハケ目調整、下半部

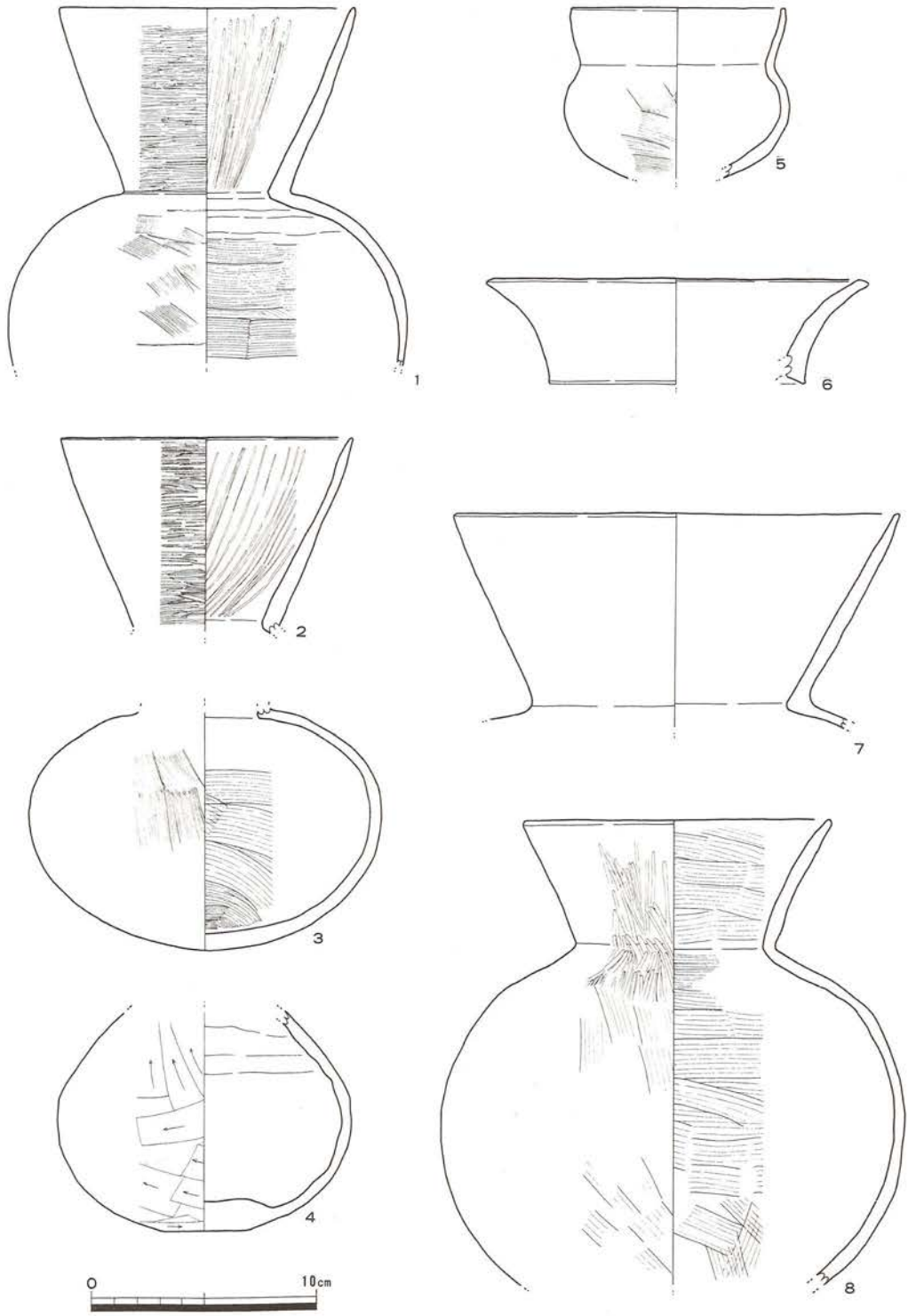


Fig.19 SD101出土遺物実測図(6) (1/3)

IV. 調査の記録

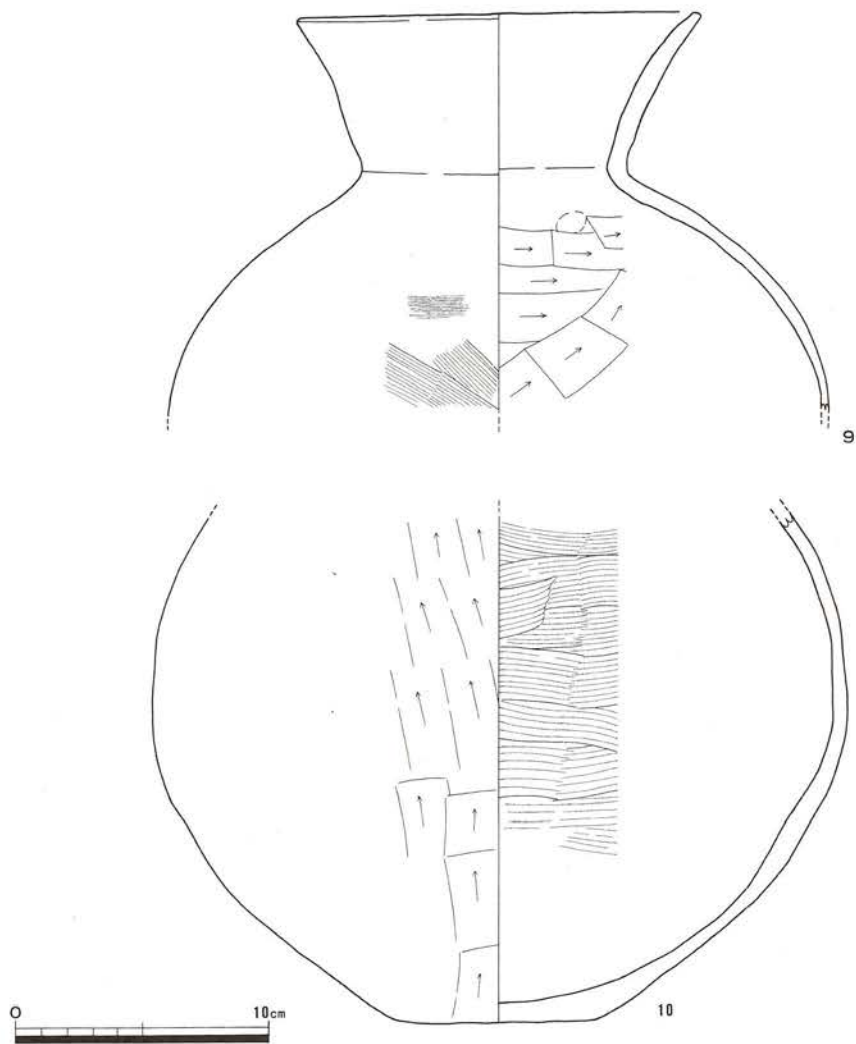


Fig. 20 SD101出土遺物実測図(7) (1/3)

にナデ調整。胴部内面はナデ調整で、上半部に指頭圧痕あり。明褐色。12は短頸壺。口径15cm、器高26.6cm。口縁部に横ナデ調整。胴部外面は、上半部にハケ目調整、下半部にヘラケズリ調整。胴部内面はハケ目調整。胴部外面下半部に黒斑あり。褐色。

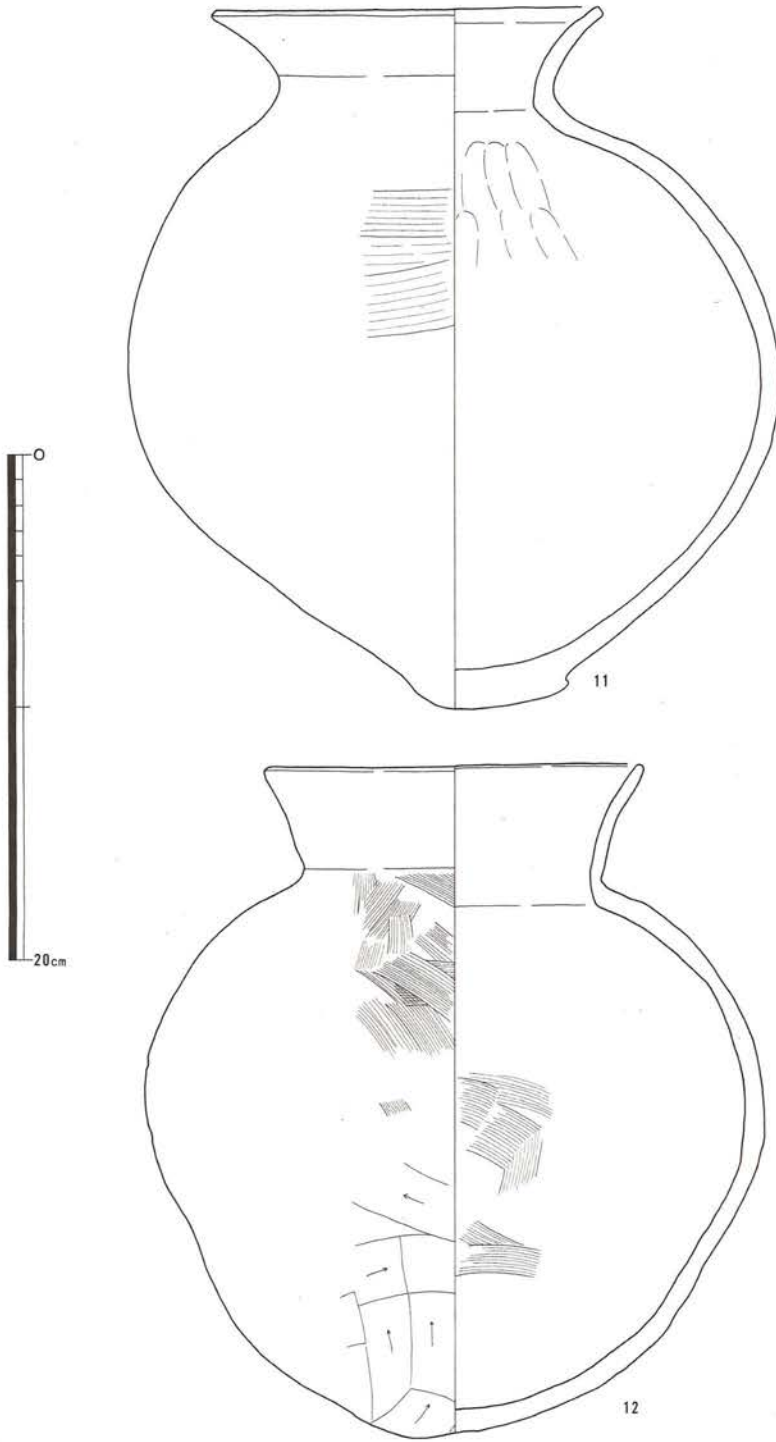


Fig.21 SD101出土遺物実測図(8) (1/3)

IV. 調査の記録

甕 (Fig.22~31、1~84)

SD101出土遺物のなかでは、甕の出土比率が最も高い。紙数の制限上、ここではすべてについては報告できないため、比較的残存状況の良好なものを抽出して報告する。なお、基本的な器面調整は「口縁部内外面に横ナデ調整、肩部内外面にナデあるいは横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にヘラケズリ調整」であり、器面調整についてはこれとは異なった調整についてのみ触れることとする。

1は復元口径14.6cm、残存器高6.4cm。口縁部は内湾し、口唇部は丸く仕上げられる。ハケ目調整は肩部に及ぶ。褐色。2は口径13.4cm、残存器高7.2cm。胴部外面にナデ調整、肩部内面に指頭圧痕あり。淡赤褐色。3は口径13.2cm、残存器高10cm。口唇部はかなり丸く仕上げられる。口縁部内面及び胴部中位に黒斑あり。淡褐色。4は口径14.5cm、残存器高8.7cm。口縁部内面はナデ調整。ハケ目調整及びヘラケズリ調整は肩部上位に及ぶ。口唇部は丸く仕上げる。明褐色。5は口径15cm、残存器高9.4cm。口縁部内面はハケ目調整。口縁部は複合口縁状に微かに屈曲し、口唇部は丸く仕上げる。褐色。6は口径15.5cm、残存器高7.3cm。胴部外面はハケ目調整だが磨耗のため不明瞭。ヘラケズリ調整は肩部内面上位に及ぶ。口唇部は丸く仕上げる。口縁部外面に黒斑あり。淡褐色。7は口径16cm、残存器高15cm。口縁上半部はやや内湾し、口唇部は丸く仕上げる。褐色。8は口径16.6cm、残存器高11.7cm。口縁部は内湾し、口唇部は丸く仕上げる。口縁部内面にナデ調整、ハケ目調整及びヘラケズリ調整は肩部上位に及ぶ。肩部内面に指頭圧痕あり。淡褐色。9は復元口径17cm、残存器高12.7cm。口縁内外面は上半部に強い横ナデ調整、下半部にナデ調整。口唇部は丸く仕上げる。ハケ目調整及びヘラケズリ調整は肩部上位に及ぶ。肩部外面には楕円形状の刺突文が施文される。褐色。10は復元口径17.6cm、残存器高16.5cm。口唇部は丸く仕上げられる。褐色。(以上 Fig.22)

11は復元口径15cm、残存器高4.2cm。口縁部は端部が折り曲げられ丸く仕上げられている。暗褐色。12は復元口径12.6cm、残存器高7.7cm。口唇部は面取りされている。淡褐色。13は復元口径13.6cm、残存器高6.7cm。口唇部は面取りされる。褐色。14は復元口径14.4cm、残存器高8.4cm。口縁部上半部に強い横ナデ調整が行なわれ、やや内湾気味。口唇部は面取りされる。胴部内面に黒斑あり。15は口径15cm、残存器高7.0cm。口縁上半部は内湾気味に僅かに屈曲する。口唇部は面取りされる。16は口径15.3cm、残存器高6.1cm。口縁上半部は僅かに屈曲する。口唇部は面取りされる。胴部外面はナデ調整。口縁下半部から肩部内面に黒斑あり。褐色。17は復元口径15.9cm、残存器高6.5cm。口唇部はやや面取りされる。褐色。18は復元口径16.4cm、残存器高11.1cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。褐色。19は復元口径16cm、残存器高11.2cm。口縁部はやや内湾気味で、口唇部は面取りされ上方に端面をもつ。胴部内面は不明瞭だがヘラケズリ調整。褐色。20は復元口径17cm、残存器高9.8cm。口縁上半部外面に強い横ナデ調整が行なわれ、口縁部はやや内湾する。口唇部は面取りされ、上方に端面をもつ。淡褐色。

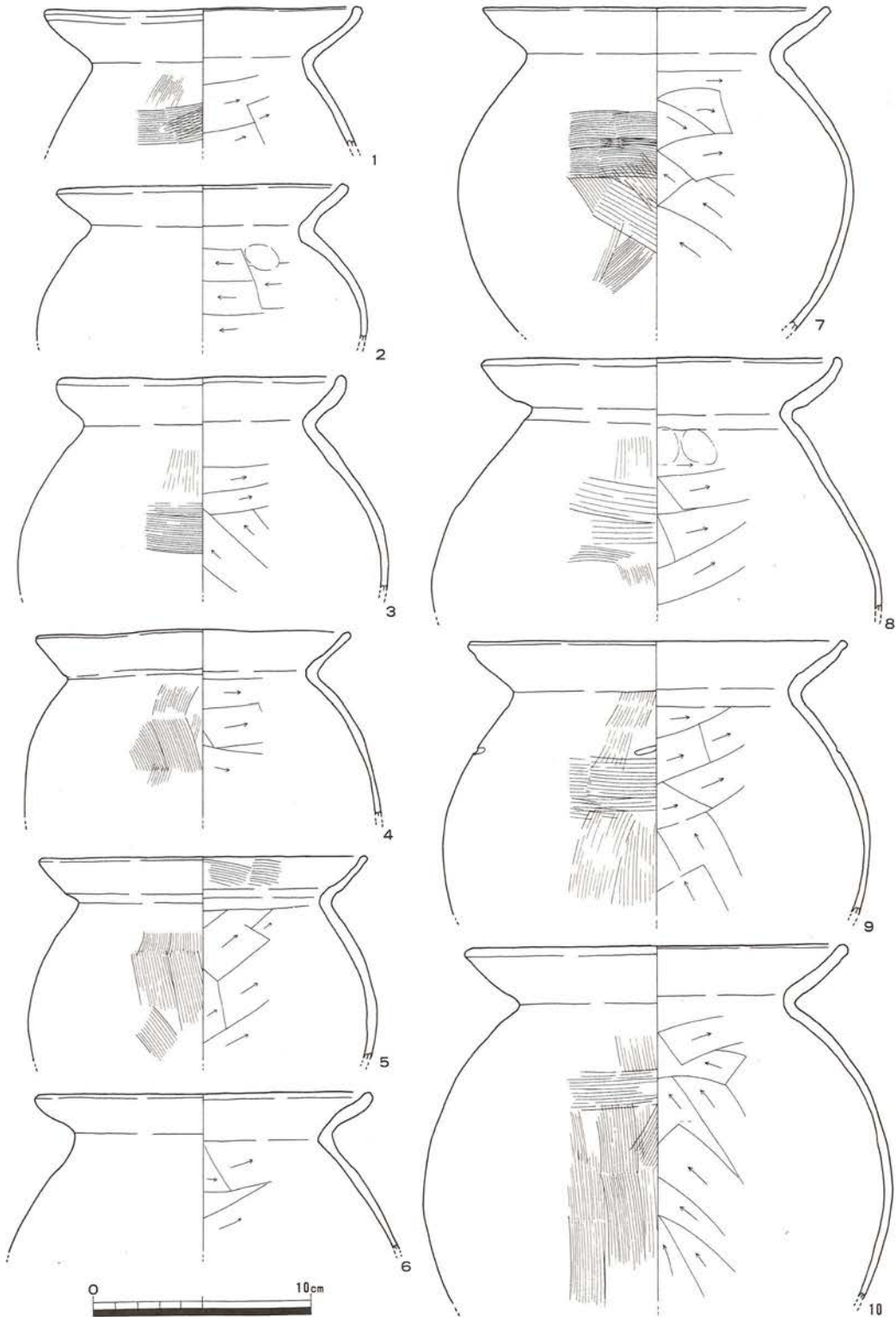


Fig. 22 SD101出土遺物実測図(9) (1/3)

IV. 調査の記録

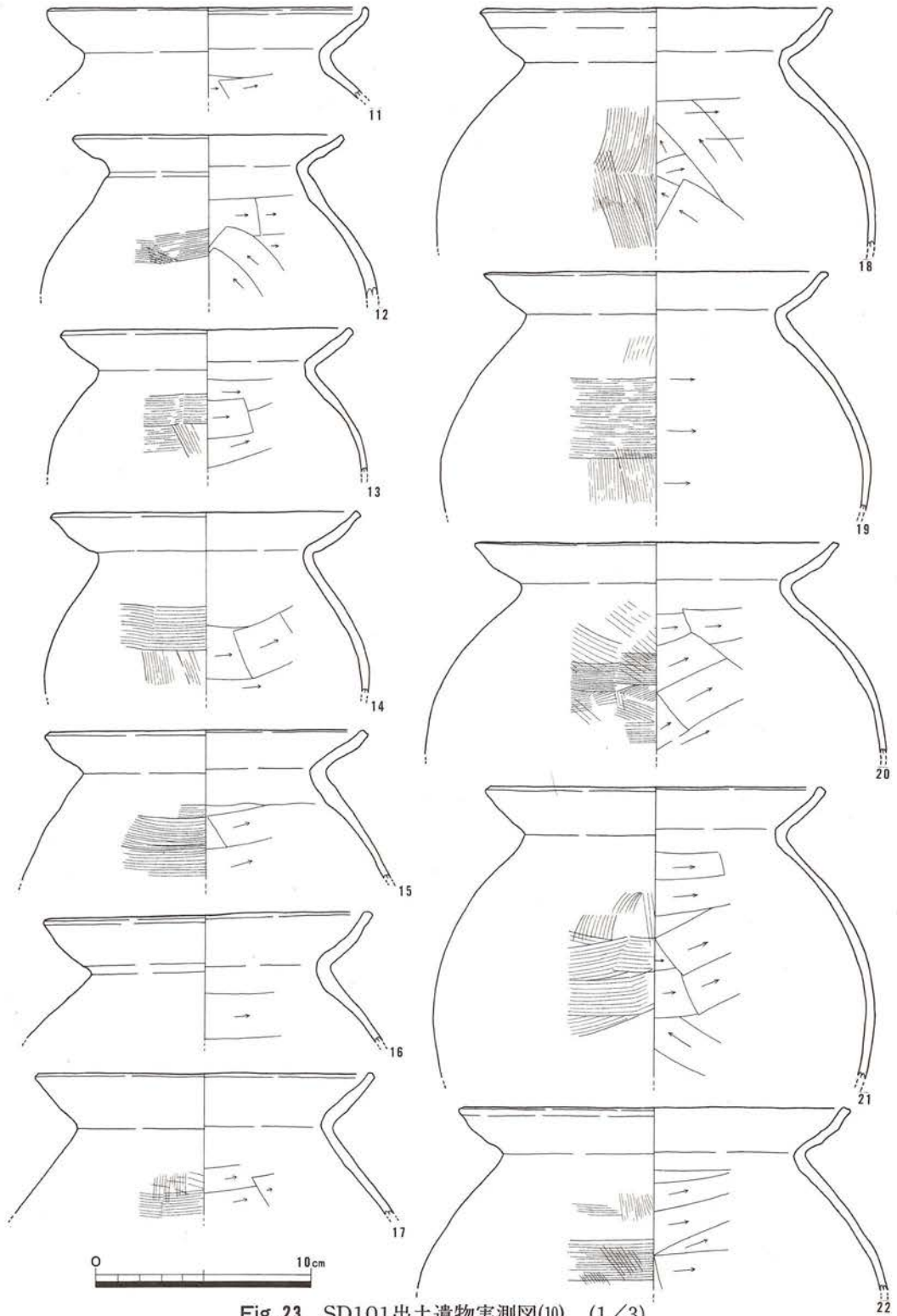


Fig.23 SD101出土遺物実測図(10) (1/3)

21は復元口径15.8cm、残存器高13.6cm。口縁上半部外面に強い横ナテ調整が行なわれ、口縁部はやや内湾する。口唇部は面取りされる。褐色。22は復元口径18.2cm、残存器高8.5cm。口縁部に強い横ナテ調整を行い、屈曲しながら内湾する。口唇部は面取りされる。褐色。

(以上 Fig.23)

23は復元口径13.2cm、残存器高7.4cm。口縁部は僅かに内湾し、口唇部は面取りされる。褐色。24は口径13.3cm、残存器高11.2cm。口縁部はやや内湾気味で、口唇部は面取りされる。口縁端部は微かにつまみ上げられる。褐色。25は復元口径16.6cm、残存器高6.4cm。口縁部は僅かに内湾し、口唇部は比較的明瞭な端面を有し、端部はつまみ上げられる。褐色。26は復元口径12.8cm、残存器高8.5cm。口縁部は上半からやや内湾する。口唇部はやや不明瞭だが面取りされる。明褐色。27は復元口径16.2cm、残存器高6.0cm。口縁部は外方に広がりながら内湾する。口唇部は僅かにつまみ上げられ、やや不明瞭な端面を有する。口縁部外面に煤が付着する。褐色。28は復元口径17.2cm、残存器高11.2cm。口縁部は僅かに内湾し、口唇部は面取りされる。淡褐色。29は復元口径17.2cm、残存器高10.7cm。口縁部は直線的に立ち上がる。口唇部はつまみ上げられ、比較的明瞭な端面を有する。口縁部内面はハケ目調整。胴部外面に煤が付着する。褐色。30は復元口径18cm、残存器高5.6cm。口縁部は僅かに内湾しながら立ち上がる。口唇部はつまみ上げられ、明瞭な端面を有する。口縁部内外面及び肩部外面はナテ調整。褐色。31は復元口径18cm、残存器高11.5cm。口縁部は屈曲しながら僅かに内湾する。口唇部はごく僅かにつまみ上げられる。肩部外面に直線文を施文する。暗褐色。32は復元口径17.2cm、残存器高11.2cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は僅かにつまみ上げられ、明瞭な端面を有する。褐色。

(以上 Fig.24)

33は口径15.7cm、残存器高9.8cm。口縁部は外方に直線的に立ち上がるが、一部で屈曲が著しく、複合口縁状を呈する部分がある。口唇部は面取りされる。ごく僅かにつまみ上げられる。淡褐色。34は復元口径16.2cm、残存器高13.8cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされるが、ごく僅かに丸みを帯びる。淡褐色。35は口径16.4cm、残存器高10.7cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は丸みを帯びる。明褐色。36は口径15.1cm、残存器高17.5cm。口縁部外面に強い横ナテ調整が行なわれる。口唇部は面取りされ、かなり明瞭な端部を有する。胴部下半にはナテ調整を行なう。外器面全域に漆状樹脂が塗付される。褐色。37は復元口径17.4cm、残存器高13cm。口縁部は僅かに内湾し、口唇部は面取りされる。肩部上位内面には指頭圧痕あり。褐色。38は復元口径17.2cm、残存器高11.2cm。口縁部は内湾し、口唇部は面取りされる。端部は僅かに丸みを帯びる。胴部中に黒斑あり。淡褐色。39は復元口径18cm、残存器高9.9cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。明褐色。40は復元口径17.5cm、残存器高14.5cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。口唇端部は比較的明瞭である。胴部外面に黒斑あり。褐色。

(以上 Fig.25)

IV. 調査の記録

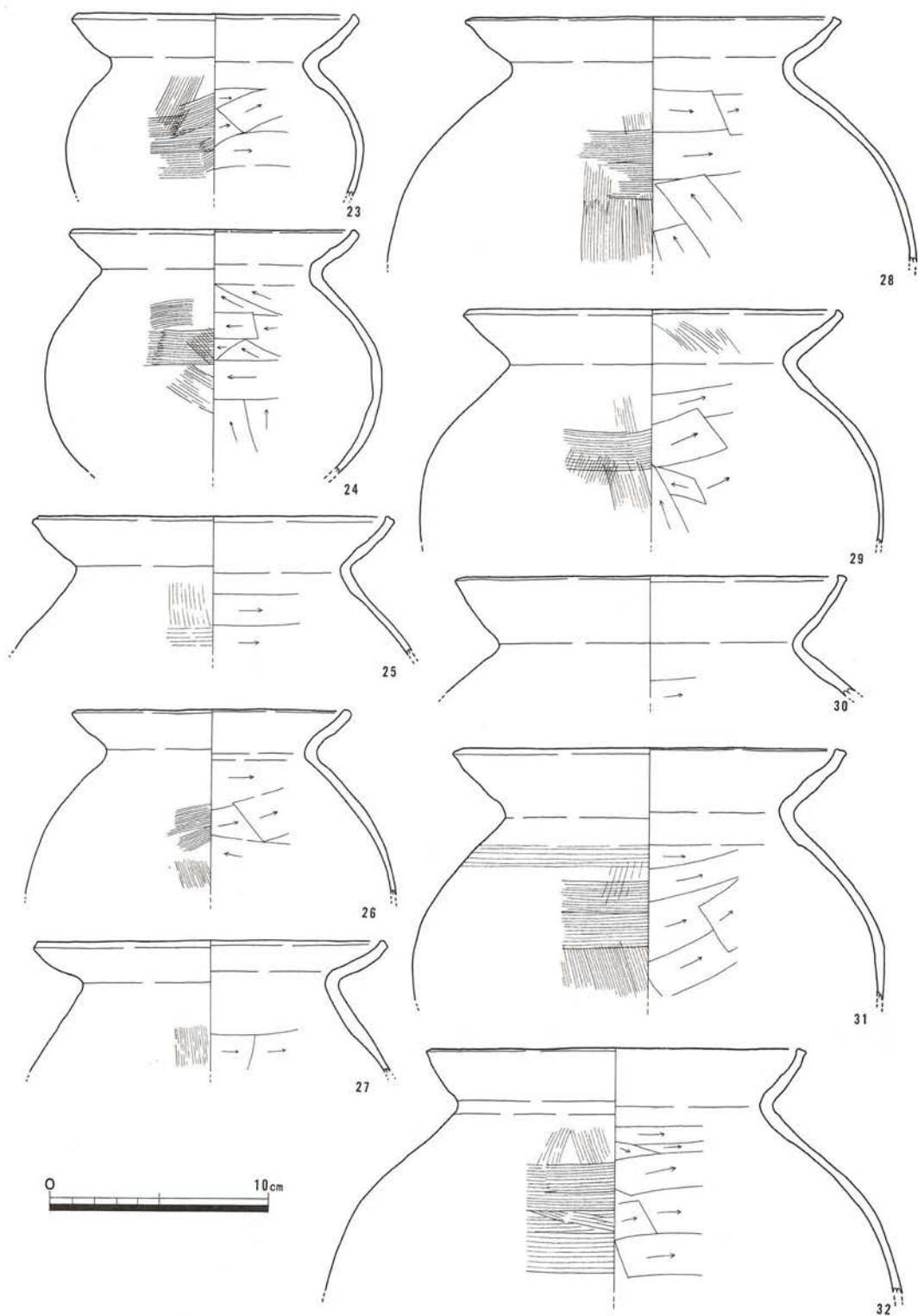


Fig.24 SD101出土遺物実測図(1) (1/3)

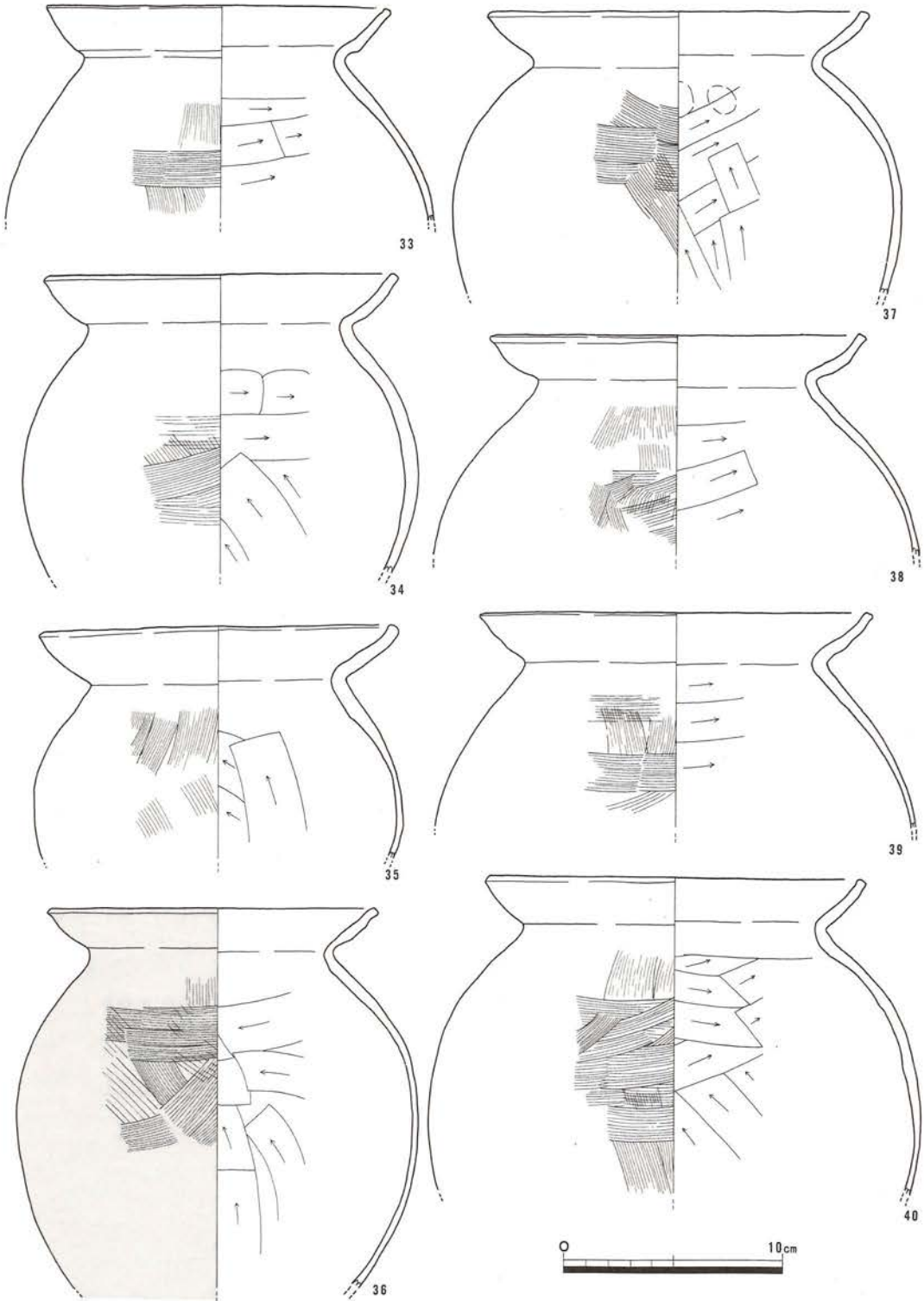


Fig. 25 SD101出土遺物実測図(12) (1/3)

IV. 調査の記録

41はほぼ完形。口径15.9cm、器高17.8cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。比較的明瞭な端部を有する。ハケ目調整及びヘラケズリ調整は底部に及ぶ。内底には指頭圧痕を有する。褐色。42は口径15.3cm、残存器高16.3cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は外方に僅かに肥厚する。褐色。43は口径16.2cm、器高22.6cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。外器面全体に煤が付着する。褐色。44は復元口径18cm、残存器高22.5cm。口縁部は内湾し、口唇部は面取りされる。比較的明瞭な端部を有する。外面暗褐色、内面黒褐色。45は口径16.3cm、残存器高18cm。口縁部外面上半に強い横ナデ調整が行なわれ、口縁部は内湾する。口唇部は面取りが行なわれる。外器面には口縁部から肩部にかけて黒斑あり。褐色。46は口径13.9cm、残存器高14cm。口縁部は内湾し、口唇部は面取りされる。外器面には口縁部以外に煤が付着する。褐色。(以上 Fig.26)

47は口径12.6cm、残存器高6.8cm。口縁部は僅かに内湾し、口唇部は丸く仕上げる。淡褐色。48は口径16cm、残存器高6.9cm。口縁部は上半部がやや内湾気味である。口唇部は面取りされる。ハケ目調整は器面の磨耗により不明瞭である。明褐色。49は口径17.3cm、残存器高10.6cm。口縁部は直線的に延びるが、口唇部はつまみ上げられている。口縁部内面及び肩部内面にハケ目調整が行なわれている。淡褐色。50は復元口径17cm、残存器高17.6cm。口縁部はやや外湾気味で、口唇部は面取りされる。口唇部に横ナデ調整、口縁部外面及び胴部内面下半にナデ調整、口縁部内面から胴部内面上半にハケ目調整、胴部外面にやや磨耗するがハケ目調整。胴部外面には黒斑あり。暗褐色。51は口径12.7cm、器高16.2cm。口縁部内外面にハケ目調整、口唇部に横ナデ調整。胴部外面はハケ目調整。外底付近はナデ調整。胴部内面から内底にはナデ調整。底部には焼成後穿孔が行なわれる。外底に黒斑あり。器壁もやや厚く、他の甕とは様相を異にする。褐色。(以上 Fig.27)

52は口径13.9cm、残存器高10.5cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は丸く仕上げられる。肩部には波状文が施文される。淡褐色。53は口径14.6cm、残存器高11.3cm。口縁部は内湾し、口唇部はやや丸く仕上げられる。肩部に波状文が施文される。胴部外面下半部に黒斑あり。淡褐色。54は復元口径14.9cm、残存器高16.7cm。口唇部は丸く仕上げられる。肩部に波状文が施文される。褐色。55は口径13.8cm、残存器高14.9cm。口縁部はあまり内湾せず、口唇部は丸く仕上げる。ヘラケズリ調整は肩部上端にまで及ぶ。肩部に波状文が施文される。褐色。56は復元口径16.2cm、残存器高12.9cm。口縁部はやや内湾し、口唇部はやや丸く仕上げられる。肩部には波状文が施文される。胴部外面には煤が付着する。褐色。57は復元口径17.8cm、残存器高12.3cm。口縁部は上半部が若干肥厚する。口唇部は丸く仕上げる。外器面のハケ目調整は若干磨耗する。肩部に波状文を有し、胴部外面には煤が付着する。淡褐色。58は復元口径19.6cm、残存器高9.3cm。口唇部は丸く仕上げられやや上方に立ち上がり、口縁部は若干内湾気味である。肩部には波状文を有し、口縁部内外面及び肩部外面に黒斑あり。褐色。59は復元口径20cm、残存器高14.7

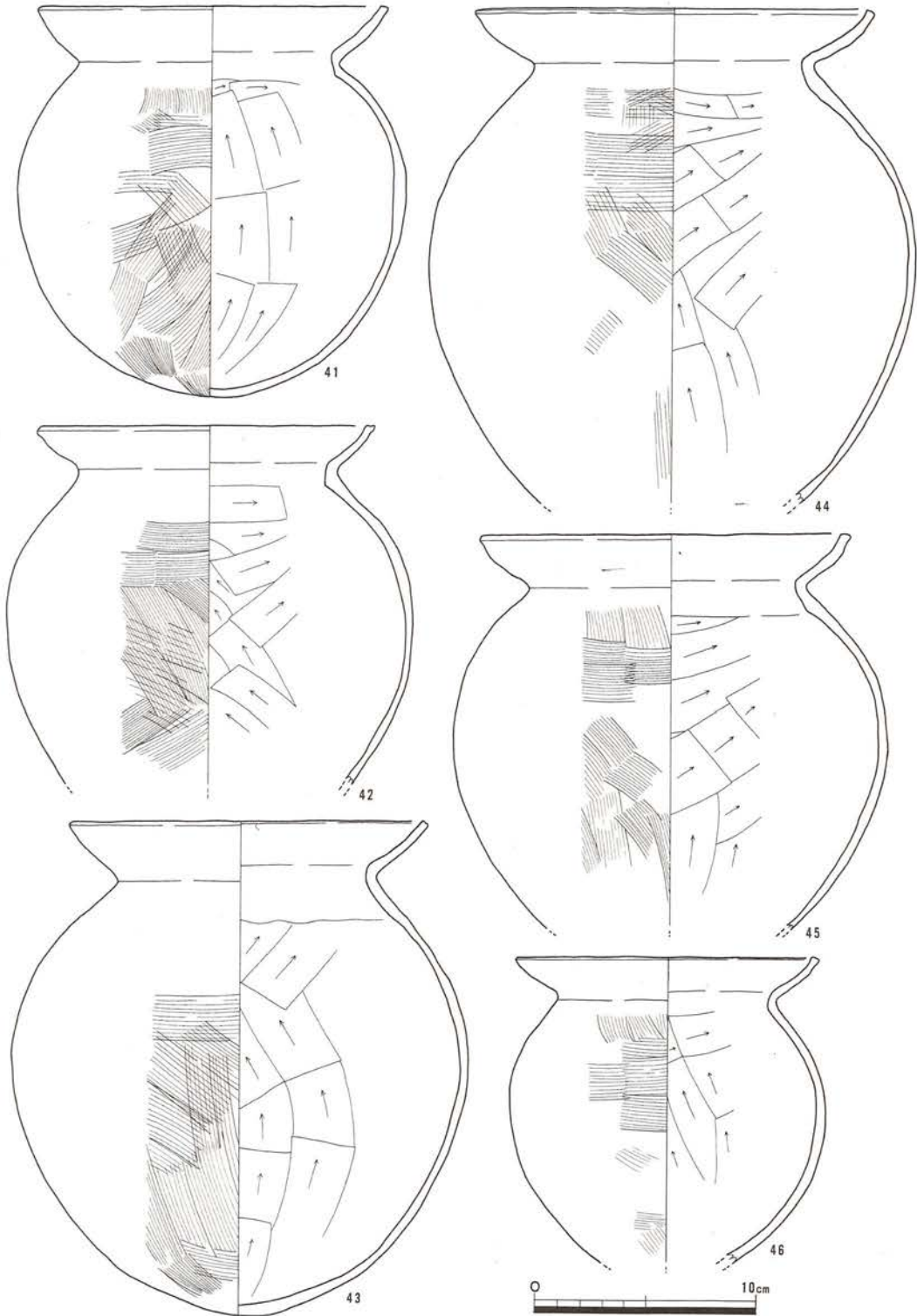


Fig. 26 SD101出土遺物実測図(13) (1/3)

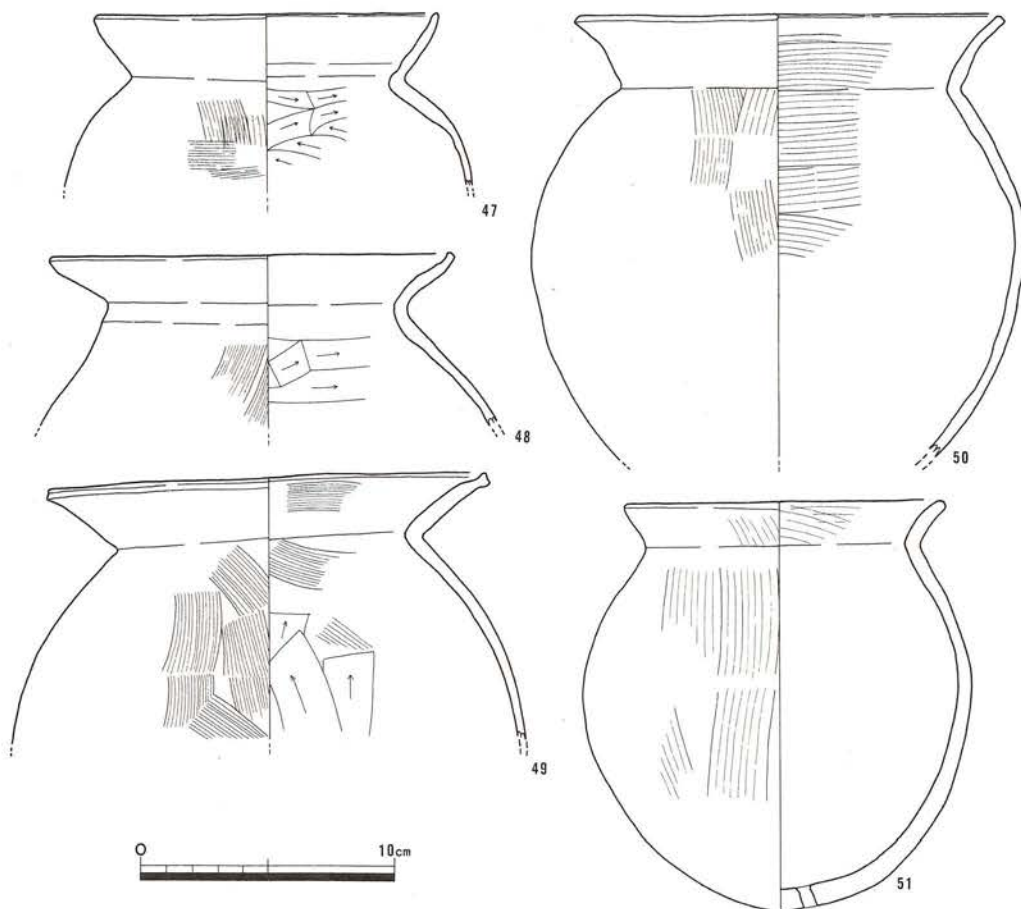


Fig.27 SD101出土遺物実測図(14) (1/3)

cm。口縁部は直線的に延びるが、口唇部で屈曲し上方に立ち上がる。口唇端部は丸く仕上げる。肩部には波状文が施文される。褐色。(以上 Fig.28)

60は口径12.5cm、残存器高10.7cm。口唇部は丸く仕上げられる。肩部には1条の沈線波状文が施文される。明褐色。61は口径15.3cm、器高20.2cm。口縁部は内湾し、口唇部は僅かに内方につまみ上げられているようである。肩部には1条の沈線波状文が施文される。明褐色。62は口径15.5cm、器高22.1cm。口縁部は内湾し、口唇部は内方につまみ上げられる。口唇端部は明瞭である。肩部には3条の波状文が施文される。褐色。63は復元口径18cm、残存器高11.4cm。口縁部は内湾し、口唇部はやや丸く仕上げられる。胴部外面は磨耗するがハケ目調整。肩部には1条の沈線波状文が施文される。明褐色。64は復元口径16.6cm、残存器高9.0cm。口縁部は内湾し、口唇部はやや丸く仕上げられる。肩部には波状文が施文される。明褐色。65は復元口径17.2cm、残存器高11.1cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされ、明瞭な端部を有する。肩部には波状文が施文される。外器面全体に黒斑あり。淡褐色。66は口径14.7cm、残存器高12.4cm。口

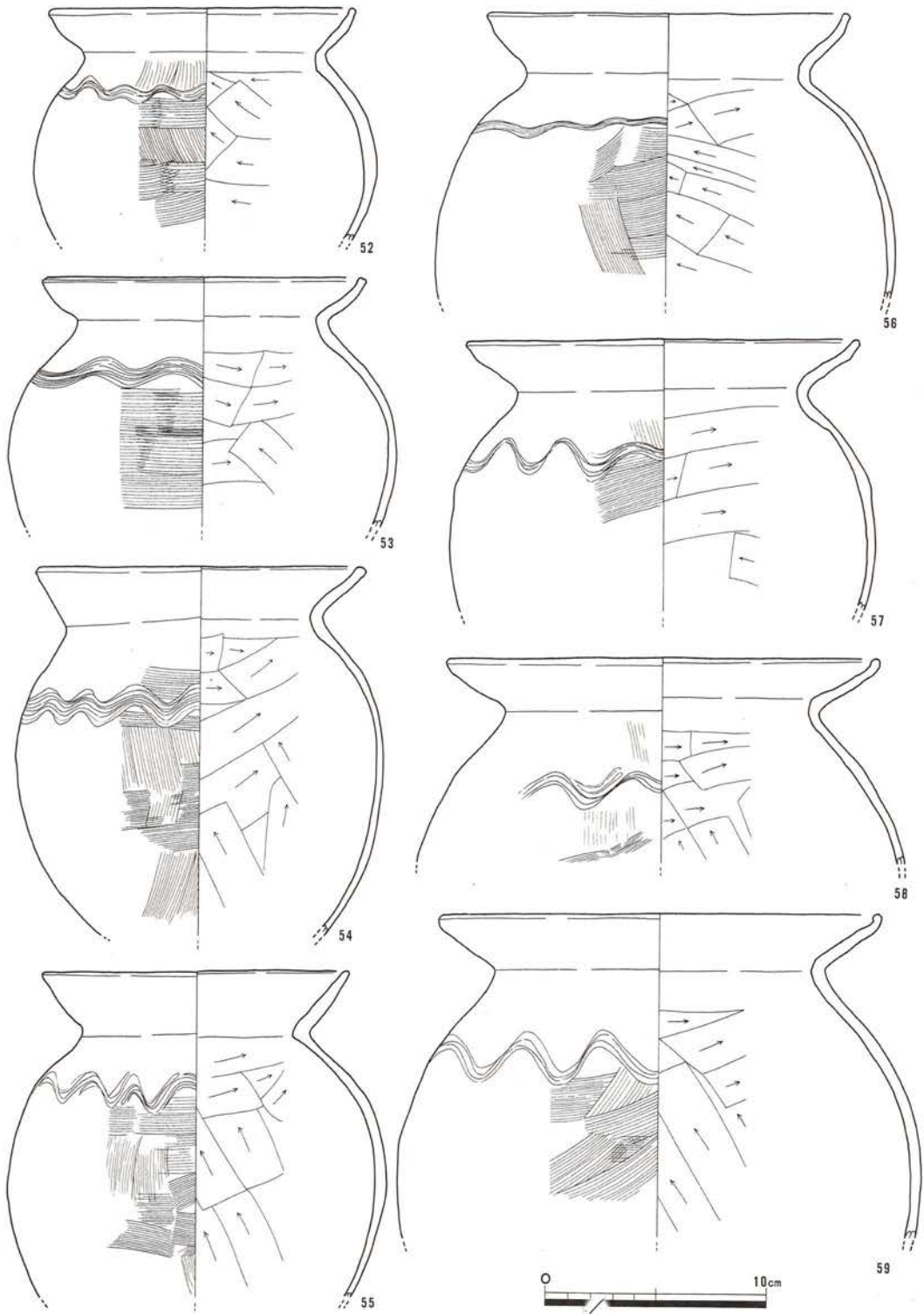


Fig.28 SD101出土遺物実測図(15) (1/3)

IV. 調査の記録

縁部は上半部が肥厚し、口唇端部は丸く仕上げられる。胴部上半部は比較的厚い器壁をもつ。肩部にはやや乱れた1条の波状文が施文される。褐色。67は口径15.9cm、残存器高9.1cm。口縁部は内湾し、口唇部はやや丸く仕上げられる。肩部には波状文が施文される。明褐色。

(以上 Fig.29)

68は復元口径13.8cm、残存器高6.5cm。口縁部は、口唇部が内方へ屈曲しながら立ち上がる。端部は丸く仕上げる。外器面は調整不明瞭。肩部に1条の沈線文が施文される。明褐色。69は復元口径13.6cm、残存器高6.7cm。口縁部には比較的強い横ナデ調整。口唇端部は面取りされる。胴部外面は磨耗のため調整不明瞭。肩部に1条の沈線文が施文される。褐色。70は口径14.6cm、残存器高11.6cm。口唇部は丸く仕上げられる。外器面のハケ目調整はやや磨耗する。肩部に1条の沈線文が施文される。褐色。71は復元口径14.4cm、残存器高16cm。口縁部はほぼ直線的に延び、口唇端部は丸く仕上げられる。肩部には1条の沈線文が施文される。明褐色。72は復元口径15.2cm、残存器高11.4cm。口唇部は面取りされ、端部は外方に若干肥厚する。肩部内面にはナデ調整。肩部には1条の沈線文が施文される。褐色。73は復元口径15.2cm、残存器高6.7cm。口縁部はやや内湾し、口唇端部は僅かに面取りされる。胴部外面は磨耗のため調整不明。肩部には1条の沈線文が施文される。淡赤褐色。74は復元口径15.8cm、残存器高11.2cm。口唇部は面取りされ、端面は外方へ向く。肩部に1条の沈線文が施文される。明褐色。75は復元口径15.6cm、残存器高11.2cm。口縁部は内湾し、口唇部は丸く仕上げられる。肩部に1条の沈線文が施文される。外器面には煤が付着し、黒斑あり。淡赤褐色。76は復元口径17cm、残存器高9.0cm。口唇部は外方にやや肥厚し、面取りされる。肩部は1条の沈線文が施文される。褐色。77は復元口径18.4cm、残存器高8.7cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。比較的明瞭な端面をもつ。肩部には1条の沈線文が施文される。口縁部内面に黒斑あり。外器面には漆状樹脂が塗付される。淡褐色。

(以上 Fig.30)

78は復元口径17cm、残存器高12.9cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は丸く仕上げられる。肩部に1条の沈線文を施文する。褐色。79は復元口径17.4cm、残存器高13.5cm。口縁部には強い横ナデ調整。口唇部は面取りされる。肩部には1条の沈線文が施文される。褐色。80は復元口径18.6cm、残存器高13.9cm。口縁部はやや内湾し、口唇部はやや甘い面取りがされる。肩部に1条の沈線文が施文される。外器面全面に煤が付着する。暗褐色。81は口径20.2cm、残存器高9.7cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は面取りされる。肩部に1条の沈線文が施文される。胴部に黒斑あり。淡赤褐色。82は復元口径16cm、残存器高10.6cm。口縁部は内湾し、口唇部は面取りされる。肩部には2列の斜方向刺突文が施文される。褐色。83は口径15.1cm、残存器高9.9cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は僅かに面取りされる。肩部には波状文を意識したような刺突列点文が施文される。褐色。84は残存器高17.3cm。肩部に1条の沈線文、その下に斜方向の短い沈線文が施文される。胴部外面には煤が付着する。口縁部を欠くため明確ではないが、施文の状況から考えて

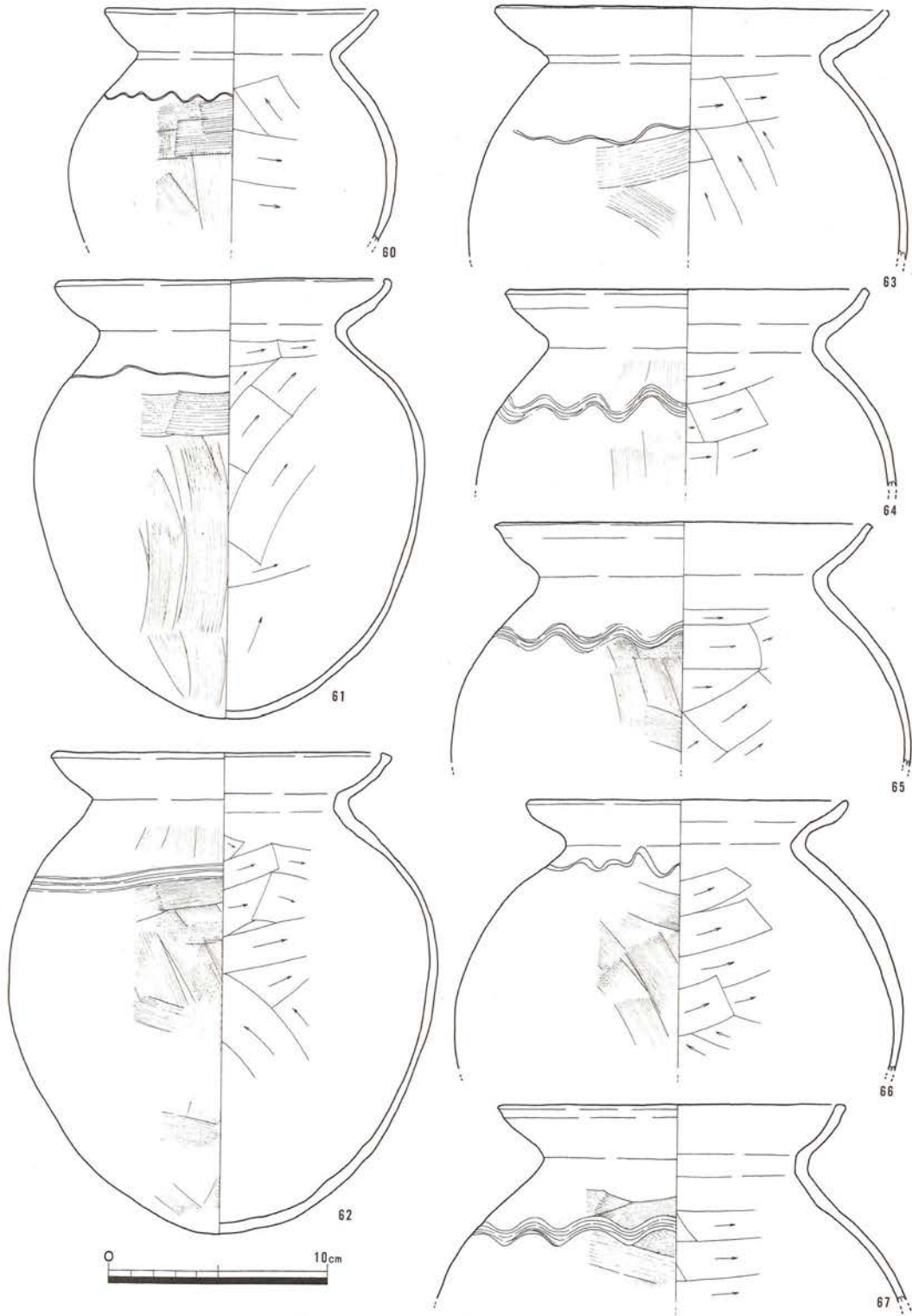


Fig. 29 SD101出土遺物実測図(16) (1/3)

IV. 調査の記録

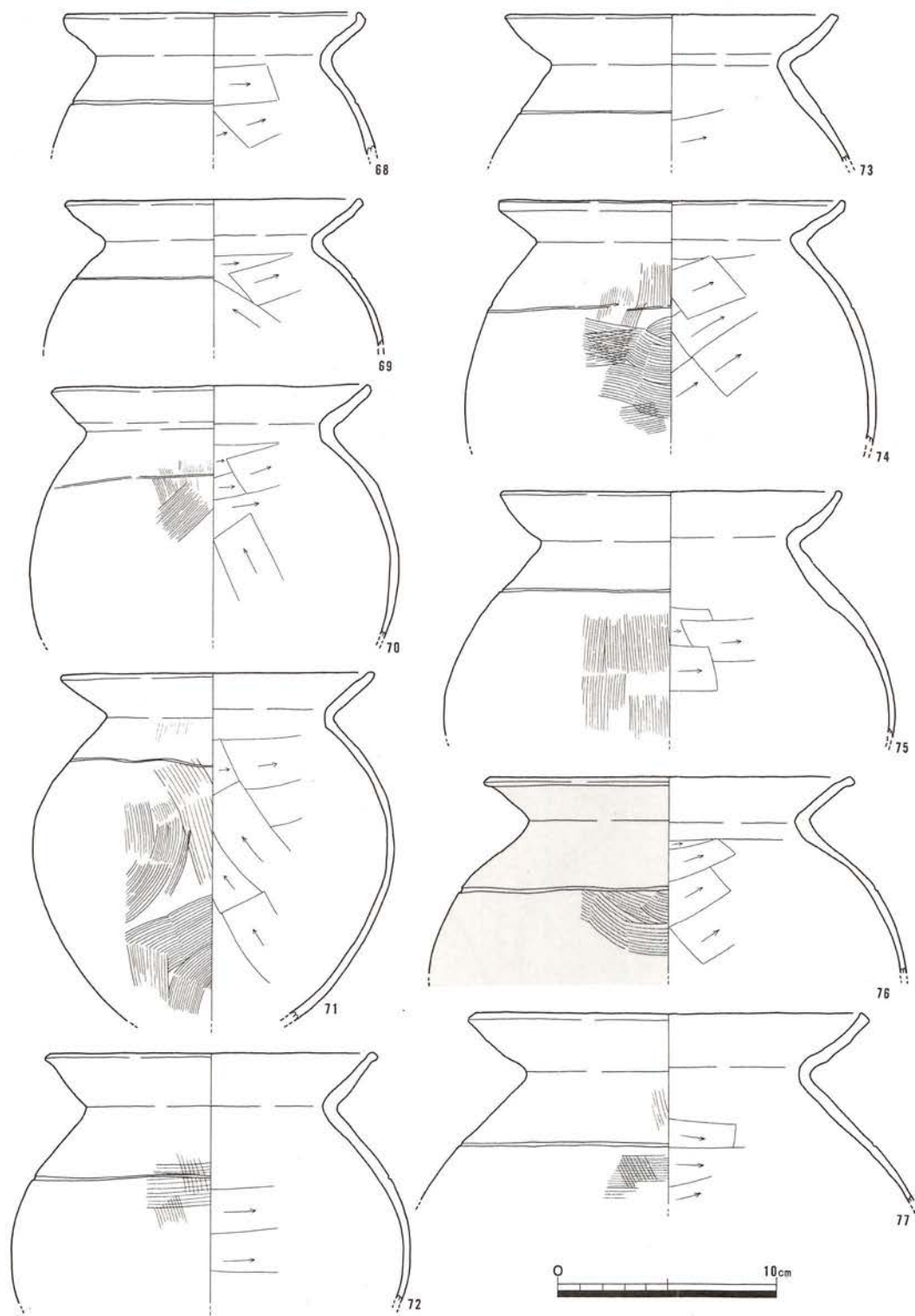


Fig.30 SD101出土遺物実測図(17) (1/3)

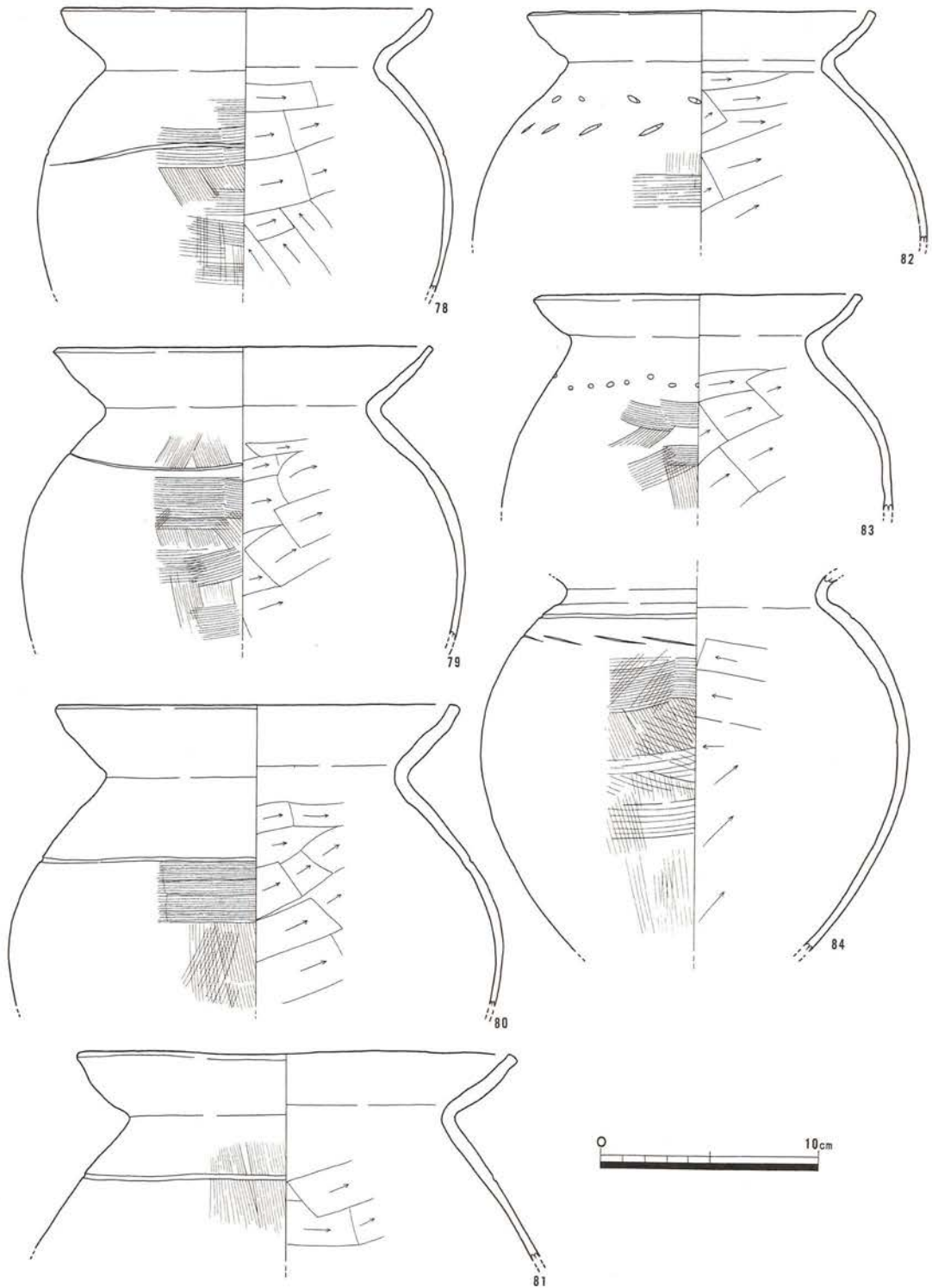


Fig.31 SD101出土遺物実測図(18) (1/3)

IV. 調査の記録

「山陰系土器」の可能性がある。(以上 Fig.31)

山陰系土器 (Fig.32・33)

台付坏 (1~5) 1は口径14.4cm、底径7.3cm、器高5.9cm。坏部は口唇部にナデ調整、体部外面及び体部内面上半にハケ目調整、内底にナデ調整。裾部に横ナデ調整、他はナデ調整。褐色。2は復元口径13.2cm、底径7.0cm、器高6.6cm。坏部は口唇部に横ナデ調整、体部内外面に縦方向のヘラミガキ調整。台部は横ナデ調整。褐色。3は復元口径13.6cm、残存器高4.1cm。内外面に横方向のヘラミガキ調整。褐色。4は復元口径15.6cm、残存器高3.8cm。口唇部に横ナデ調整、体部外面にハケ目調整、体部内面に縦方向のヘラミガキ調整。淡褐色。5は底径4.5cm、残存器高4.5cm。坏部内面にヘラミガキ調整。外器面は磨耗のため調整不明瞭だがヘラミガキ調整か。裾部に横ナデ調整。裾部に黒斑あり。明褐色。

甕 (6~8・11・12) 6は復元口径15.8cm、残存器高13.6cm。口縁部はやや内湾し、口唇部は僅かに丸みを帯びる。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、頸部内面にナデ調整、胴部内面はヘラケズリ調整。肩部には1条の沈線文が施文される。外器面には漆状樹脂が塗付される。暗褐色。7は口径15.9cm、残存器高10.9cm。口縁部は外方に立ち上がり、口唇部は面取りされ端面は外方へ向く。口縁部内外面に横ナデ調整、胴部外面にハケ目調整、頸部内面にナデ調整、胴部内面はヘラケズリ調整。外器面全面に煤が付着する。褐色。8は口径14.7cm、残存器高27.4cm。口縁部は真つすぐに立ち上がり、端部は面取りされているようである。口縁部内外面に横ナデ調整、頸部内外面にナデ調整、肩部外面から胴部にはハケ目調整、胴部内面はヘラケズリ調整。肩部にはヘラ(?)による押圧列線文が上下に施文される。褐色。11は口径18.7cm、底径9.8cm、器高19.2cm。平底の甕である。口縁部に横ナデ調整、肩部外面から胴部全域にハケ目調整。胴部内面にはヘラケズリ調整。外底にはナデ調整。褐色。12は復元口径29.6cm、残存器高16.3cm。大型の甕である。口縁部に横ナデ調整。頸部・肩部内外面にナデ調整。胴部外面にハケ目調整、胴部内面にヘラケズリ調整。口縁部内外面及び胴部外面に黒斑あり。淡褐色。

壺 (9・10) 9は口径9.0cm、残存器高7.4cm。器面の磨耗が著しく調整不明。ただし肩部内面にはヘラケズリ調整が行なわれているようである。明褐色。10は完形。口径11.8cm、器高19.5cm。口縁部は内外面に横ナデ調整。頸部外面には横ナデ調整、胴部外面にはハケ目調整。頸部内面から胴部内面にはナデ調整。外器面全体に煤が付着し、黒斑あり。淡黄褐色。

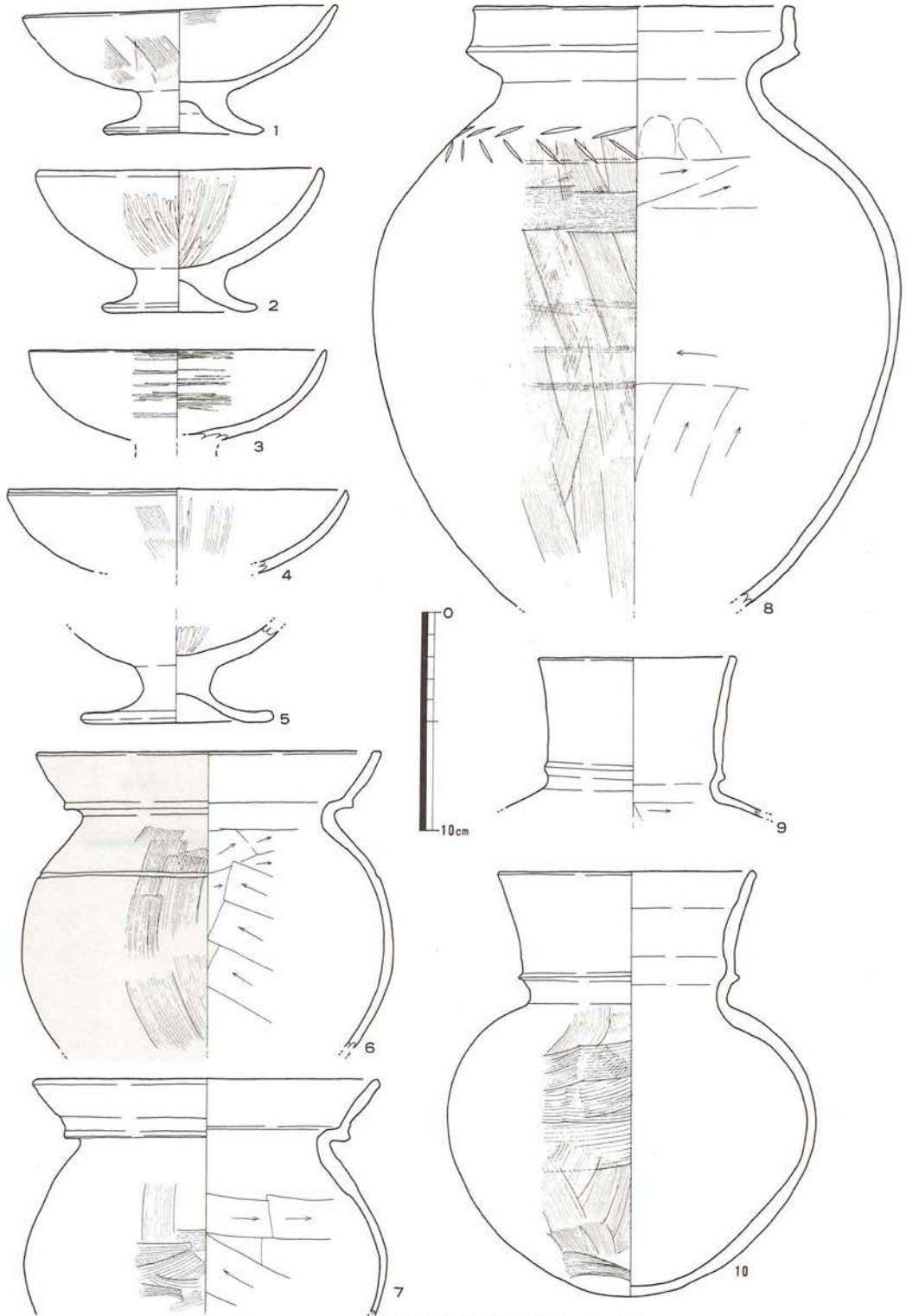


Fig. 32 SD101出土遺物実測図(19) (1/3)

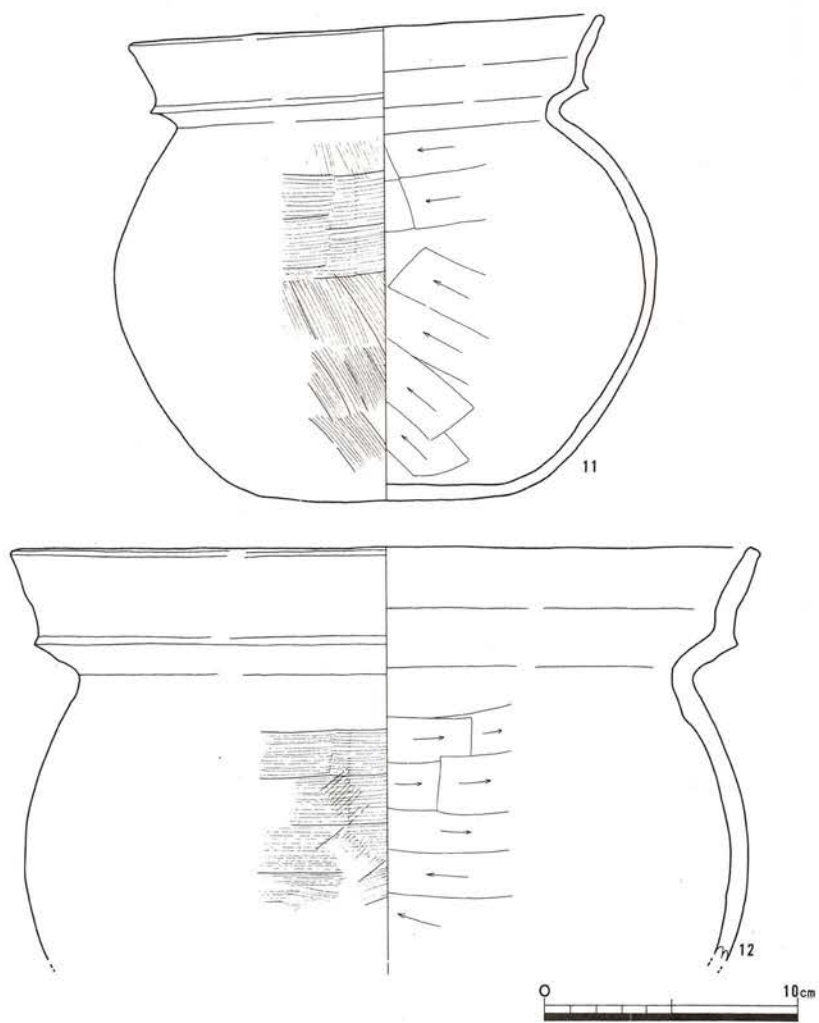


Fig.33 SD101出土遺物実測図(20) (1/3)

2. C地区の遺構と遺物

C地区において検出した主要な遺構は弥生時代の土壙2基である。古墳時代の遺構・遺物は検出しなかった。

(1) 弥生時代の遺構と遺物

(a) 土壙と出土遺物

SK301土壙 (Fig.35)

AP-18・19グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。検出面の標高は6.8m前後である。遺構の南部1/3程度は調査区外にあり、完全には検出できなかった。平面形は楕円形を呈するものと思われ、検出長軸長1.4m、短軸長1.4mを測る。最深部で0.5mを測る。西壁は緩やかに立ち上がり、東壁は底面から垂直に立ち上がりながら外方へ延びている。遺構北部には平坦面を有し、遺構中央部付近には深さ15~20cm程度の2基の小穴がさらに掘り込まれている。遺構埋土は黒褐色土の単層である。遺構中央部で、遺構底面からやや浮いた状態で弥生時代の甕・壺・高坏・鉢片が出土している。遺構の埋没過程で一括投棄されたものとする。

SK301出土遺物 (Fig.36・37)

甕 (1~11) 1は復元外径26.8cm、復元内口径21.4cm、残存器高17.5cm。口縁部に横ナデ調整。胴部外面はハケ目調整、口縁部下位にはハケ目調整をナデ消し。胴部内面はナデ調整。胴部外面に黒斑を有する。淡褐色。2は復元外径24.4cm、復元内口径21.6cm、残存器高15.2cm。

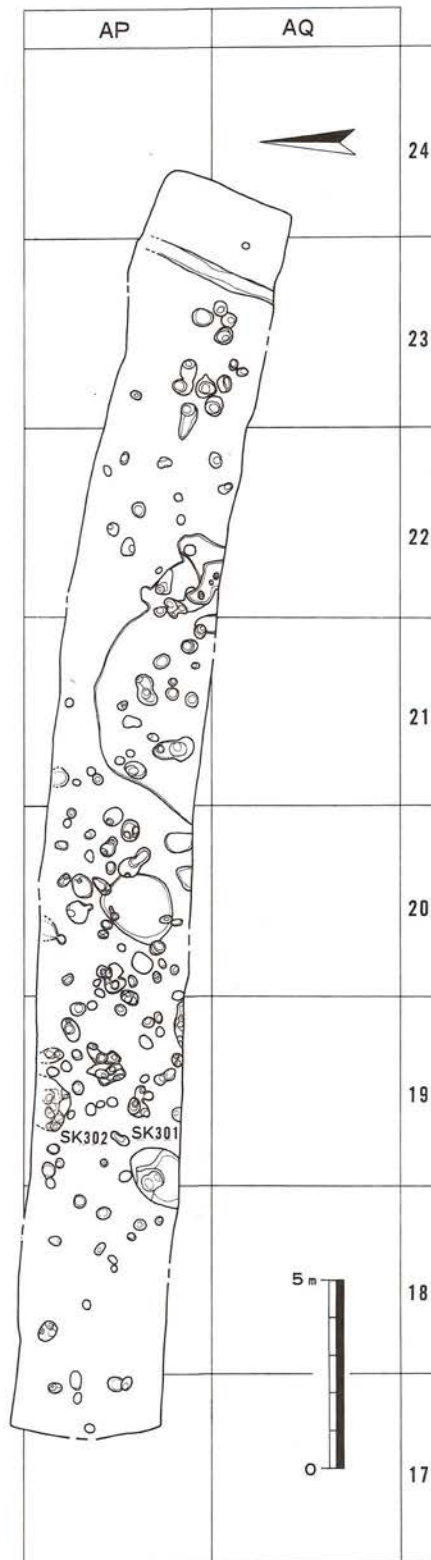


Fig. 34 久富遺跡1区C地区遺構配置図 (1/200)

IV. 調査の記録

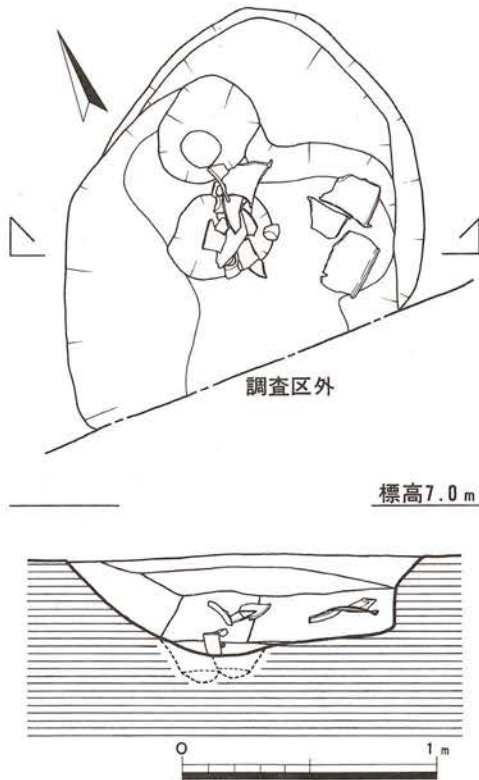


Fig. 35 SK301土壙実測図 (1/30)

口縁部に横ナデ調整。胴部外面はハケ目調整、口縁部下位にはハケ目調整をナデ消し。胴部内面はナデ調整。外面淡褐色、内面茶褐色。3は復元外口径28.4cm、復元内口径22.4cm、残存器高17.7cm。口縁部に横ナデ調整。胴部外面はハケ目調整、胴部内面はナデ調整。明褐色。4は復元外口径27.8cm、復元内口径22.0cm、残存器高16.0cm。口縁部に横ナデ調整。胴部外面はハケ目調整、口縁部下位にはハケ目調整をナデ消し。胴部内面はナデ調整。胴部上位に1条の沈線を施す。淡褐色。5は復元外口径37.0cm、復元内口径31.6cm、残存器高4.7cm。口縁部に横ナデ調整、胴部内外面にナデ調整。口縁端部に刻目を施す。淡褐色。6は底径6.1cm、残存器高6.9cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整。外面に黒斑を有する。褐色。7は復元底径7.0cm、残存器高8.3cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整。内面に黒斑を有する。褐色。8は底径7.0cm、残存器高12.7cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整。内底に煤附着。明褐色。9は底径6.6cm、残存器高12.7cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整。胴部外面及び内底に黒斑を有する。淡褐色。10は底径7.2cm、残存器高13.7cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整。内外面に黒斑を有する。褐色。11は底径7.0cm、残存器高10.1cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナデ調整。外底には十文字に沈線が施されている。淡褐色。

蓋 (12・13) 12は頭部径7.2cm、残存器高5.9cm。外面にハケ目調整、内面及び頭部外面にナデ調整。淡褐色。13は底径31cm、残存器高4.5cm。外面及び内面下部にハケ目調整、内面にナデ調整、裾端部に横ナデ調整。褐色。

壺 (14~19) 14は復元外口径27.7cm、復元内口径21.6cm、残存器高4.7cm。口縁部に横ナデ調整、他にはナデ調整。淡褐色。15は復元外口径30cm、復元内口径24.6cm、残存器高2.8cm。口縁部に横ナデ調整。口縁部下には暗文が施される。明褐色。16は復元口径31cm、残存器高6.4cm。口縁端部に横ナデ調整、内面にナデ調整。外面には暗文が施される。明褐色。18は復元底径5.0cm、残存器高3.4cm。外底及び内面にナデ調整。外面は不明瞭ながらヘラミガキ調整。外面に

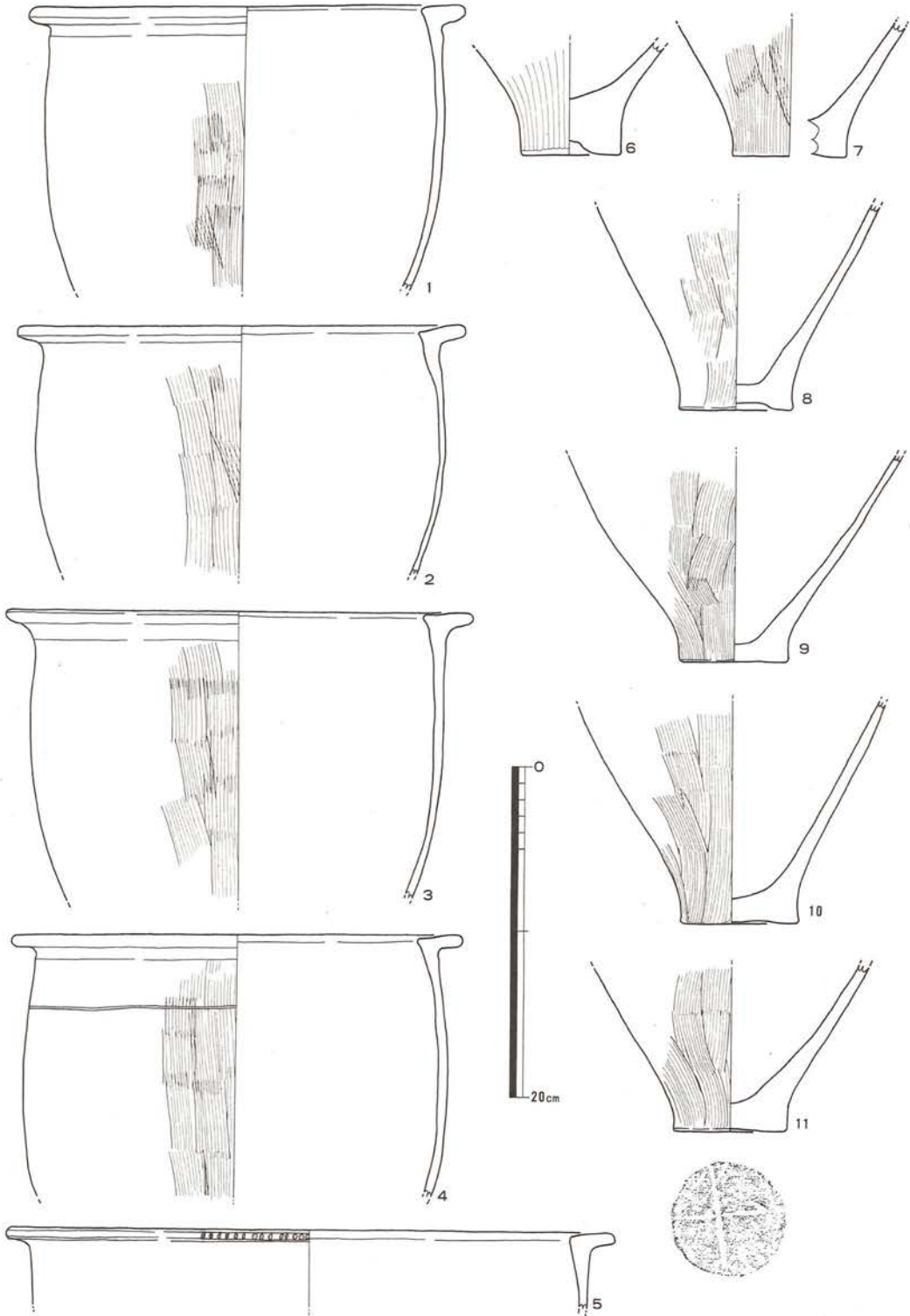


Fig. 36 SK301出土遺物実測図(1) (1/4)

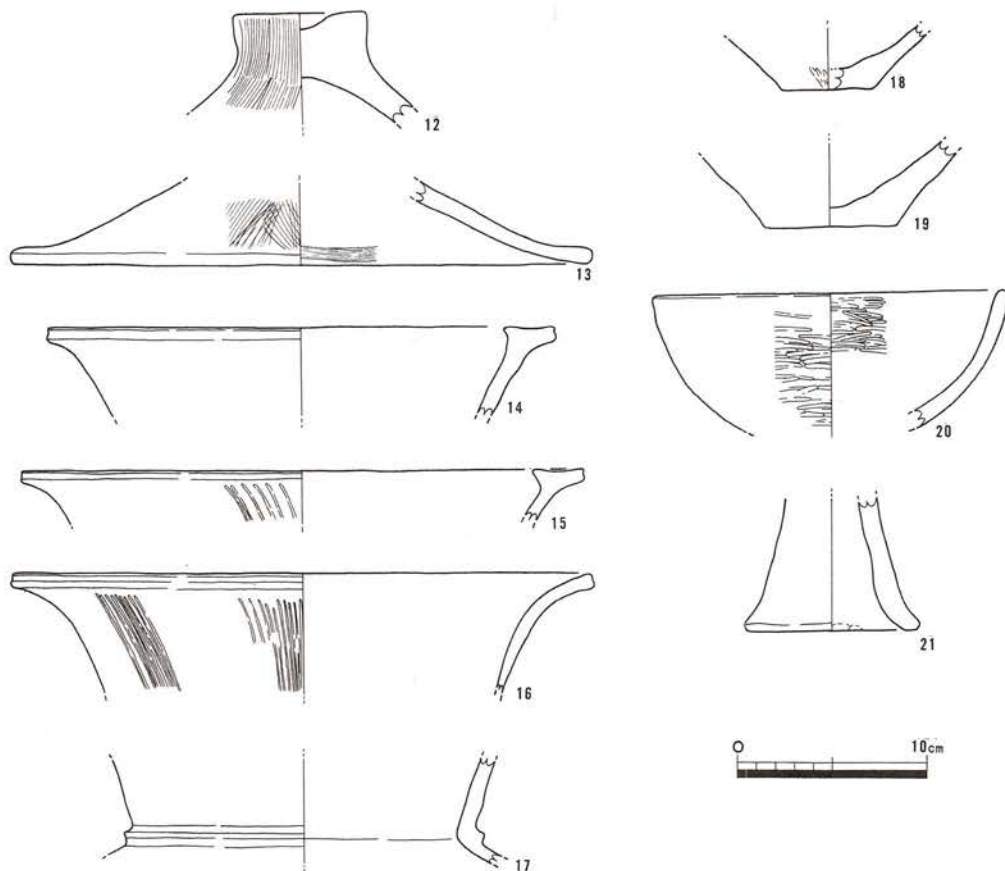


Fig.37 SK301出土遺物実測図 (1/4)

黒斑を有する。茶褐色。19は復元底径7.0cm、残存器高4.5cm。内外面ともにナデ調整。暗褐色。

鉢 (20) 復元口径19cm、残存器高7.3cm。口縁端部に横ナデ調整、体部外面及び内面上半部に横方向のヘラミガキ調整、内面下半部にナデ調整。外面下半部に黒斑を有する。明褐色。器

台 (21) 復元底径9.4cm、残存器高7.1cm。内外面ともにナデ調整、裾部内面に指頭圧痕を有する。淡褐色。

SK302土壇 (Fig.38)

AP-19グリッドで検出した。他遺構との切り合い・重複関係はない。検出面の標高は6.9m前後である。遺構北半は調査区外にある。平面形は一辺が1.3mの不整形をなすと思われる。断面形は逆台形状を呈し、深さ0.35mを測る。遺構埋土は黒褐色土の単層である。埋土中から弥生時代の甕・蓋が出土している。

SK302出土遺物 (Fig.39)

甕 (1~4) 1は復元外口径20.8cm、復元内口径16.4cm、残存器高9.8cm。口縁部に横ナテ調整、胴部外面にハケ目調整、胴部内面にナテ調整。暗褐色。2は復元外口径25.0cm、復元内口径19.2cm、残存器高5.1cm。口縁部に横ナテ調整、胴部内外面にナテ調整。口縁部下に1条の貼付突帯を有する。赤褐色。3は復元外口径27.0cm、復元内口径22.0cm、残存器高4.7cm。口縁部に横ナテ調整、胴部内外面にナテ調整。口縁部下に1条の貼付突帯を有する。淡褐色。4は復元底径6.5cm、残存器高12.5cm。外面にハケ目調整、内面及び外底にナテ調整。黄褐色。

蓋 (5) 頭部径6.0cm、残存器高10.6cm。外面にハケ目調整、内面及び頭部にナテ調整。外器面には丹塗りの痕跡が認められる。

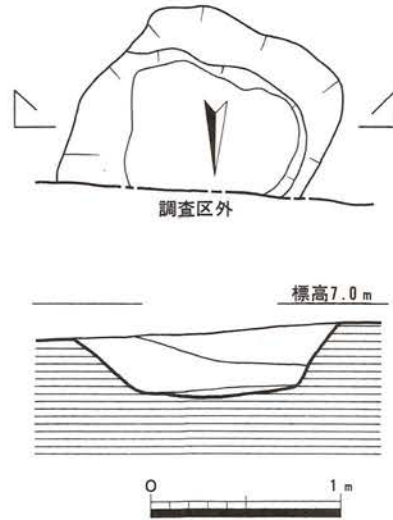


Fig. 38 SK302土壌実測図 (1/40)

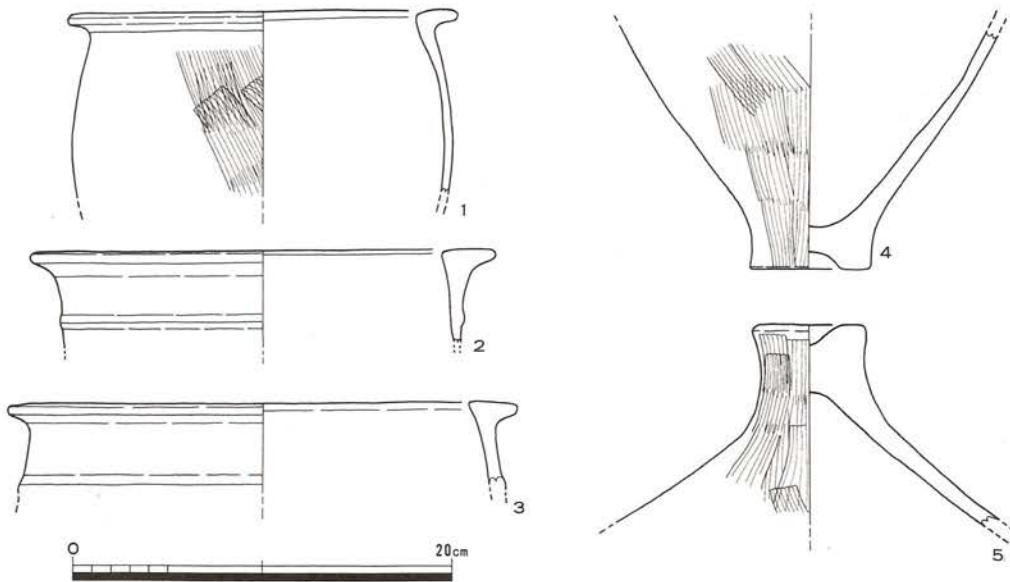


Fig. 39 SK302出土遺物実測図 (1/4)

V. 小 結

久富遺跡1区は、弥生時代中期と古墳時代前期の遺跡である。調査区からは近世の遺物も若干は出土しているが、明確な遺構からの出土は皆無で、すべて表面採集の遺物であった。遺跡の内容としては先述の2時期にほぼ限られている。

弥生時代中期の遺構としては、A地区ではSH102竪穴住居・SK105土壙がある。SH102竪穴住居は整然としたものではなく、全体的にいびつな印象を受ける。床面が安定しておらず、柱穴も確認できなかったため、竪穴住居としての性格づけに若干の不安も感じたが、遺構中央部に炉跡状のくぼみをもつことや遺構の全体形状が竪穴住居に近いことなどから判断して、竪穴住居として報告した。床面直上からは弥生中期初頭から前半の遺物が出土している。久富遺跡0区A地区においても近世の遺構に攪乱された竪穴住居が3軒ほど検出されており、確実ではないが本調査区のものとはほぼ同時期の竪穴住居と考えられる。SK105土壙は、他遺構に比べると出土遺物もやや多い。中期前半の遺構と考えて間違いはないだろう。

C地区ではSK301土壙・SK302土壙がある。いずれも遺物の出土状況からみて廃棄土壙と判断した。前半期の土器が一括出土している。

この他に、弥生時代の遺構として報告したものにA地区において検出したSK107土壙やSE109井戸がある。いずれも出土遺物が非常に少なく、確実な時期決定はできなかった。今回は少ない出土遺物から判断して弥生時代の遺構として報告を行なった。

さて、今回の調査において最も注目されるのは、A地区で検出した古墳時代前期の遺構と遺物であろう。検出したのは、掘立柱建物1棟、井戸1基、溝2条である。

SB110掘立柱建物は1間×2間の建物で、円形の柱穴を有する。1棟のみの検出であり、他遺構との重複・切り合いはなく、柱穴からの出土遺物もないため、確実な時期決定資料に欠けている。ただ、久富遺跡の東方にある村徳永遺跡で検出されている弥生時代の掘立柱建物とは規格・規模とも大きく異なっており、本建物が弥生時代の所産であるとは考えにくい。また、古墳時代前期の溝SD101と切り合うことがなく、逆に溝の走行軸方向と建物の主軸方向が近似していることを考えれば、古墳時代の掘立柱建物である可能性が高いと考えられる。

井戸もまた、SE104だけが単独で存在する。建物に付設したものではなく、SD101溝を挟んで東側に位置している。井戸内からは完形の土師器甕が伏せられた状態で検出されている。溝からの出土遺物と比較すると、器壁がやや厚く、器面調整もやや粗い印象を受ける。時期的には溝出土のものより若干新しいものであろうか。

溝はSD101とSD103の2条である。調査区が狭いため完全に検出することができなかった。これらの溝とかなり関連性の高いと考えられるものに、久富遺跡0区B地区で検出されたSD006溝がある。以下、SD006も含めて溝について述べる。全体の大まかな位置関係について

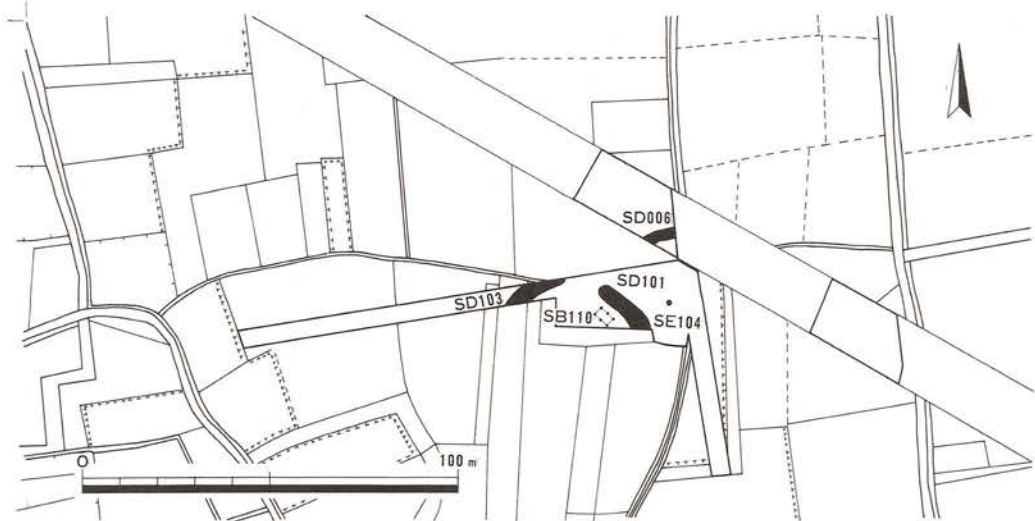


Fig. 40 久富遺跡古墳時代遺構配置概略図 (1/2,000)

はFig. 40に示しておいた。

SD006は「検出全長約10m、最大幅2.6m、最深部0.6mを測る。南部西側掘り込みが、わずかに南曲をみせている。北部はそのまま北上（「東部はそのまま東進」の誤り）すると考えると農業用水路をはさんで東側にも検出できるはずであるが、遺構は全く検出できなかった。そうなれば、この溝は農業用水路付近が北端掘り込み（「東端掘り込み」の誤り）になるか、北折するかであるが、確認できなかった。埋土は黒褐色土を呈し、下層部になるにつれて淡黒褐色になる。」と報告されている。SD101・SD103と比較すると、規模が多少小さいだけで、ほぼ同じ形状である。また、SD101・103の状況からはSD006が北折するとは考えにくい。SD006は東側で途切れるものと思われる。0区の調査担当者も同様、所見を述べており、ほぼ間違いのないと考える。ただ、本調査区の溝のように陸橋状の空間を持ってさらに東側に溝が存在しているかどうかは今のところ明らかではない。

溝の出土遺物の比較では、ほぼ同時期の遺物が確認されている。器種構成についてもほぼ同じである。ただ、1つ異なる点を挙げるならば、SD006出土遺物において手捏土器の出土率が非常に高いことであろう。このことから「溝中祭祀」の指摘がなされている。今回の調査では手捏土器の出土は皆無であった。山陰系土器の出土は今回は充実している。器種も豊富で、これだけまとめて出土したのは、佐賀市域では初めてである。総じて比較的丁寧な造りである。搬入品かどうかは現在のところ不明であり、今後の分析を待ちたい。なお、SD006出土遺物で報告されなかった山陰系土器について今回報告しておく（Fig.41）。1は復元口径32cm、残存器高3.5cm。内外面ともにナデ調整。淡褐色。2は復元口径31.8cm、残存器高6.8cm。口縁部外面はハケ目調整後ナデ調整。他はナデ調整。淡褐色。3は復元口径31.2cm、残存器高7.6cm。磨耗のため調整不明。外器面に煤が付着する。外面淡褐色、内面茶灰色。

V. 小 結

また、SD101からは、外器面に漆様樹脂を塗布した古式土師器甕が確認されている。岡田文男氏の分析によれば、「漆膜とみられる塗膜の構造はやや複雑で、土器表面直上から順にやや透明な層と不透明な層が互層になっている。何層からなるのか特定することは難しいが、繰り返し漆様樹脂を塗布した結果とみられる。」という観察結果が報告されている。単なる煤の付着と誤認してしまう可能性もあり、今後の調査においては注意を払う必要がある。

さて、このSD006とSD101・103との関係であるが、今回は明らかにできなかった。位置的にみてSD006とSD103が連続する1つの溝であると考えられないこともないが、検出部分が狭く確認はできない。ただ、SD103北部が一旦途切れるような気配を見せるところから、SD103はSD006とは繋がらずに、陸橋部状の空間を介してSD101とセットになる可能性も指摘し得る。溝については今回はこの程度の指摘しかできない。

調査面積が非常に狭く、遺跡の全体の概要を掴むまでには残念ながら至らなかった。しかし、当地域において今まで明らかでなかった古墳時代の集落遺跡について、少ないながらも資料を得られたことは、大きな成果であろう。今後の調査に期待したい。

参考・引用文献

- 1) 佐賀市教育委員会 1985 『東千布遺跡（東千布遺跡・久富遺跡）』 佐賀市文化財調査報告書第15集
- 2) 岡田文男 1992 「久富遺跡の土器表面の漆様塗膜の観察結果」『瓦町遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第41集

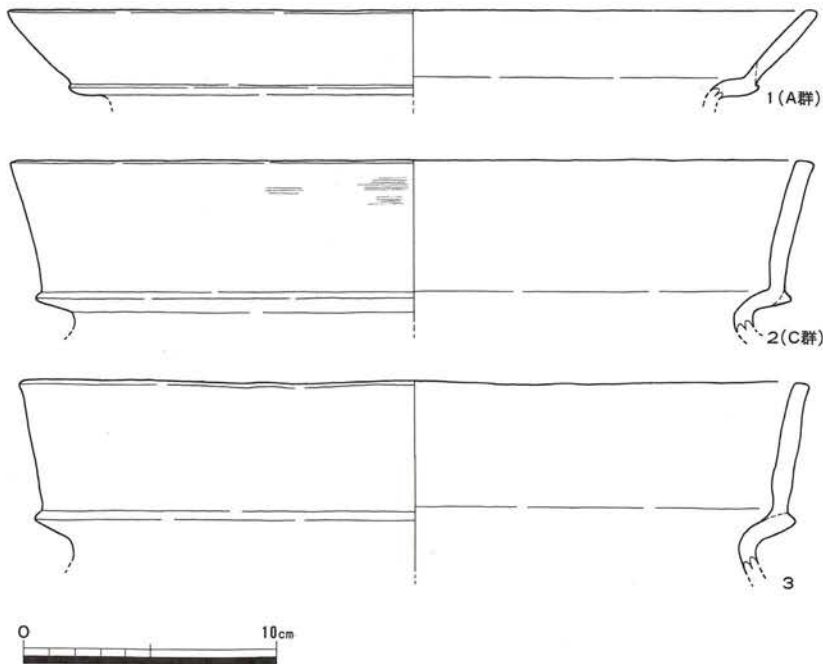


Fig. 41 久富遺跡0区B地区006出土遺物実測図 (1/3)

図 版

遺物写真は挿図と対照できるように、
挿図番号を表記した。

27 - 31

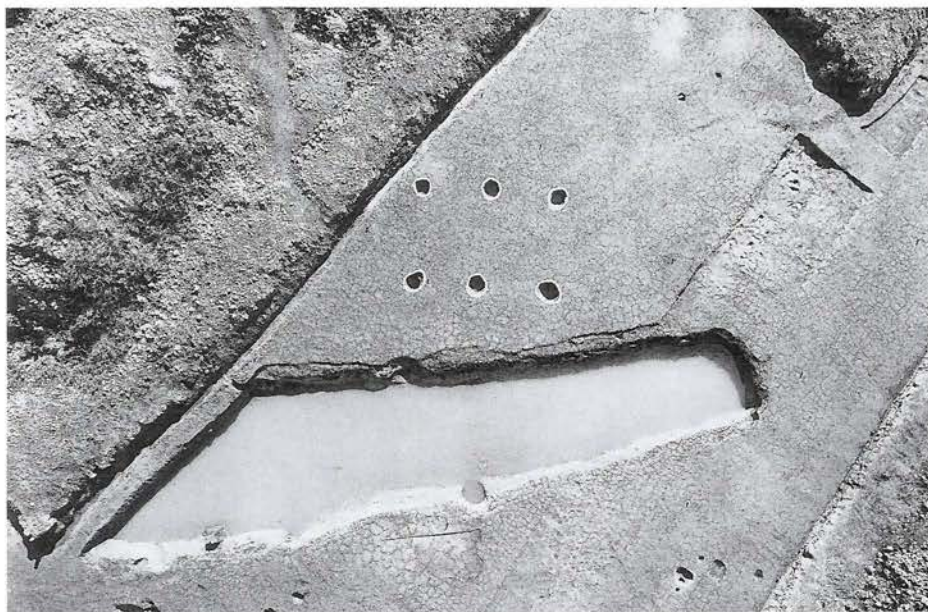
挿図番号 挿図内遺物番号



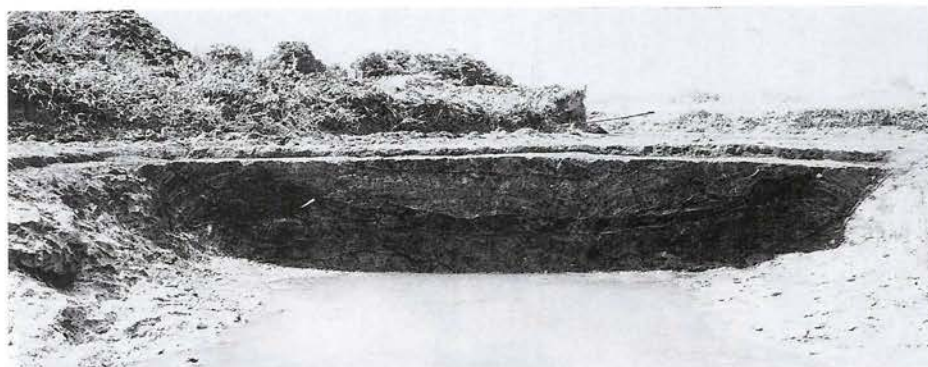
PL. 1-1 久富遺跡1区 (A・B・C地区) 全景 (東から)



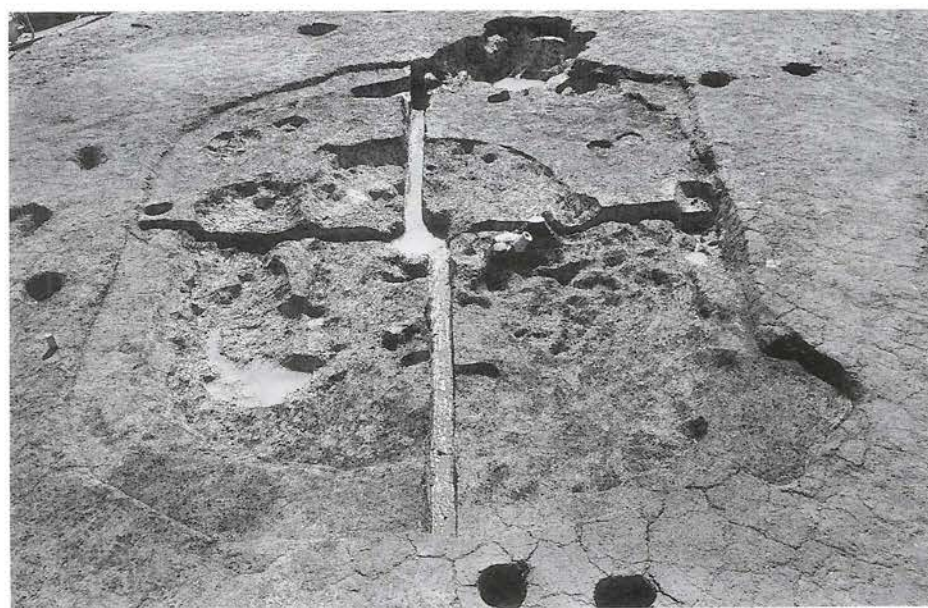
PL. 1-2 久富遺跡1区A地区 近景



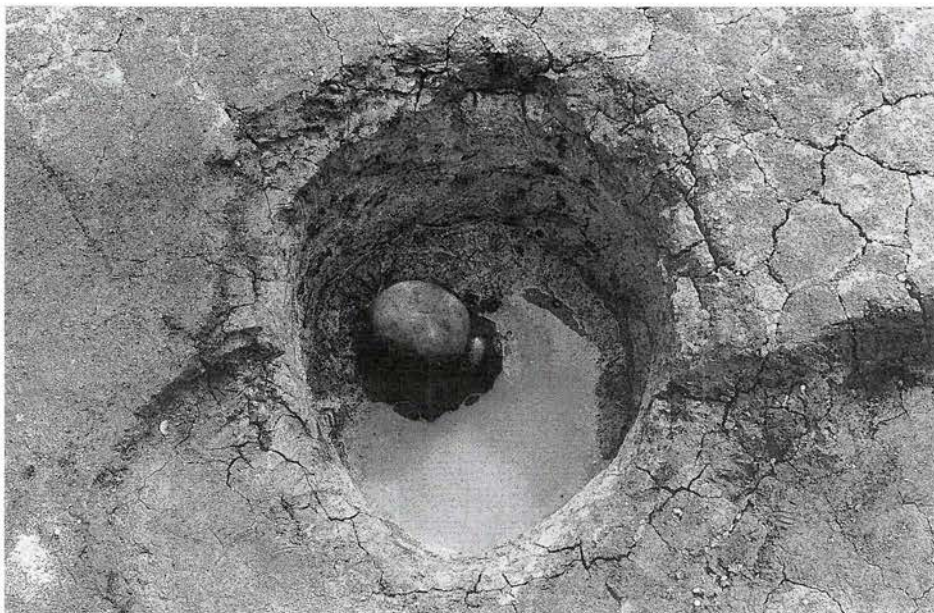
PL. 2-1 SD101溝及びSB110掘立柱建物



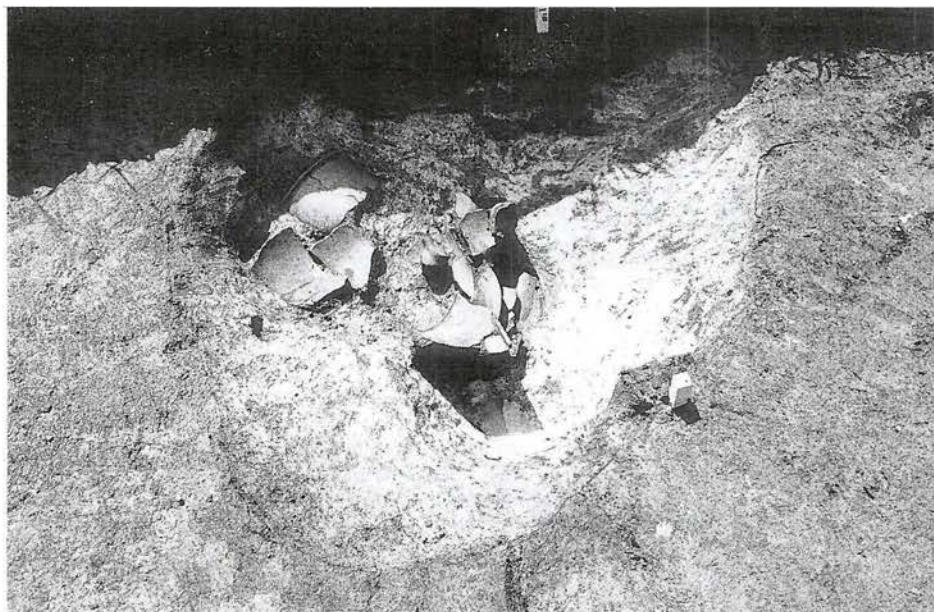
PL. 2-2 SD101溝土層断面（北から）



PL. 2-3 SH102竪穴住居（東から）



PL. 3-1 SE104井戸 (西から)



PL. 3-2 SK301土壙 (北から)



14-10



17-10



17-15



16-14



16-17



16-30



17-1



16-19



17-14



15-7



32-1



21-12



12-1



33-11



19-8



32-8



26-41



32-2



29-62

久富遺跡1区収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量(cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書番号	コナチ番号	A/B別
HDM-1-001	甕	土師器	古墳	9.5	口径15.9 底径—	器高17.8	SD101	1990.9	1-1	26-41	7	A
HDM-1-002	甕	土師器	古墳	3.0	口径13.9 底径—	器高10.5残	SD101	1990.9	1-43	28-52	7	A
HDM-1-003	甕	土師器	古墳	5.0	口径16.0 底径—	器高15.0残	SD101	1990.9	1-53	22-7	7	A
HDM-1-004	甕	土師器	古墳	5.0	口径12.5 底径—	器高10.7残	SD101	1990.9	1-54	29-60	7	A
HDM-1-005	甕	土師器	古墳	2.0	口径15.3 底径—	器高6.1残	SD101	1990.9	2-55	23-16	7	A
HDM-1-006	甕	土師器	古墳	7.0	口径15.3 底径—	器高20.2	SD101	1990.9	2-58	29-61	7	A
HDM-1-007	甕	土師器	古墳	6.0	口径12.7 底径—	器高16.2	SD101	1990.9	2-63	27-51	8	A
HDM-1-008	甕	土師器	古墳	7.0	口径13.9 底径—	器高14.0残	SD101	1990.9	2-94	26-46	8	A
HDM-1-009	甕	土師器	古墳	5.0	口径15.9 底径—	器高10.9残	SD101	1990.9	3-44	32-7	8	A
HDM-1-010	甕	土師器	古墳	6.0	口径16.3 底径—	器高18.0残	SD101	1990.9	3-95	26-45	8	A
HDM-1-011	甕	土師器	古墳	5.0	口径15.1 底径—	器高17.5残	SD101	1990.9	3-96	25-36	8	A
HDM-1-012	甕	土師器	古墳	3.0	口径15.1 底径—	器高9.9残	SD101	1990.9	3-99	31-83	9	A
HDM-1-013	甕	土師器	古墳	5.0	口径15.3 底径—	器高16.3残	SD101	1990.9	4-97	26-42	9	A
HDM-1-014	甕	土師器	古墳	8.0	口径14.4推 底径—	器高16.0残	SD101	1990.9	4-98	30-71	9	A
HDM-1-015	甕	土師器	古墳	2.0	口径17.4推 底径—	器高13.0残	SD101	1990.9	4-100	25-37	9	A
HDM-1-016	甕	土師器	古墳	1.5	口径20.0推 底径—	器高14.7残	SD101	1990.9	4-101	28-59	9	A
HDM-1-017	甕	土師器	古墳	不明	口径17.0推 底径—	器高9.0残	SD101	1990.9	5-102	30-76	9	A
HDM-1-018	甕	土師器	古墳	不明	口径15.8推 底径—	器高13.6残	SD101	1990.9	5-103	32-6	9	A
HDM-1-019	甕	土師器	古墳	5.0	口径16.2推 底径—	器高22.6	SD101	1990.9	5-118	26-43	10	A
HDM-1-020	甕	土師器	古墳	3.0	口径15.5 底径—	器高22.1	SD101	1990.9	6-119	29-62	10	A
HDM-1-021	甕	土師器	古墳	2.0	口径18.0推 底径—	器高22.5残	SD101	1990.9	6-120	26-44	10	A
HDM-1-022	甕	土師器	古墳	不明	口径13.4 底径—	器高7.2残	SD101	1990.9	6-121	22-2	10	A
HDM-1-023	甕	土師器	古墳	不明	口径16.6推 底径—	器高9.0残	SD101	1990.9	7-122	29-64	10	A
HDM-1-024	甕	土師器	古墳	不明	口径14.6推 底径—	器高11.3残	SD101	1990.9	7-123	28-53	10	A
HDM-1-025	甕	土師器	古墳	不明	口径14.6推 底径—	器高6.4残	SD101	1990.9	7-124	22-1	10	A
HDM-1-026	甕	土師器	古墳	不明	口径15.5 底径—	器高7.3残	SD101	1990.9	7-125	22-6	10	A
HDM-1-027	甕	土師器	古墳	2.0	口径14.5 底径—	器高8.7残	SD101	1990.9	7-126	22-4	10	A
HDM-1-028	甕	土師器	古墳	4.0	口径14.6推 底径—	器高11.6残	SD101	1990.9	7-127	30-70	10	A
HDM-1-029	甕	土師器	古墳	3.0	口径13.3 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	8-128	24-24	11	A
HDM-1-030	甕	土師器	古墳	不明	口径20.2 底径—	器高9.7残	SD101	1990.9	8-129	31-81	11	A

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量(cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	結合部番号	コナリ番号	A, B別
HDM-1-031	甕	土師器	古墳	不明	口径15.0 底径—	器高9.4残	SD101	1990.9	8-130	22-5	11	A
HDM-1-032	甕	土師器	古墳	不明	口径17.0推 底径—	器高12.9残	SD101	1990.9	8-131	31-78	11	A
HDM-1-033	甕	土師器	古墳	40	口径14.9推 底径—	器高16.7残	SD101	1990.9	9-132	28-54	11	A
HDM-1-034	甕	土師器	古墳	不明	口径15.0 底径—	器高7.0残	SD101	1990.9	9-133	23-15	11	A
HDM-1-035	甕	土師器	古墳	不明	口径15.2推 底径—	器高11.4残	SD101	1990.9	9-134	30-72	11	A
HDM-1-036	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2 底径—	器高14.5残	SD101	1990.9	9-135	25-40	11	A
HDM-1-037	甕	土師器	古墳	不明	口径13.2 底径—	器高10.0残	SD101	1990.9	10-136	22-3	11	A
HDM-1-038	甕	土師器	古墳	30	口径16.4 底径—	器高10.7残	SD101	1990.9	10-137	25-35	11	A
HDM-1-039	甕	土師器	古墳	不明	口径16.2 底径—	器高13.8残	SD101	1990.9	10-138	25-34	12	A
HDM-1-040	甕	土師器	古墳	不明	口径16.6 底径—	器高11.7残	SD101	1990.9	10-141	22-8	12	A
HDM-1-041	甕	土師器	古墳	不明	口径17.3推 底径—	器高16.5残	SD101	1990.9	11-139	22-10	12	A
HDM-1-042	甕	土師器	古墳	不明	口径17.0推 底径—	器高16.3残	SD101	1990.9	11-140	33-12	12	A
HDM-1-043	甕	土師器	古墳	50	口径16.0推 底径—	器高14.9残	SD101	1990.9	11-147	—	12	A
HDM-1-044	甕	土師器	古墳	不明	口径12.6推 底径—	器高10.6残	SD101	1990.9	12-149	27-49	12	A
HDM-1-045	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高17.6残	SD101	1990.9	12-150	27-50	12	A
HDM-1-046	甕	土師器	古墳	不明	口径18.6推 底径—	器高6.9残	SD101	1990.9	12-152	27-48	12	A
HDM-1-047	甕	土師器	古墳	不明	口径15.6推 底径—	器高6.8	SD101	1990.9	12-153	27-47	12	A
HDM-1-048	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高9.7	SD101	1990.9	12-154	—	12	A
HDM-1-049	甕	土師器	古墳	不明	口径18.6推 底径—	器高13.9残	SD101	1990.9	13-148	31-80	12	A
HDM-1-050	甕	土師器	古墳	不明	口径15.6推 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	13-155	30-75	12	A
HDM-1-051	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高10.7残	SD101	1990.9	13-156	24-29	13	A
HDM-1-052	甕	土師器	古墳	不明	口径18.4推 底径—	器高8.7残	SD101	1990.9	13-157	30-77	13	A
HDM-1-053	甕	土師器	古墳	不明	口径13.2推 底径—	器高7.4残	SD101	1990.9	15-160	24-23	13	A
HDM-1-054	甕	土師器	古墳	不明	口径15.8推 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	15-161	30-74	13	A
HDM-1-055	甕	土師器	古墳	不明	口径15.7 底径—	器高9.8残	SD101	1990.9	15-162	25-33	13	A
HDM-1-056	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	15-163	24-28	13	A
HDM-1-057	甕	土師器	古墳	不明	口径15.8推 底径—	器高13.6残	SD101	1990.9	15-164	23-21	13	A
HDM-1-058	甕	土師器	古墳	不明	口径15.2推 底径—	器高6.7残	SD101	1990.9	14-158	30-73	13	A
HDM-1-059	甕	土師器	古墳	不明	口径16.4推 底径—	器高11.1残	SD101	1990.9	14-159	23-18	13	A
HDM-1-060	甕	土師器	古墳	不明	口径14.7 底径—	器高12.4残	SD101	1990.9	14-165	29-66	13	A

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量(cm,g)	遺構名	出土年月	実測図番号	結語No.番号	コナリ番号	A,B別
HDM-1-061	甕	土師器	古墳	不明	口径18.0推 底径—	器高11.5残	SD101	1990.9	14-166	24-31	13	A
HDM-1-062	甕	土師器	古墳	不明	口径17.4推 底径—	器高13.5	SD101	1990.9	16-167	31-79	13	A
HDM-1-063	甕	土師器	古墳	不明	口径16.0推 底径—	器高10.6	SD101	1990.9	16-168	31-82	13	A
HDM-1-064	甕	土師器	古墳	不明	口径16.2推 底径—	器高12.9残	SD101	1990.9	16-169	28-56	13	A
HDM-1-065	甕	土師器	古墳	不明	口径18.0推 底径—	器高9.9残	SD101	1990.9	16-170	23-39	13	A
HDM-1-066	甕	土師器	古墳	不明	口径17.8推 底径—	器高12.3残	SD101	1990.9	17-171	28-57	13	A
HDM-1-067	甕	土師器	古墳	不明	口径14.4推 底径—	器高8.4残	SD101	1990.9	17-172	23-14	13	A
HDM-1-068	甕	土師器	古墳	不明	口径18.2推 底径—	器高8.5残	SD101	1990.9	17-173	23-22	13	A
HDM-1-069	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高11.1残	SD101	1990.9	17-174	29-65	14	A
HDM-1-070	甕	土師器	古墳	不明	口径12.6推 底径—	器高7.7残	SD101	1990.9	18-175	23-12	14	A
HDM-1-071	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	18-176	25-38	14	A
HDM-1-072	甕	土師器	古墳	35	口径14.7 底径—	器高27.4残	SD101	1990.9	19-177	32-8	14	A
HDM-1-073	甕	土師器	古墳	不明	口径19.6推 底径—	器高9.3残	SD101	1990.9	18-183	28-58	14	A
HDM-1-074	甕	土師器	古墳	不明	口径17.0推 底径—	器高12.7残	SD101	1990.9	18-184	22-9	14	A
HDM-1-075	甕	土師器	古墳	不明	口径17.0推 底径—	器高9.8	SD101	1990.9	18-185	23-20	14	A
HDM-1-076	甕	土師器	古墳	不明	口径15.9 底径—	器高9.1	SD101	1990.9	20-186	29-67	14	A
HDM-1-077	甕	土師器	古墳	不明	口径17.2推 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	20-187	24-32	14	A
HDM-1-078	甕	土師器	古墳	不明	口径16.0推 底径—	器高11.2残	SD101	1990.9	20-188	23-19	15	A
HDM-1-079	甕	土師器	古墳	不明	口径18.0推 底径—	器高11.4残	SD101	1990.9	20-189	29-63	15	A
HDM-1-080	甕	土師器	古墳	不明	口径— 底径—	器高4.0残	SD101	1990.9	21-210	17-16	15	A
HDM-1-081	甕	土師器	古墳	不明	口径18.7 底径9.8	器高19.2残	SD101	1990.9	21-212	33-11	15	A
HDM-1-082	甕	土師器	古墳	不明	口径— 底径—	器高17.3残	SD101	1990.9	21-217	31-84	15	A
HDM-1-083	甕	土師器	古墳	不明	口径— 底径—	器高14.6残	SD101	1990.9	21-218	—	15	A
HDM-1-084	甕	土師器	古墳	不明	口径16.6推 底径—	器高6.4残	SD101	1990.9	22-220	24-25	15	A
HDM-1-085	甕	土師器	古墳	不明	口径13.6推 底径—	器高6.7残	SD101	1990.9	22-221	31-59	15	A
HDM-1-086	甕	土師器	古墳	不明	口径15.9推 底径—	器高6.5残	SD101	1990.9	22-222	29-64	15	A
HDM-1-087	甕	土師器	古墳	不明	口径13.8推 底径—	器高6.5残	SD101	1990.9	22-223	29-65	15	A
HDM-1-088	甕	土師器	古墳	不明	口径16.2推 底径—	器高6.0残	SD101	1990.9	22-224	29-151	15	A
HDM-1-089	甕	土師器	古墳	不明	口径12.8推 底径—	器高8.5残	SD101	1990.9	22-225	30-69	15	A
HDM-1-090	甕	土師器	古墳	不明	口径18.0推 底径—	器高5.6残	SD101	1990.9	22-226	23-17	15	A

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量(cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書図番号	コナリ番号	A/B別	
HDM-1-091	甕	土師器	古墳	不明	口径15.0推 底径—	器高4.2残	SD101	1990.9	22-227	23-11	15	A	
HDM-1-092	甕	土師器	古墳	不明	口径13.2推 底径—	器高5.6残	SD101	1990.9	23-228	—	15	A	
HDM-1-093	甕	土師器	古墳	不明	口径13.6推 底径—	器高6.7残	SD101	1990.9	23-229	23-13	15	A	
HDM-1-094	壺	土師器	古墳	80	口径15.0 底径—	器高26.6残	SD101	1990.9	25-146	21-12	16	A	
HDM-1-095	壺	土師器	古墳	完形	口径11.8 底径—	器高19.5残	SD101	1990.9	24-2	32-2	16	A	
HDM-1-096	壺	土師器	古墳	不明	口径13.0 底径—	器高8.7残	SD101	1990.9	24-117	19-2	16	A	
HDM-1-097	壺	土師器	古墳	30	口径13.2推 底径—	器高15.9残	SD101	1990.9	24-142	19-1	16	A	
HDM-1-098	壺	土師器	古墳	不明	口径9.0 底径—	器高7.4残	SD101	1990.9	24-191	32-9	16	A	
HDM-1-099	壺	土師器	古墳	不明	口径15.9 底径—	器高15.9残	SD101	1990.9	27-143	20-9	16	A	
HDM-1-100	壺	土師器	古墳	不明	口径13.7 底径—	器高20.8残	SD101	1990.9	27-144	19-8	17	A	
HDM-1-101	壺	土師器	古墳	40	口径15.4推 底径5.8	器高27.8残	SD101	1990.9	26-145	21-11	17	A	
HDM-1-102	壺	土師器	古墳	不明	口径— 底径—	器高10.7残	SD101	1990.9	27-190	19-3	17	A	
HDM-1-103	壺	土師器	古墳	不明	口径17.0推 底径—	器高4.5残	SD101	1990.9	27-230	19-6	17	A	
HDM-1-104	壺	土師器	古墳	不明	口径— 底径—	器高9.8残	SD101	1990.9	26-211	19-4	17	A	
HDM-1-105	壺	土師器	古墳	不明	口径19.6 底径—	器高9.6残	SD101	1990.9	26-219	19-7	17	A	
HDM-1-106	壺	土師器	古墳	不明	口径— 底径7.8	器高20.1残	SD101	1990.9	28-231	20-10	17	A	
HDM-1-107	小型丸底壺	土師器	古墳	50	口径9.6推 底径—	器高7.6残	SD101	1990.9	30-196	19-5	17	A	
HDM-1-108	鉢	土師器	古墳	50	口径10.2推 底径—	器高6.8残	SD101	1990.9	29-179	17-1	18	A	
HDM-1-109	鉢	土師器	古墳	完形	口径22.2 底径—	器高11.7残	SD101	1990.9	31-59	—	—	18	A
HDM-1-110	鉢	土師器	古墳	完形	口径10.0推 底径—	器高6.9残	SD101	1990.9	29-64	17-14	18	A	
HDM-1-111	鉢	土師器	古墳	60	口径12.8推 底径—	器高7.8残	SD101	1990.9	29-65	17-11	18	A	
HDM-1-112	鉢	土師器	古墳	90	口径11.6推 底径—	器高5.2残	SD101	1990.9	29-151	17-15	18	A	
HDM-1-113	鉢	土師器	古墳	20	口径13.0推 底径—	器高7.8残	SD101	1990.9	29-178	17-6	18	A	
HDM-1-114	鉢	土師器	古墳	不明	口径13.8推 底径—	器高5.1残	SD101	1990.9	29-180	17-9	18	A	
HDM-1-115	鉢	土師器	古墳	20	口径13.2推 底径—	器高4.8残	SD101	1990.9	29-181	17-8	18	A	
HDM-1-116	鉢	土師器	古墳	40	口径10.8推 底径—	器高6.8	SD101	1990.9	29-182	17-13	18	A	
HDM-1-117	鉢	土師器	古墳	70	口径32.6 底径7.7	器高22.0残	SD101	1990.9	31-213	18-17	19	A	
HDM-1-118	鉢	土師器	古墳	不明	口径12.0推 底径—	器高3.8残	SD101	1990.9	30-192	17-3	19	A	
HDM-1-119	鉢	土師器	古墳	不明	口径12.2推 底径—	器高6.0残	SD101	1990.9	30-193	17-5	19	A	
HDM-1-120	鉢	土師器	古墳	30	口径11.0 底径—	器高6.9残	SD101	1990.9	30-194	17-12	19	A	

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量(cm,g)	遺構名	出土年月	実測図番号	結晶番号	コナリ番号	A,B別
HDM-1-121	鉢	土師器	古墳	70	口径10.6推 底径—	器高6.0	SD101	1990.9	30-195	17-2	19	A
HDM-1-122	鉢	土師器	古墳	不明	口径12.8 底径—	器高3.1残	SD101	1990.9	30-215	17-4	19	A
HDM-1-123	鉢	土師器	古墳	30	口径14.0推 底径—	器高9.0	SD101	1990.9	30-216	17-7	19	A
HDM-1-124	坏	土師器	古墳	40	口径9.0推 底径—	器高2.2残	SD101	1990.9	32-197	14-1	20	A
HDM-1-125	坏	土師器	古墳	40	口径8.4推 底径—	器高2.7	SD101	1990.9	32-198	14-2	20	A
HDM-1-126	坏	土師器	古墳	30	口径8.2推 底径—	器高3.0残	SD101	1990.9	32-199	14-3	20	A
HDM-1-127	坏	土師器	古墳	25	口径10.0推 底径—	器高2.8残	SD101	1990.9	32-200	14-5	20	A
HDM-1-128	坏	土師器	古墳	60	口径8.4推 底径—	器高3.1	SD101	1990.9	32-201	14-4	20	A
HDM-1-129	坏	土師器	古墳	70	口径10.6 底径—	器高3.0残	SD101	1990.9	32-202	14-6	20	A
HDM-1-130	坏	土師器	古墳	40	口径12.0推 底径—	器高3.4残	SD101	1990.9	32-203	14-14	20	A
HDM-1-131	坏	土師器	古墳	20	口径12.2推 底径—	器高2.8	SD101	1990.9	32-204	14-15	20	A
HDM-1-132	坏	土師器	古墳	45	口径11.0 底径—	器高3.7	SD101	1990.9	32-205	14-7	20	A
HDM-1-133	坏	土師器	古墳	50	口径11.2 底径5.2	器高3.2	SD101	1990.9	32-206	14-13	20	A
HDM-1-134	坏	土師器	古墳	20	口径15.6推 底径—	器高3.8残	SD101	1990.9	32-207	32-4	20	A
HDM-1-135	坏	土師器	古墳	不明	口径— 底径7.8推	器高1.6	SD101	1990.9	32-208	—	20	A
HDM-1-136	坏	土師器	古墳	70	口径10.4 底径5.2	器高2.6	SD101	1990.9	32-214	14-12	20	A
HDM-1-137	坏	土師器	古墳	95	口径11.5 底径—	器高4.0残	SD101	1990.9	38-113	14-10	20	A
HDM-1-138	坏	土師器	古墳	80	口径12.7 底径—	器高4.0残	SD101	1990.9	38-114	14-11	20	A
HDM-1-139	坏	土師器	古墳	95	口径11.0 底径—	器高3.1	SD101	1990.9	38-115	14-9	20	A
HDM-1-140	坏	土師器	古墳	90	口径10.4推 底径—	器高4.4残	SD101	1990.9	38-116	14-8	20	A
HDM-1-141	台付坏	土師器	古墳	80	口径14.4 底径7.3	器高5.9	SD101	1990.9	38-79	32-1	20	A
HDM-1-142	台付坏	土師器	古墳	不明	口径— 底径8.8	器高4.5残	SD101	1990.9	38-104	32-5	20	A
HDM-1-143	台付坏	土師器	古墳	60	口径— 底径11.0	器高6.3残	SD101	1990.9	37-105	16-22	20	A
HDM-1-144	台付坏	土師器	古墳	50	口径13.2推 底径7.0	器高6.6残	SD101	1990.9	38-109	32-2	20	A
HDM-1-145	台付坏	土師器	古墳	不明	口径13.6推 底径—	器高4.1残	SD101	1990.9	38-110	32-3	20	A
HDM-1-146	台付坏	土師器	古墳	不明	口径— 底径9.4	器高4.0残	SD101	1990.9	38-111	16-29	20	A
HDM-1-147	台付坏	土師器	古墳	不明	口径— 底径8.8	器高1.9残	SD101	1990.9	38-112	16-28	20	A
HDM-1-148	高坏	土師器	古墳	不明	口径21.0 底径—	器高6.5残	SD101	1990.9	33-232	15-5	21	A
HDM-1-149	高坏	土師器	古墳	不明	口径20.0 底径—	器高6.7残	SD101	1990.9	33-60	15-3	21	A
HDM-1-150	高坏	土師器	古墳	80	口径20.4 底径—	器高12.0残	SD101	1990.9	33-61	15-6	21	A

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	方法	量(cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書番号	コナリ字番号	A-B別
HDM-1-151	高坏	土師器	古墳	80	口径—— 底徑12.4	器高 4.0残	SD101	1990.9	33-76	15-8	21	A
HDM-1-152	高坏	土師器	古墳	80	口径20.3 底徑11.7	器高13.7	SD101	1990.9	33-77	15-7	21	A
HDM-1-153	高坏	土師器	古墳	40	口径13.8 底徑——	器高 7.1残	SD101	1990.9	36-91	16-17	21	A
HDM-1-154	高坏	土師器	古墳	25	口径12.4推 底徑——	器高 5.6残	SD101	1990.9	36-92	16-16	21	A
HDM-1-155	高坏	土師器	古墳	25	口径—— 底徑20.0推	器高 3.7残	SD101	1990.9	36-93	16-21	21	A
HDM-1-156	高坏	土師器	古墳	不明	口径12.0推 底徑——	器高 4.3残	SD101	1990.9	36-209	16-15	21	A
HDM-1-157	高坏	土師器	古墳	80	口径10.3 底徑 8.6残	器高 7.7	SD101	1990.9	34-78	16-14	21	A
HDM-1-158	高坏	土師器	古墳	30	口径25.2 底徑——	器高 6.3残	SD101	1990.9	34-80	15-4	21	A
HDM-1-159	高坏	土師器	古墳	40	口径18.4 底徑——	器高 9.6残	SD101	1990.9	34-81	15-2	21	A
HDM-1-160	高坏	土師器	古墳	不明	口径20.4推 底徑——	器高 5.9残	SD101	1990.9	34-82	15-1	21	A
HDM-1-161	高坏	土師器	古墳	40	口径—— 底徑14.4	器高 8.1残	SD101	1990.9	34-83	15-13	22	A
HDM-1-162	高坏	土師器	古墳	40	口径—— 底徑10.8	器高 7.8残	SD101	1990.9	34-84	15-11	22	A
HDM-1-163	高坏	土師器	古墳	40	口径—— 底徑12.0推	器高 7.2残	SD101	1990.9	35-85	15-10	22	A
HDM-1-164	高坏	土師器	古墳	50	口径—— 底徑13.0推	器高 7.9残	SD101	1990.9	35-86	15-9	22	A
HDM-1-165	高坏	土師器	古墳	70	口径—— 底徑13.0	器高 9.1残	SD101	1990.9	35-87	15-12	22	A
HDM-1-166	高坏	土師器	古墳	50	口径12.4 底徑18.8	器高 9.8	SD101	1990.9	35-88	16-19	22	A
HDM-1-167	高坏	土師器	古墳	50	口径11.6推 底徑——	器高 7.0残	SD101	1990.9	35-89	16-18	22	A
HDM-1-168	高坏	土師器	古墳	40	口径—— 底徑19.2	器高 7.0残	SD101	1990.9	35-90	16-20	22	A
HDM-1-169	器台	土師器	古墳	60	口径—— 底徑11.0	器高 6.2残	SD101	1990.9	37-66	16-26	22	A
HDM-1-170	器台	土師器	古墳	80	口径—— 底徑11.3	器高 7.7	SD101	1990.9	37-67	16-30	22	A
HDM-1-171	器台	土師器	古墳	60	口径—— 底徑12.5	器高 6.0残	SD101	1990.9	37-68	16-24	22	A
HDM-1-172	器台	土師器	古墳	40	口径—— 底徑 9.2	器高 6.3残	SD101	1990.9	37-106	16-25	22	A
HDM-1-173	器台	土師器	古墳	60	口径—— 底徑11.6	器高 5.9	SD101	1990.9	37-107	16-23	22	A
HDM-1-174	器台	土師器	古墳	30	口径—— 底徑12.0	器高 5.4残	SD101	1990.9	37-108	16-27	22	A
HDM-1-175	甕	弥生土器	弥生	不明	口径20.0推 底徑——	器高 6.3残	SH102	1990.9	39-50	5-2	23	A
HDM-1-176	甕	弥生土器	弥生	不明	口径19.6推 底徑——	器高10.8残	SH102	1990.9	39-51	5-1	23	A
HDM-1-177	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—— 底徑 7.2	器高17.8残	SH102	1990.9	40-52	5-3	23	A
HDM-1-178	甕	弥生土器	弥生	不明	口径18.8 底徑——	器高 4.5残	SD103	1990.9	42-48	——	23	A
HDM-1-179	甕	弥生土器	弥生	不明	口径21.4 底徑——	器高 4.5	SD103	1990.9	42-49	——	23	A
HDM-1-180	投弾	土製器	弥生	不明	長さ 5.5 直徑 2.9	SD101	SD103	1990.9	41-41	——	23	A

番号	名	称	種別	時代	残存率(%)	法	量(cm,g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書番号	コンナ番号	A,Bの別
HDM-1-181	甕		土師器	古墳	完形	口径14.2推 底径—	器高25.0残	SE104	1990.9	43-42	12-1	23	A
HDM-1-182	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径12.2推	器高3.4残	SE109	1990.9	48-12	8-6	23	A
HDM-1-183	甕		弥生土器	弥生	85	口径12.4 底径6.4	器高19.5	SK105	1990.9	45-39	8-1	23	A
HDM-1-184	甕		弥生土器	弥生	40	口径18.9 底径—	器高13.0残	SK105	1990.9	45-56	8-2	24	A
HDM-1-185	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径6.5	器高19.0残	SK105	1990.9	46-57	8-3	24	A
HDM-1-186	甕		弥生土器	弥生	30	口径— 底径7.6推	器高24.6残	SK105	1990.9	44-38	8-4	24	A
HDM-1-187	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径6.0	器高11.0残	SK107	1990.9	47-11	8-5	24	A
HDM-1-188	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径31.0	器高4.5残	SK301	1990.9	50-3	37-13	24	A
HDM-1-189	甕		弥生土器	弥生	不明	口径24.0推 底径—	器高10.9残	SK301	1990.9	55-14	37-14	24	A
HDM-1-190	甕		弥生土器	弥生	不明	口径22.8推 底径—	器高4.5残	SK301	1990.9	55-15	—	24	A
HDM-1-191	甕		弥生土器	弥生	不明	口径37.0推 底径—	器高4.7残	SK301	1990.9	55-16	36-5	24	A
HDM-1-192	甕		弥生土器	弥生	不明	口径21.6推 底径—	器高15.2残	SK301	1990.9	56-17	36-2	24	A
HDM-1-193	甕		弥生土器	弥生	不明	口径21.4推 底径—	器高17.5残	SK301	1990.9	56-18	36-1	24	A
HDM-1-194	甕		弥生土器	弥生	20	口径21.4推 底径—	器高16.2残	SK301	1990.9	57-19	—	25	A
HDM-1-195	甕		弥生土器	弥生	30	口径22.4 底径—	器高17.7残	SK301	1990.9	57-20	36-3	25	A
HDM-1-196	甕		弥生土器	弥生	不明	口径22.0推 底径—	器高16.0残	SK301	1990.9	58-21	36-4	25	A
HDM-1-197	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.2	器高13.7残	SK101	1990.9	59-22	36-10	25	A
HDM-1-198	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.0	器高10.1残	SK101	1990.9	36-23	36-11	25	A
HDM-1-199	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.0	器高12.7残	SK101	1990.9	59-24	36-8	25	A
HDM-1-200	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.0	器高8.3残	SK101	1990.9	59-25	36-7	25	A
HDM-1-201	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径6.1	器高6.9残	SK101	1990.9	59-26	36-6	25	A
HDM-1-202	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.2	器高5.9残	SK101	1990.9	59-27	—	25	A
HDM-1-203	甕		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径6.6	器高12.7残	SK101	1990.9	59-28	36-9	25	A
HDM-1-204	壺		弥生土器	弥生	不明	口径21.6推 底径—	器高4.7残	SK101	1990.9	53-6	—	25	A
HDM-1-205	壺		弥生土器	弥生	不明	口径24.6推 底径—	器高2.8残	SK101	1990.9	53-7	37-15	25	A
HDM-1-206	壺		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径—	器高4.7残	SK101	1990.9	53-8	37-17	25	A
HDM-1-207	壺		弥生土器	弥生	不明	口径31.0推 底径—	器高6.4残	SK101	1990.9	53-13	37-16	26	A
HDM-1-208	壺		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.0推	器高4.5残	SK101	1990.9	54-9	37-19	26	A
HDM-1-209	壺		弥生土器	弥生	不明	口径— 底径5.0推	器高3.4残	SK101	1990.9	54-10	38-18	26	A
HDM-1-210	鉢		弥生土器	弥生	不明	口径19.0推 底径—	器高7.3残	SK101	1990.9	52-5	37-20	26	A

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	美測図番号	報告書番号	コンテナ番号	A・Bの別
HDM-1-211	器台	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径9.4推 器高7.1残	SK302	1990.9	51-4	37-21	26	A
HDM-1-212	蓋	弥生土器	弥生	不明	口径6.0	底径— 器高10.6残	SK302	1990.9	61-29	37-5	26	A
HDM-1-213	甕	弥生土器	弥生	不明	口径22.0推	底径— 器高4.7残	SK302	1990.9	62-30	37-3	26	A
HDM-1-214	甕	弥生土器	弥生	不明	口径19.2推	底径— 器高5.1残	SK302	1990.9	62-31	37-2	26	A
HDM-1-215	甕	弥生土器	弥生	不明	口径16.4推	底径— 器高9.8残	SK302	1990.9	62-32	37-1	26	A
HDM-1-216	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径— 器高7.5残	SK302	1990.9	63-33	—	26	A
HDM-1-217	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径— 器高5.1残	SK302	1990.9	63-34	—	26	A
HDM-1-218	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径— 器高1.6残	SK302	1990.9	63-35	—	26	A
HDM-1-219	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径— 器高2.2残	SK302	1990.9	63-36	—	26	A
HDM-1-220	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径6.5推 器高12.5残	SK302	1990.9	64-37	37-4	26	A
HDM-1-221	紡錘車	弥生土器	弥生	不明	口径4.0	厚さ1.3 孔径0.5~0.6	SK303	1990.9	65-40	—	26	A
HDM-1-222	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径— 器高6.3残	SK305	1990.9	67-46	—	26	A
HDM-1-223	甕	弥生土器	弥生	不明	口径24.4推	底径— 器高8.8残	SK305	1990.9	67-47	—	26	A
HDM-1-224	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—	底径8.9推 器高9.5残	SK305	1990.9	66-45	—	26	A
HDM-1-225	甕	弥生土器	弥生	不明	口径19.1推	底径— 器高3.3残	SK305	1990.9	68-70	—	26	A
HDM-1-226	甕	土師器	古墳	不明	口径—	底径— 器高2.0残	P1	1990.9	68-71	—	26	A
HDM-1-227	甕	土師器	古墳	不明	口径—	底径— 器高2.4残	P4	1990.9	68-72	—	26	A
HDM-1-228	甕	土師器	古墳	不明	口径—	底径— 器高5.2残	P11	1990.9	68-73	—	26	A
HDM-1-229	甕	土師器	古墳	不明	口径—	底径6.6推 器高8.1残	P2	1990.9	49-69	—	26	A
HDM-1-230	甕	土師器	古墳	不明	口径—	底径8.4推 器高12.2残	P12	1990.9	70-75	—	26	A
HDM-1-231	壺	土師器	古墳	不明	口径—	底径— 器高—	P11	1990.9	69-74	—	26	A

久富遺跡(1区)I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
HDM-1	土師器・弥生土器破片	弥生~古墳	SH102, SD103, SK105, SK106, SK107, SK108, SE109, SK301, SK304, 近世溝	1990.9	1	18	
HDM-1	土師器・弥生土器破片	弥生~古墳	SD101 (埋土下層, セクシオン1, 2)	1990.9	2	12	
HDM-1	土師器・弥生土器破片	弥生~古墳	SD101 (セクシオン1, 2)	1990.9	3	7	
HDM-1	土師器・弥生土器破片	弥生~古墳	SD101 (上層, セクシオン以北, 1層, 2層, 2・3層, 3層)	1990.9	4	15	
HDM-1	土師器・弥生土器破片	弥生~古墳	SD101 (セクシオン2, 2・3層)	1990.9	5	17	
HDM-1	土師器・弥生土器破片	弥生~古墳	SK301, SK302, SK303, SK305, P1~P15	1990.9	6	22	

久富遺跡(1区)II種

佐賀市文化財調査報告書第39集

ひさ ども
久 富 遺 跡

平成4年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 福博印刷株式会社
佐賀市兵庫町修理田72-2